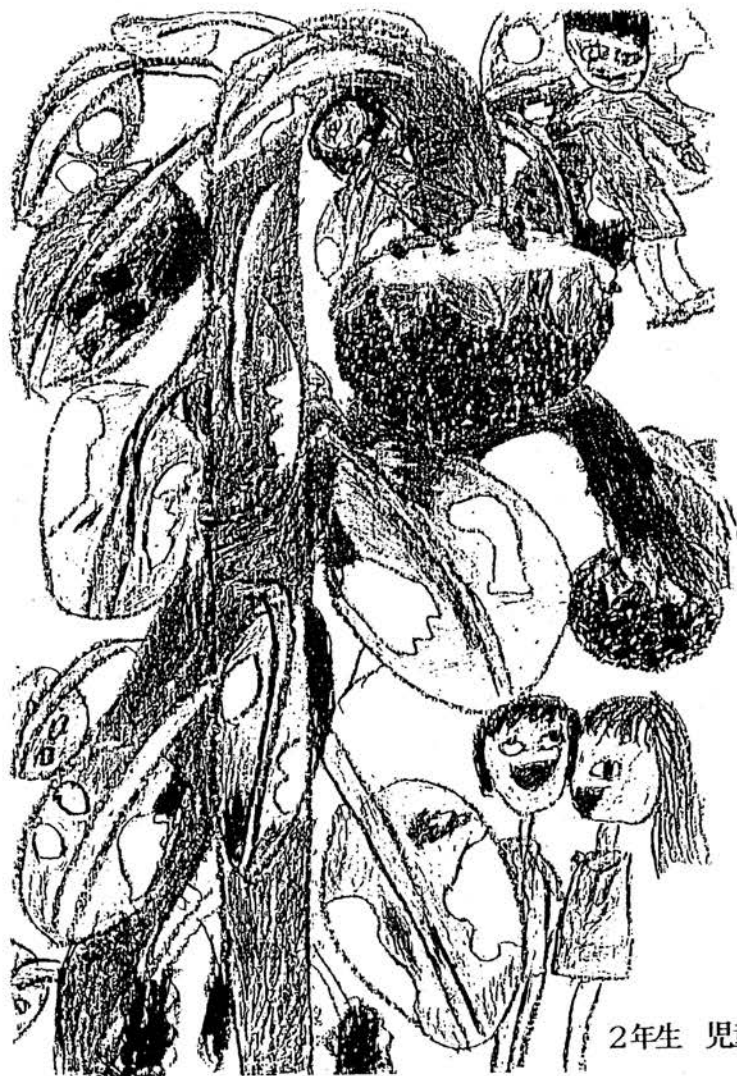


平成元年度

第24回 全国バズ学習研究大会

授業案

平成元年11月10日(金)



2年生 児童作品

土岐市立 泉西小学校

第 1 校 時 公 開

9:50~10:35

年・組	教科等	授業者	教室
1-1	学級会	田中 利枝	1-1
1-3	音楽	鳥潟 弘美	1-3
2-2	社会	中島 康英	2-2
3-3	音楽	西村 美香	3-3
3-4	社会	愛知 美吉	3-4
4-2	音楽	丹羽 稲子	視聴覚教室
4-4	学級会	山本 育代	4-4
5-1	音楽	肥田 絹代	音楽室
5-2	社会	岡本 康彦	5-2
6-1	学級会	三輪 敏成	6-1
特殊	音楽	中島 瑤子	5 組

第1学年 学級会活動指導案

公開 第1校時

教室 1年1組

指導者 田中 利枝

1. 議題名 誕生会のおし物を考えよう

2. 議題設定の理由

入学当初、同じ幼稚園出身の子同士とか、幼稚園のとき同じ組だった子と遊ぶなど、遊ぶ子に片寄りが見られた。また、一人遊びをしている子もいた。5月6月と経過してくるにつれて、友だち同士のつながりが深まっていき、友だちの輪も広がってきた。しかしまた、友だちの中に入れないう子、登校拒否の子、いつも同じ子としか遊ばない子がいたので、一人一人の子が自分の願いや考えを持って話し合い、みんなと一緒に活動できる姿を望み、誕生会を計画した。

4・5月、6月、7月、8・9月、10月と誕生会を5回行なってきた。その中で友だちの知らなかった面を知ったり、ゲームなどを通して席の離れた子ともだちが親しくなってきた。

2学期になり、席がかわった。隣り同士はかなり親しくなってきたが、グループの子全員となると弱い。そこで、グループのおし物を考えることを通して仲良く話し合いができ、協力してできることを願ってこの議題を設定した。

3. 指導観

① 議題のとらえ——価値観

1年生の学級会では、自分の願いや考えをもち、みんなと一緒に頑張って一杯活動し、くらしを楽しんでいけたらよいと思っている。

誕生会は実施する過程で、活動の仕方の理解や係の分担などがあり、会を楽しく進めるために工夫していく要素をたくさん含んでいるとともに、活動

意欲をわかせる素材であり、望ましい人間関係の育成をはかることができるので、1年生の学級会の活動として適していると思う。また、誕生月を迎えた子をクラスみんなでお祝いすることを通して、個を認めることができる。

今までは、全員でプログラムを決め、誕生会で行なうゲームや歌などを決めてきた。また、一人一役の係を受け持つこともしてきた。今回はグループで出し物を考えることにより、全員が誕生会を自分たちのものとして考えたり、行動したりできるようになり、協力して1つのことをやり遂げるという喜びも味わえると思う。

②児童の実態

「楽しい誕生会にしよう」をめあてに、5月より誕生会に取り組んできた。司会者や指揮者を決めるとき、希望者が多いので、事前に話したり指揮をしたりして決めた。また、ゲームは、学級会で実際にやり決めたことにより、やり方やルールが分かり、誕生会当日はスムーズにできた。7月からゲーム係をつくり、ゲームの説明や指示をやらせ、子どもが活躍できる場を増やした。指示など1つかり言えなかったが、それを聞いて自分たちでやろうとする態度が表れてきた。一人一役の係も、決められた係はやれるが、積極的にやることがあまりなく、教師の指示を受けてやることが多い。何回も繰り返しやることにより、見通しを持ち意欲的に活動できるようにさせたい。

1学期は、学級会とはどんなものかをつかませるために、司会も記録も教師が行ってきた。だいたい雰囲気ややり方も分かってきたので、2学期から司会・記録の係をやり始めたところである。

③学級集団づくり

1年生では、まず隣り同士が親しくなることが大切だと考え、ペアの活動を多く行ってきた。朝の会・帰りの会での握手、顔を見合っでの挨拶に始まり、算数・音楽・国語などの教科でも、たくさん取り入れてきた。その結果、かなり親しくなり、正しくできていたかを見合ったり、教えたりできるようになってきた。

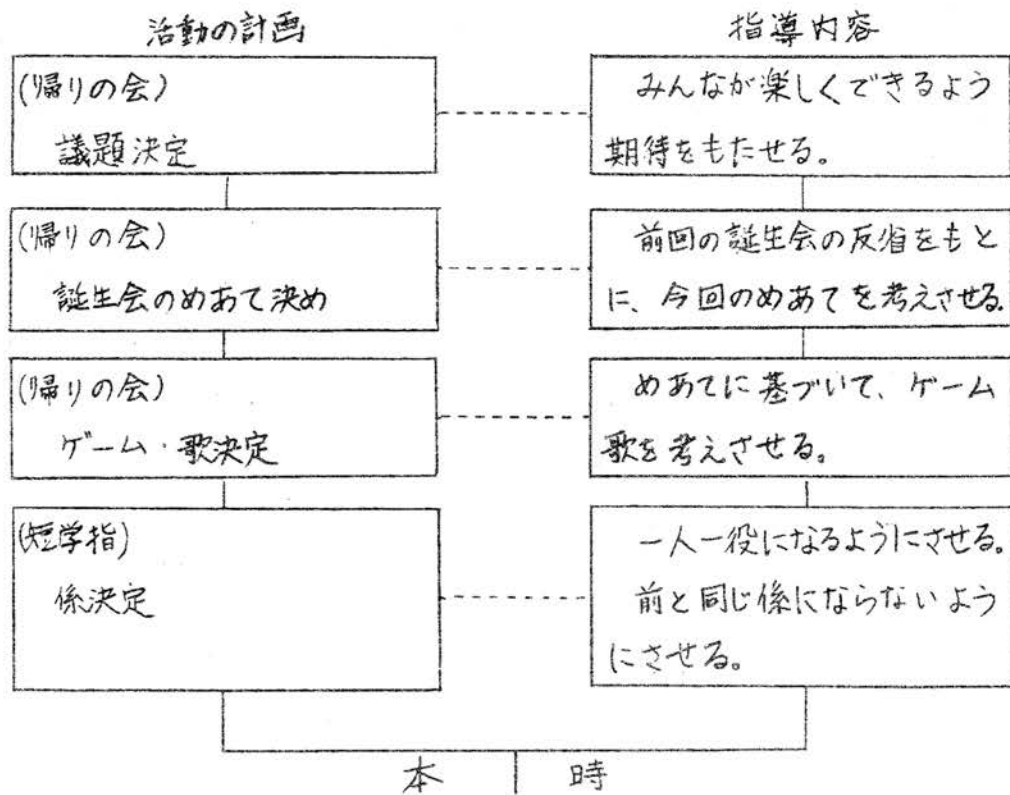
学級会は一斉で話し合うことが多く、ペアの活動を行なうことがなかった。7月に「ゲームは何かやりたいか」を隣り同士で話し合わせた。初めてということもあって、なかなかスムーズにはいかなかったが、ぶたん発言できない子どもも、隣り同士だと話せた。その子たちが話す機会を与えられ、話せただけでもよかったと思っている。

グループ活動は、1年生の発達段階から考えるとむづかしいかもしれないが、初歩的段階として、給食を一緒に食べることや国語の本読みなどを行なってきた。グループを意識して行動できる子はほとんどいないが、他の活動もさせながら、少しずつ意識させていきたいと思う。

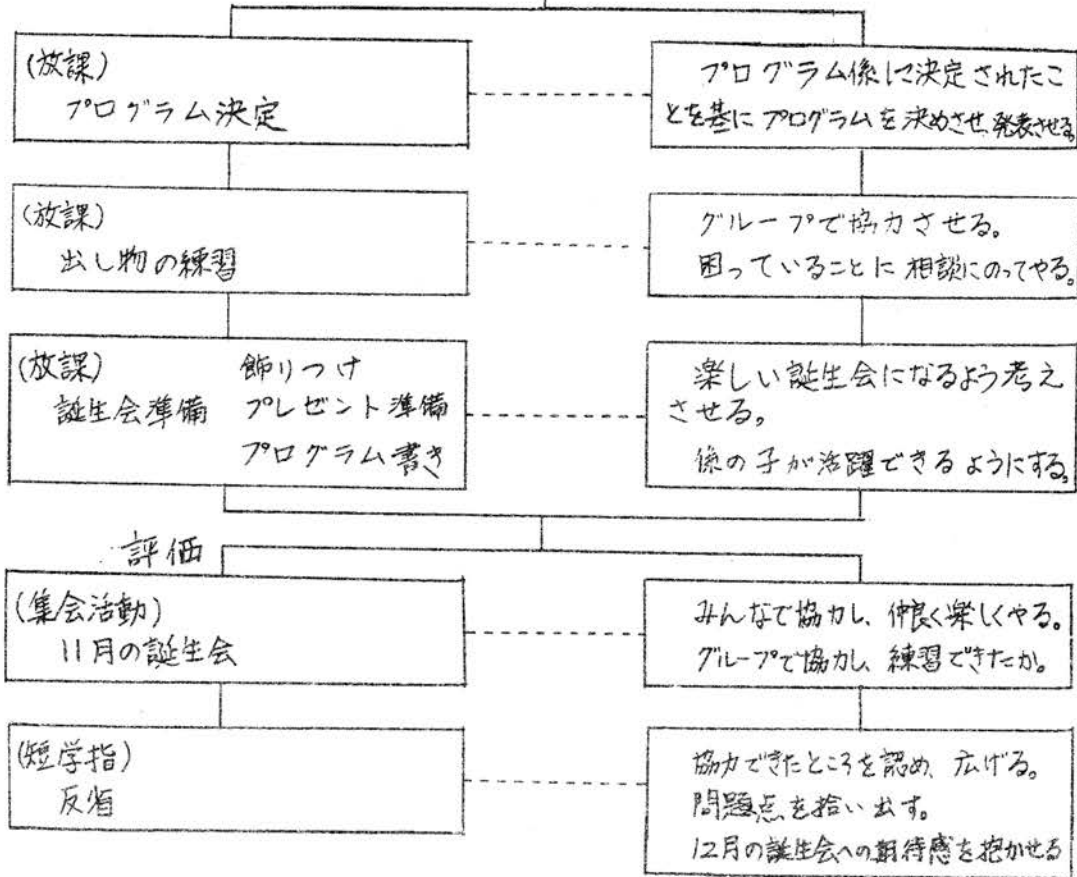
4. 実施計画

身につけたい力

- 自分たちで考え、実践していく力をつける。
- ペア・グループで仲良く話し合いができる。



	話し合い活動	指導 援助
つかむ	・グループで出し物をしよう。	・協力して、1つのことをなし送げる意義を分からせる。
さぐる	・どんな出し物したらよいか考え、決める。 (練習する)	・短い時間でできることを考えさせる。 ・相談の手とまらないところは、一緒に考えてやる。 ・練習できるように、画用紙・紙など準備しておく。
まとめる	・どんな出し物したらよいか分かり、練習の見通しをもつ。	・かんばってやろうという、意欲をもたせる。 ・誕生会への期待をもたせる。



ープの出し物を相談し、決めることができる。

参加できる。

児童の活動と予想される児童の反応	指導と留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○これから学級会を始めます。 ○議題、提案理由を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・10月の誕生会のなぞなぞでは、出たい子が出た。手品のときも、同じような子が出ているので、もっと楽しくするために、全員出るとよい。 しかし、時間がないから、グループで出し物をやるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○10月の誕生会を思い出させる。 ○わからないことがあったら、質問させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ついて話し合います。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ○あおてについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい物を作る。 ・大きな声で話す。 ・協力してやる。 ○発表し、決める。 ○どんな出し物かやりたいか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・なぞなぞ ・劇 ・歌 ・鍵盤ハーモニカ ・紙芝居 ・合奏 ・手品 ○グループになり、相談する。 <ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌いたい。 ・私は紙芝居かやりたい。 ・合奏かやりたい。 賛成。 ○グループごとに発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・1班は紙芝居をやります。 ・2班は歌と合奏をやります。 ○どうやってやったらよいか話し合う。 (誰か、何を、どうやってやるか。) 相談できたところから、練習開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短時間で話し合わせ、決定できるように援助していく。 ○板書する。(決定事項は、よわかるよう赤枠) ○板書する。(発言の足場となるよう) ○Gで協力してやることを意識させる。 ○相談しやすいよう、机の位置をかえる。 ○G全員の子の意見を聞き、決めさせる。 ○発表はGの代表。板書する。 ○同じ物ばかりだったら、違った物もあった方が楽しいことを話し、もう一度考えさせる。しかし、今回は初めてであるので、意欲を大切にし、強制はしない。 ○決まったところから練習や準備にかかると。 ○画用紙・紙・楽器などを用意しておく。 ○困っているGは、相談にのる。
<ul style="list-style-type: none"> ○今日決まったことを発表します。めあては～です。出し物は～です。 ○先生の話聞く。 ○これで学級会を終わります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先生の話 <ul style="list-style-type: none"> ・参加態度について ・話し合いについて(協力できていたGの紹介) ・司会・書記について ・11月の誕生会への期待感を持たせる

て、出し物を決定できたか。(発言・話し合い内容・決定事項)

考えを話すことができたか。(挙手、ペア・グループでの話し合い)

5. 本時の展開

- ① 本時の目標 (認知目標)-----楽しい誕生会になるよう、グル
(態度目標)-----自分の考えを持ち、話し合いに

② 展開

	学習のねらい	話し合いの進行	形態
つかむ	問題点に気づき、話し合うことができる。	1. 始めのあいさつ 2. 議題の紹介および提案理由の説明 3. 話し合いの確認	一斉
よくなる	出し物をやるときのめあてを考えることができる。 グループで協力し、楽しい誕生会になるよう、出し物を相談し、決めることができる。	今日は、めあてと出し物に 4. 話し合い ⑦めあてについて ⑧出し物について ⑨やり方について	ペア 一斉 円 一斉
まとめ	決まったことが確認でき、11月の誕生会に期待を持つことができる。	5. 決まったことの発表 6. 先生の話 7. 終わりのあいさつ	一斉

- ③ 評価 (認知目標) 誕生会を楽しくするということを考え
(態度目標) ペア・グループ・全体の中で、自分の

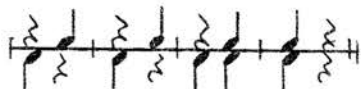
第1学年 音楽科学習指導案

平成元年11月10日 第1校時

1年3組教室(北舎2階西)

鳥島弘美

1 題材名



2. 題材の目標

後打ちを加えたバッテリーの表現に慣れ、フレーズ感や拍子感(ニ拍子)を養う。

3 教材群

- A シャベるでほい
- B おおきなくりのぎのしたで
- C よこらしよ
- D くちぶえふきとこいぬ

4. 指導観

①題材及び教材(よこらしよ)について

今までに、打楽器は、タンブリンと鈴とカスタネットを扱ってきた。タンブリンは、「ぶんぶんぶんの曲で、|||と|||の4つ打ちと3つ打ちのリズム打ちを学習した。また「タンブリンのわの曲では、|・|・|||と||| ||| (7つ打ち)のリズム打ちを学習した。鈴とカスタネットは、「かたむりの曲で「タンブリンのわ」と同じリズム打ちを学習した。

この題材では、既習のリズム形を基に、後打ちを加えたバッテリー(互いに組んでみとまとまりになること)のリズムを学習する。パート別に楽器を変えることにより、強拍と弱拍を音色で表現し、ニ拍子の拍の流れを感じとらせたい。

「よこらしよ」は、第1フレーズがよこらしよの掛け声の跳躍音程をとり、第2フレーズは、第1フレーズを受けた山型になっており、一度終止している。また、第3フレーズは、細かいリズムで、中が下にくぼんだ谷型になっており、長い二分音符で始まる第4フレーズを導き出している。歌詞は、子供たちが神社の石段を登っていく様子を描いたもので、歩く感じのバッテリーのリズム伴奏に乗せて、ニ拍子を感じながら歌わせたい。

本時では、バッテリーのリズム打ちに抵抗があると考えられる。心の中でリズム唱を言いながら打ったり、上手な子を見ながら打ったり、隣の子に肩をたたいてもらいながら打ったりという手だてをとっていきたい。

②児童の実態

今までに、身体でリズムをとりながら歌うことと、どならず、大きな口を開けて歌う指導に力を入れてきた。そのため、多くの子がリズムをとりながら歌うことができる。しかし、リズムのとり方にぎこちなさのある子が数人いる。

音程のとれる子は、女子に多く、男子は、はずれたままで歌っている子が大部分である。リズム打ちも、同様で、拍の流れにとれない子は男子に多い。

全体的には、身体表現を好み、楽しく歌うことができる。

③学級集団づくり

音楽の授業だけに限らず、普段から、隣り同士の活動を取り入れるようにしている。朝のあいさつ、帰りのあいさつでは、握手や肩を軽くたたき合ったりして、親近感を持たせるようにしてきた。漢字の書き順の見合いや、算数の問題の出し合いなど、他教科でもペア学習を多く取り入れたことにより、お互いのつながりを意識するようになってきた。

音楽では、ペアで見合い、お互いのいい所を見つけ合うようにしている。しかし、問題点は、音程がとれていなくても、音が合っていてよかったと言ったり、リズム打ちが合っていないけれども、合っていてよかったと言っていたりすることである。自分が音のはずれていたたり、リズム打ちができていなかったりする場合は、不適当なことを言うてしまうのは、しかたのないことかもしれない。しかし、その子なりに、相手のいい所や、こうするともっとよくなる点を見つけようとする心が、音楽的に向上する第一歩であり、人間関係も高まっていくと考える。リズム打ちでは、できなかったところが、できるようになった喜びや、教えたことにより、隣りの子ができるようになった喜びを感じている子がいる。

5. 単元指導計画 <全8時間 本時4時>

音楽的諸能力		身につけたい力		態度	
<ul style="list-style-type: none"> 曲の感じをつかみ、発音に気をつけて明るくはやく歌い方ができる。 拍の流れにのり、リズム打ちやリズム伴奏ができる。 曲に合う楽器の組み合わせや打ち方の工夫をすることができる。 鍵盤ハーモニカで模奏したり、短い旋律を演奏したりできる。 身体表現をしながら楽しく歌うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を体で感じようとする。 声やこぶしに気をつけて歌うように心がける。 レコードや文楽の演奏を、リズムをとりながら聴こうとする。 打楽器に親しむ。 				

	1	2	3	4
目 標	リズムのおもしろさに 気づき楽しく歌うこ とができる。	曲に合わせて、バッテ リーのリズム打ちを見 つけることができる。	情景を想像し、楽しく 身体表現することが できる。	曲に合わせて、バッテ リーのリズム打ちがで きる。
つ か む	①「しゃべるでほい」の 歌詞唱をする ② どのように歌いたいか 話し合う。 明るくはやく歌おう	①「しゃべるでほい」の歌 詞唱をする。 曲に合ったリズム打 ちを見つけてよう	①「よ、こらしよ」の歌詞 唱をする。 気持ちを込めて歌いな がら体を動かそう	①「よ、こらしよ」を身体表 現しながら歌う。 曲に合わせて、二人組 のリズム打ちができる ようになろう
さ ぐ る	③ 歌詞唱を覚える ④ もぐりになって身体表 現しながら歌う。 ⑤「おおきなりのきのし たて」を歌詞唱する ⑥ 身体表現しながら楽し く歌う。	② 歌を聴きながらリ ズム打ちをする。(個) ③ フーズごとにリズム打 ちを発表し、どのリズ ム打ちが曲に合ってい るかを見つけ合う。 (ハヤ) - (ウ) - (ハヤ) ④ 3フーズは 組み合わ せて、バッテリーのリズ ム打ちにする。 ⑤ リズム唱をする	② 掛け声あそびをして明 るくのびのある声で歌う。 ③ 階名模唱と歌詞唱を する。 ④ 情景を想像して歌う。 ⑤ 身体表現しながら歌う 1・2 フーズはステップ 3・4 フーズは動作 ⑥ 号車ごとに発表する。	② ひざ打ちと手拍子を 組み合わせてリズム 打ちをする。 ③ バッテリーのリズム打ち で打つ (ハヤ) - (ハヤ) ④ ケル7で練習し、教え 合う。(ウ) ⑤ 発表する
ま と め る	⑦ 二曲とも身体表現 ながら歌う	⑥ 手拍子で打つ		⑦ 全員でバッテリーのリズ ム打ちをする。
評 価	明るくはやくはやくで 歌えたか...	リズム唱や声を意識 した拍打ちができたか。	リズムに合わせての びのびと身体表現が できたか。	曲に合ったバッテリー のリズム打ちができた か。

人間関係に関する態度目標

- ・ 友達表現を聴いて、一つでもいい所を見つけることができる。
- ・ 自分のつまずきを認め、教えてもらおうとすることができる。
- ・ 教えてくれたことに、文句を言わず、素直に聞くことができる。
- ・ 相手がつまずいていたら、教えることができる。
- ・ 教え合いによってできるようになったことを喜び合うことができる。

	5	6	7	8
目 標	音色を工夫してバ ッテリーのリズム 伴奏ができる	身体反応をしながら 楽しく聴くことが できる。	拍の流れにのって 楽しく歌うことが できる。	情景想像をしながら 楽しく歌ったり聴 いたりできる。
つ か え	①「しゃべるでほい」の リズム打ちをする。 ②「よこらしよ」のリズム 打ちをする。	①曲名を知らせずにし コードを聴く。 体を動かしながら 聴こう	①「しゃべるでほい」の歌 の歌調唱をする。 バッテリーのリズム 伴奏を入れて歌おう	①「よこらしよ」を情景 想像しながら歌う。 ②「くちぶえふさといぬ」 を情景想像しながら 聴く。
ま と め る	音色に気をつけ、二人 組のリズム伴奏を しよう ④「しゃべるでほい」を 大太鼓とタンゴリンゴ リズム伴奏する。 ④「よこらしよ」をタン ゴリンゴとカステネット でリズム伴奏する。 ⑤グループごとに発表 する。 ⑥全体でバッテリーのリ ズム伴奏をする。	②曲名「くちぶえふさとい ぬ」を知り、教科書の挿 絵を見ながら聴く。 ③曲の全体像をつかむ。 ④曲の構成(A-B-A)に合 わせ、旋律を口ずかみな がらキ拍子を打つ。 ⑤曲に合わせて、楽しく身 体表現をする。	②強弱をつけて歌う。 ③バッテリーのリズム伴 奏を楽器、強弱をつけて 歌う。 ④曲想を感じとって身体表 現を工夫する。 ⑤「おおきなりのきのした で」を鍵盤で旋律奏 打 ⑥バッテリーリズム伴奏を 入れて歌う。	リズムにのって歌ったり 聴いたりしよう ③「よこらしよ」をリズム 伴奏を入れて歌う ④「くちぶえふさとい ぬ」を身体表現をし ながら聴く ⑤ラッパの仲間の音色に 注意して聴く ⑥「よこらしよ」を身体表 現をしながら歌い、「くち ぶえふさといぬ」を身体 表現をしながら聴く。
評 価	音色に注意して打 楽器が打てたか。	曲に合わせて、体を動 かしたり歩いたりでき たか。	バッテリーのリズム伴 奏を加えて歌うことが できたか。	リズムにのって歌った り聴いたりできた か。

6. 本時の展開

- ①本時の目標 (認知目標) ・曲に合わせて、バッテリーのリズム
 (態度目標) ・自分がつまずいていたら、教えて
 ・お互いのいい所を認め合うことが

②展開

	学習のねらい	主な発問	形態
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 曲の感じをつかみ、発音と息をつけて明るくはすんで歌うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢で歌いましょう。 大きな口を開けて歌いましょう。 ペアでいい所を見つけ合いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉 一斉 ペア
		<p>曲に合わせて、二人組のリズム打ちが</p>	
さぐ	<ul style="list-style-type: none"> リズムあそびをしながら、歌に合わせて、リズム打ちをすることが出来る。 曲に合わせてバッテリーのリズム打ちが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ひざ打ちと手拍子を入れてリズム打ちをしましょう。 ひざ打ちのところは、ペアの両肩をたもいてリズム打ちをしましょう。 ひざ打ちのところは、ペアと手のひらを合わせて、リズム打ちをしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉 ペア
		<ul style="list-style-type: none"> 2つに分かれてリズム打ちをしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉
る	<ul style="list-style-type: none"> グループでバッテリーのリズム打ちが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ひざ打ちのところをリズム唱しましょう。ひざ打ちをしましょう。 ペアでいい所を見つけ、教え合いましょう。 手拍子のところをリズム唱しましょう。 ペアでいい所を見つけ、教え合いましょう。 グループでいい所を見つけ教え合いをしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉 ペア 一斉 ペア 4
		<ul style="list-style-type: none"> グループで発表しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の成果を味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員で二人組のリズム打ちをしましょう。 きれいな声で歌いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉 一斉 一斉

- ③評価 (認知目標) 曲に合わせて、バッテリーのリズム打
 (態度目標) ペア同士で教え合うことができたか。

ム打ち

・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・

 をすることができん。

もらおうとしたり、相手がつまずいていたら、どこでつまずいているかを見つけ教えたりできる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	準備
<p>始めましょうの歌を歌う。レパートリーの歌を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱テープに合わせて「う、こらし」を身体表現しながら歌う。 ・伴奏テープに合わせて身体表現しながら歌う。 ・ペアで向き合い片方が歌い片方が気づいたことを言う。言った子から座る。 ・交換。 <p>できるようにならう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習が始まる意識がく ・大きな口を意識させる。 ・拍の流れにのた身体表現をしながら歌えた子をほめて広げる。 ・ペアが何を見つけてくれたかを言われた子に言わせるようにする。 	<p>歌詞 範唱 テープ 伴奏 テープ めあての紙</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・1フレーズに、ひざ打ち(前打ち)と手拍子(後打ち)を入れてリズム打ちをする。リズム唱をする。 ・前打ちは相手の肩をたたくことにして、リズム打ちを打つ。 ・前打ちは相手の手のひらを合わせ、後打ちは手拍子でリズム打ちをする。 ・バッテリーのリズム打ちで、ひざ打ちと手拍子に分かれて打つ。 (・出だし(前打ち)が選ばれる ・休符がとれていない) ・下のリズム(前打ち)をリズム唱する。ひざ打ちする。 ・いい所を見つけ、教え合う。(音楽にひざ打ちがピッタリ合っていたよ。休みがあるのに休んでいなかったよ。出だしに気をつけてね) ・上のリズム(後打ち)をリズム唱する。手拍子で打つ。 ・いい所を見つけ、教え合う。(音楽に合っていた。まるくたたけていた。) ・グループの中でペアを1つり、バッテリーのリズムで合わせる。教え合う。 ・ペア同士で肩をたたく ・一緒にやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出だしに気をつけさせる。 ・1フレーズの終わりの休符と2フレーズの出だしのつながりに気をつけさせる。 ・バッテリーのリズム打ちの中の3小節目の下のリズム1回と1小節目の1回もつけ加える ・教えてと言えた子が一生懸命教えてもらおうとしている子をほめ、価値づける。 ・教え合いをうまくやっているペアを紹介する ・リズム打ちができない子ができるだけ多く打つようにさせる。 ・お互いにバッテリーのリズム打ちができない者同士の場合、できているペアやグループと交流させる。 	<p>ひざ打ち 手拍子 の絵 リズム譜 リズム譜</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・グループごと、または両車ごとに発表する。いい所を見つけ合う。 ・全員でバッテリーのリズム打ちをする。 <p>終わりましたの歌を歌う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌いながらリズム打ちができる子は、歌うようにさせる。 	

ちができたか。(最後の全体練習)

お互いのいい所を認め合うことができたか。(ペア学習)

よっこらしよ

1 よっ | こらしよ | よっ こら | しよ |



おみやの | いしだん | よっ こら | しよ |



おとうと | たちに - | てをふっ | て



やーっ | ほう | はやくこ | い



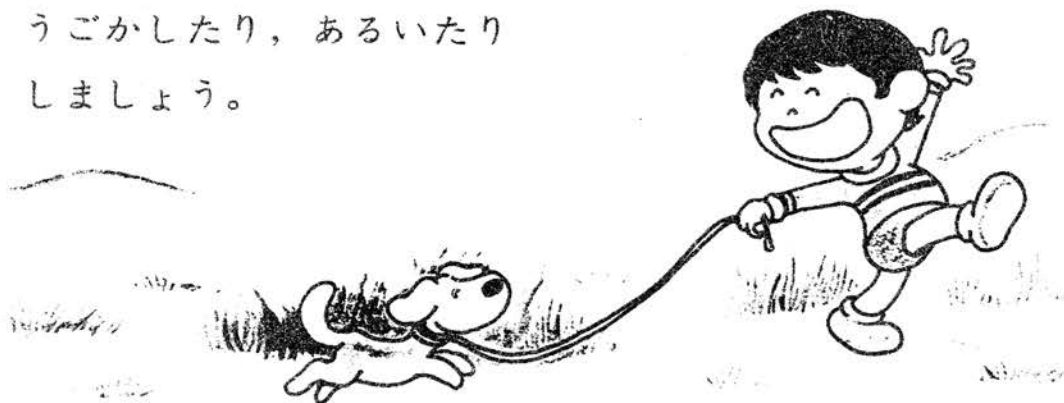
🎧 「やーっ ほう」は、とおくの けしきに よびかける
 ような きもちで うたいましょう。

🎧 🖐️と 🖐️の ところを、すきな がつきに かえて
 うって みましょう。

くちぶえぶきとこいぬ

(ブライアー 作曲)

おんがくに あわせて からだを
うごかしたり，あるいたり
しましょう。



♩ = 104~112

土肥 武 作詞
黒沢吉徳 作曲



第2学年社会科学習指導案

公開第1校時
教壇2年2組
指導者中島康英

1. 单元名 ゆうびんきょくではたらく人

2. 单元目標

- (1) 郵便局の仕事に携わっている人々が、郵便を確実に早く届けるために、工夫や努力をしていることに気づく。
- (2) 郵便局で働いている人々の仕事の様子を具体的に観察し、郵便と自分たちのくらしとのかかわりをとらえるとともに、郵便のしくみの正しい利用の仕方などに関心をもち。

3. 指導観

①教材について

日頃、子ども達は、郵便配達のおじさんや赤色の郵便自動車やバイクを見たり、近くの郵便局へ親と一緒にいたり、時にはポストへ手紙を出しに行くなどして、郵便についての経験や断片的な知識はもっているだろう。しかし、郵便の仕事に携わる人々の労働に対しては、あまり興味・関心は高くないものと思われる。

そこで、本单元を、手紙書き(1時間)→ポスト作り(2時間)→ポスト調べ(3時間)→郵便局を見学する(4時間)→配達係に聞く(3時間)→郵便ごっこ(2時間)という構成にしてみた。

手紙を書いてポストに投函することで、ポストに目を向けさせ、ポスト調べに行くことにより、郵便局で働く人々の存在を認識する。そこで、手紙ほどのようにして相手に正確に届くか、また、その過程でどんなに多くの人々に労働が関わっているか、そして、仕事に携わる人々の苦勞や喜びがどんなものであるかについて、郵便局の見学と配達係の人の話を聞く活動を通して学習を進めていきたい。

②児童の実態

私は、低学年における社会科学学習に対して、子ども達自身を主体とし、加えて学習そのものが「楽しさでいっぱいである」ことを徹底にすることが大切であるという願いをもっている。そのために、学習の中心を、子ども達自身の目・鼻・手・足などを駆使して観察・表現したり栽培したりする学習、いわゆる「観察・見学を通じた実体験」に重きをおいて学習を進めてきた。その中で、子ども達は、動作化、紙芝居作り、ごっこ活動、手紙書きなどの学習活動に関しては、一様に興味を示し、内容のある作品の全員提出に大きな効果が見られた。

一方で、そこから一歩進んで、資料を見て意欲的に学習問題を発見し、学級全体の場で意見を出し合う中で解決の方向へもっていける子どもは、男子2名、女子9名の中だけでも、数名にとどまる。そこで、現在も、この子たちを目標にして少しでもその姿に近づけた子は学習ので認め、位置づけているところである。

本単元については、夏期休業中に暑中(残暑)見舞いのやりとりなどもしており、そのことから手紙自体に疑問や質問をぶつけてきた子どもも半数以上いることから、少なからず、関心をもって取り組んでいけると考えている。

③学級集団づくり

第二学年の社会科学の見学・観察後のまとめなどを見ても、事前に視点をもちて臨みながら、当初、個人レベルでは十分な発見や考えをもつに至らない子が多かった。そこで、個人で考える時間を十分に確保して自分の足元をかためさせるとともに、ペアから4人グループによる意見の出し合いや交流の機会を常に授業の中に取り入れるようにしてきた。そうすることによって、友達の見聞の大切さを知り、人間関係をよくなる手段の一つであることに気づいた。また、そのことで一歩進んだ段階の同じ土俵で全体の場に参加できるようにもなってきた。現在では、いつも多い意見に流されないように、大きな声で話すとともに、たとえ一人の意見だろうとも、むらさずに、グループや学級の場でとりあげられるようなリーダーの司会の仕方にも留意しながら指導している。

4. 単元指導計画

人間関係	グループで話し合いができる。		学級や	
	時	1	2・3	4
ゆ う び ん き よ く で は た ら く 人	<p>つけたいカ</p> <p>・郵便局の仕事に携わっている人々が、郵便を確実に早く届けるために工夫や努力をしていることに気づくことができる。</p> <p>・郵便局で働いている人々の工夫や苦勞を、見学や観察を通してとらえることができる。</p> <p>・郵便と自分たちのくらしとのかかわりについて考えることができる。</p> <p>・郵便のしくみや正しい利用の仕方などについて関心をもつことができる。</p>	<p>・友人に、学校でのくらしの様子を知らせる方法について話し合う。 〈手紙・封筒〉</p> <p>手紙を使って、友達に学校でのくらしの様子を知らせよう。</p> <p>・実際に手紙を書き、それをポストに投函する。</p> <p>ポストに投函した時の気持ちを発表してみよう。</p> <p>・発表を聞いて、ポスト作りに対する意欲を高める。</p>	<p>・前時、自分の書いた手紙を投函したポストについて再度想起する。 〈ザボレバ〉</p> <p>工夫をこらして、手紙を入れる自分たちのポストを作ろう。</p> <p>・班ごとに自分たちの生活経験をもとにポストを作る。</p> <p>一度、手紙を入れ出してみよう。 〈手紙のコピー〉</p> <p>・班でポスト作りをしたこと、手紙を出したことに感想を話し、発表し合う。</p>	<p>自分たちの作ったポストを比べ合い、違いや疑問を整理し、実際のポストを調べる計画を立てられる。</p> <p>・自分たちの作ったポストを比べ合い、共通点や相違点について話し合う。</p> <p>自分たちの作ったポストのちがいを確かめる方法はいろいろか。</p> <p>・本物のポストの存在に改めて気づき、調べる計画を立てる。</p> <p>・疑問点を整理し、視点をもち、中心調べる方法について話し合う。</p> <p>実際のポストを調べる計画について考えることができたか。</p>
評 価	ポストに関心をもち、関心をもつことができたか。	少しでも役に立つ本物に近いポストを作るために、班で考え合うことができたか。		

グループ・個人が、めあてをもって見学できる。

5	6 (本時)	7	8・9
<p>実際にポストを調べ、ポストの郵便の収集の順序を観察することを通し、ポストのしくみに見える工夫に気づく。</p>	<p>ポスト調べで、かざり袋に注目することによって、は郵便交換の確実に集めるしくみがわかる。</p>	<p>ポストから集められた郵便の行き先を予想することを通して、郵便局の仕事を知り、見学の視点を広げられる。</p>	<p>郵便局を見学し、集められた郵便を処理する手順や、働いている人の仕事を観察し、気づいたことをメモする。</p>
<p>・前時の学習内容を想起し、ポストの観察の視点について確認し合う。</p>	<p>・観察カードと自分たちの作ったポストは、どこが違うところを見つける。 〈各グループ自作ポスト〉</p>	<p>・郵便ポストから集められた郵便の行き先を予想する。 〈モデルポスト・手紙〉</p>	<p>・前時の学習をふり返ることで、改めて郵便局で観察することを確認し合う。</p>
<p>実際にポストはどのくらいで、どのように手紙を取出すのだろうか。</p>	<p>自分たちの作ったのと本物のポストでは、どこがどのようにちがっているだろうか。</p>	<p>郵便局の人は、集めた郵便をどのようにしているのだろうか。</p>	<p>郵便局に集められた郵便はどのように手紙で処理しているのだろうか。</p>
<p>・観察の視点に基づいて、実際のポストを観察し、わかったことをカードにメモする。 ・郵便局員が、ポストが郵便を集める様子を観察し、仕事の手順とその様子を具体的にメモする。</p>	<p>・本物のポストのつくりを理解する。 〈ポストモデル〉 ・ポストの安全かつ確実に集められるしくみに気づく。 かざり袋は何のために使われているのだろうか。</p>	<p>・日常の生活経験や教科書資料をもとに、郵便局では、ポストから集めた郵便をどのように処理するか予想し、発表し合う。</p>	<p>・収集してきた郵便の取り分けや押印作業の様子を観察する。 ・行き先の区分け作業の様子を観察する。 ・配達の様子を観察する。 ・配達区作業の様子を観察する。</p>
<p>・観察したことを整理して、感想を書く。</p>	<p>・ポストの安全かつ確実に集められるしくみをカードにまとめる。 ・いかに安全かを確かめる。</p>	<p>・郵便局を見学する時の視点について話し合い、それをカードに記入する。</p>	<p>・観察してわかったことや疑問などをまとめる。</p>
<p>ポストのしくみに見える工夫に気づくことができたか。</p>	<p>郵便を安全かつ確実に集められるためのしくみに気づき、カードにまとめることができたか。</p>	<p>郵便局の仕事を知り、見学の視点を広げることができたか。</p>	<p>観察の視点によって気づいたことをメモすることができたか。</p>

人間関係	グループを核に、郵便局で働く人々の工夫や苦労について話し合う。			
時	10	11	12	13
目標	郵便局で働く人々は、郵便を確実に早く届けるために、仕事を分担し、協力しながら仕事をしていることがわかる。	郵便を配達する人は、郵便を配達区域ごとに分けたり、配達順序を決めたりして、時間決め配達法があることがわかる。	配達係の人は、大抵は郵便を確実に届けるために、工夫した仕事をしていることがわかる。	配達の仕事の大まかに分けてみると、配達係の苦労を教え、自分たちが協力できることがあることがわかる。
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードを見ながら郵便局の見学を思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 郵便局に入り、整理された郵便を配達する人々の存在に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> みて先が不完全で返送されてきた郵便を例に配達係の苦労を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 配達係の苦労について感想を発表し合う。
さぐ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>郵便局では、郵便を確実に早く届けるために、どんな工夫をした仕事をしているのだろうか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>郵便を配達する人は、どんな人の郵便を、確実に早く配達するために、どんな仕事をしているのだろうか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>配達係の人の、郵便を配達している時の工夫や苦労を知ろう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>おにににが、配達係の人の仕事に協力できることはないだろうか。</p> </div>
る	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードをもとに、各作業で見られた仕事の工夫をカードに書き、発表し合う。 カードを整理しながら仕事の工夫を確かめながら話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 郵便局内での配達前の仕事について、配達係に話を聞き、要点を伝える。 配達に出かける前に、確実に早く届けるために工夫していることを聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 郵便の確実に配達するための工夫を調べ、配達係の話から確かめる。 配達の仕事での苦労や困ることを聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を踏まえ、郵便を出発時や受け取る時に気を付けなければならぬことを考え話し合う。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 見学したことから、絵や文で明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 配達前の仕事の工夫について、聞きとれたことをもとにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 配達の仕事の工夫や苦労について、聞きとれたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 配達係の仕事の学習から、おににににをまとめ、配達係の人に感謝とお礼の手紙を書く。
評価	仕事を分担し、協力しながら仕事をしていることがわかってきたか、気づきやのりつけもわかってきたか。	配達係の人々の正確に配達するための工夫に気づくことができたか。	配達係の人々の確実に配達するための配達法について気づくことができたか。	自分たちが協力できることがあることがわかってきたか。

役割りを分担できる。

14	15
<p>郵便ジニに必要以外の 考えたり 役割り予想 談や活動中、ジニ活動に 対する感想があることが ある。</p>	<p>郵便局で働く人々の 考えたり、自分の役割り をわたり、協力して 郵便ジニ活動が ある。</p>
<p>・郵便局の見学を思い出 郵便ジニをする計画 を立てる。</p>	<p>・道具や役割り、郵便 ジニの仕事を確認 し合う。</p>
<p>郵便ジニをする 以上の順序で 進めよう。</p>	<p>郵便局員になっ てみる。郵便 ジニをしよう。</p>
<p>・郵便ジニの 話し合い、役割り を決める。</p>	<p>・郵便局で働く人々の 想いを思い出して 郵便ジニをする。</p>
<p>郵便ジニをするには どんな準備を する必要があるか を調べる。</p>	<p>・郵便ジニを見直し 気付け、ことごと く話し合い、再び 進めよう。</p>
<p>・郵便ジニに使うもの について、つく り出すものを 考える。</p>	<p>・郵便ジニの感想を それぞれの役割りの 立場で書く。</p>
<p>ジニ活動における自 分の役割りを把握する たか。</p>	<p>自分の役割りの上下活 躍し、また協力して 郵便ジニをするこ とができたか。</p>

5. 本時の目標〈認知目標〉ポスト調べをもとに、かざり袋に注目することによつて
 〈態度目標〉グループで自分の意見を発表でき、それをもとに全体

6. 本時の展開 (6/5)

段階	学習のねらい	主な発問	形態
つかむ	・ポスト調べでわかったことが発表できる。	・観察カードと自分たちの作ったポストで、はっきりと違うところを見つけよう。 〈各グループ自作ポスト〉	G
		自分たちの作ったのと本物のポスト	
さぐ	・本物のポストのつくりを理解することができる。		一斉
ぐる	・ポストの安全かつ確実に集め届けるしくみに気づくことができる。	〈モデルポスト〉 ・かざりがあるのとないの、また、袋があるのとないの下そのちがいを比べてみよう。	一斉
		かざり袋は何のためについている	
まとめる	・ポストの安全かつ確実に集め届けるしくみを、カードにまとめることができる。	・自分の発見をカードに書いてグループで話し合おう。	G 一斉
		・今日の学習でわかったことをまとめてみよう。 (このポストもあつて写真。)	個

7. 本時の評価〈認知目標〉郵便を安全かつ確実に集め届けるためのしくみに気づき
 〈態度目標〉グループ内で発表できたか(リーダーのチェック)。

↑ポストには郵便を安全かつ確実に集め届けるしくみがあることがわかる。
 の場で挙手できる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>○観察カードと自分たちで作ったポストを見比べて、違うところを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひさし ・投函口のふた ・かぎ ・大きさ ・時刻表 ・かたい本体 ・袋 <p>↑では、どこがどのよりにちがっていましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードだけでなく、自分たちが作ったポストと見比べることによって、本物のポストのしくみの数々を深めさせながら発表させる。また、グループ内でまず一人一人の考えを明らかにする。
<p>○どちらがっていたかの部分を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひさしがでっぱっていたよ。 ・投函口のふたは小さく、いつもはしまっているよ。 ・とてもかんじょうな本体だったよ。 ・かぎがついていたよ。 ・中にはすっぽり入る袋が入っていたよ。 ・かぎがないとぬすまれてしまう。 ・袋があると、便利みたい。 <p>↑のだらう。</p> <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぎは、いたずらやぬすまれたりするのを、ふせぐものだと思う。→安全 ・袋は、短い時間でたくさん人の郵便でももらさず集められるためにあると思う。→確実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストのつくりを理解するために、どこがどちらがっていたかの部分を強調して発表させる。また、グループで話し合いを生かし、全員に挙手させる。 ・本物に近いポストのモデルを出すことで、前向きな姿勢を生み出す。さらに自分たちのポストとモデルのポストにたくさんの手紙を入れ、何人かの子どもに手紙の出し入れをさせて、かぎや袋の大切さを体験させる。
<p>○学習のまとめをカードに書き、ポストの絵のふき出しに感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストのふき出しに感想を書かせることでも、ねらいに沿ってさせたい。 ・(ポスト、そして郵便の行方に関心をもち)

↑. カードにまとめることができたか (発言・カード)

↑体の場で挙手できたか (挙手のチェック)。

第3学年 音楽科学習指導案

公開 第 / 校時
教室 3年3組
指導者 西村美香

1. 題材名 リズムにのって

2. 題材の目標


リズムを体で感じとり、音楽の流れにとけこんで表現できる。

3. 教材群

おぼけなんてないさ、メリーさんのひつじ、インターティナー、
あわてんぼうの歌

4. 指導観

① 題材及び教材(あわてんぼうの歌)について

題材「リズムにのって」は、前題材「ニびょうしとミびょうし」の内容を受けて、さらに生き生きとした音楽表現をめざすところからなっている。リズムを体で感じ取り、音楽の流れにとけこんで、それを生き生きと表現するというところにある。さて、教材「あわてんぼうの歌」は、歌詞が大変ユーモアにあふれている。「あまりにあわてるので、次のことをすっかり忘れてしまう」という歌詞は、日常生活によくあることである。「私もこんなことがあったな」と共感しながら楽しく歌うことができ、のりやすい曲である。リズムについて言えば、ほとんどが八分音符でまじまじとあり、とてもリズムミカルである。音型は、の二つにほぼ限られており、覚えやすい。リズム、音型から見ても、児童にとって大変親しみやすい曲であると言える。

また、この「あわてんぼうの歌」は、主旋律と副次的旋律に低音を加え合奏ができるよう編曲されている。美しい合奏になるために、それぞれのパートが正しく生き生きとしたリズムにのって演奏させたい。

② 児童観

ほとんどの子供は歌うことが好きである。美しい発声で歌える子供は、男子3人、女子が4人いる。しかし、中には、リズムにのれず、みんなと声がか合わせられない子、なかなかうまく発声できません、あきらめてとらなって歌おうとする子、声を出して歌うことが取っつかないと感じ、声を引っこめてしまう子など様々な子供がいる。朝の歌声や音楽の授業などで、きれいな声の子、表情の素晴らしい子を認めるなど、段階的に指導している。生き生きとした表情で楽しく歌いながら、美しい響き合いを目指していきたい。

リコーダーについては、4月以降、それぞれの教材の中で学習してきたが、5人の子供は技術的に不十分である。なかなか運指がうまくいかない子供に対しては、放課後の個別指導やグループの確認学習により、できるようにしている。運指を重点的に繰り返し指導し、楽しい合奏をさせたい。


③ 学級集団づくり

小集団を中心とした学級づくりに対して、ペアでの活動、4人での活動、6人での活動と、いろいろな小集団の活動形態を学習の中に取り入れてきた。三年生における小集団は、ペア、もしくは、4人が適当であるようである。リーダーも重要なので、リーダーの役割を明確にし、育ちつつある段階である。4人のグループ活動を中心とした小集団活動をすすめていく中、子供の中にとっても素晴らしい姿を見るようになった。

グループ内でのリコーダーの教え合いの中で、できる子ができない子を一生懸命教え、そして、その子が出来た時、グループ全員で喜び姿に人間関係の深まりを感じる。このような姿を大切にしながら、学級づくりにより効果的な小集団活動をすすめていきたい。

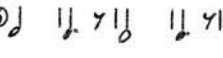
4. 単元指導計画 (全7時間 本時第7時)

音楽的諸能力		身につけたい力	態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しい感じに合った表現を工夫して、歌詞唱ができる。 ○ ふしのまとまりを感じとって歌うことができる。 ○ リズム伴奏を工夫して、曲に合った楽器を選んで演奏できる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ グループや個人で楽器を選び、練習することができる。 ○ ピアノの音色に興味を持ち、口ずさんだり、身体でリズムをとりながら、レコードを聴くことができる。

	1	2	3	4
目標	○ リズムに乗って楽しく歌うことができる。	○ 縦笛の演奏に慣れる。	○ 躍動的なリズムの楽しさを感じ取ることができる。	○ 曲想にあった表現ができる。
つかむ	① おぼけなんてないさ 範唱テープを聴いて、リズムや歌詞のおもしろさを感じ取る。 ② 歌詞内容、旋律から感じたことを話し合う	① たてぶえ 5 縦笛の基本練習をする。 ② メリさんのひつじ テープを聴き、曲の感じをつかむ	① エンターティナー鑑賞レコードを聴く ② 軽快な曲の雰囲気、直感的にとらえる。	① あわてんぼうの歌 範唱テープを聴いて、曲のおもしろさをとらえる ② 歌詞を読んで、気づいたことを話し合う。
さぐ	<ul style="list-style-type: none"> ● テープやオルガンの伴奏に合わせて、リズムカルに歌いましょう ③ グループ学習で、身体反応をしながら、リズムの感じや、ユーモラスな歌詞を感覚的にとらえる。 ④ リズム唱や拍打ちをして、曲に慣れる。 ⑤ 拍打ちをして、言葉を拍に乗せるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 縦笛の練習をしましょう。 ③ グループで、運指や息の強さに気をつけて、1フレーズずつ練習をする。 ④ 三拍子の拍の流れを感じ取りながら、視奏する。 ⑤ グループで教え合って、主旋律や副旋律の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ● レコードを聴き、身体反応を工夫しましょう。 ③ グループの友達と組んで、身体反応を工夫する。 ④ 情景を想像しながら、身体反応をする ⑤ フレーズの変化を体でとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> ● テープやオルガンの伴奏に合わせて、歌詞唱をしましょう。 ③ 階名唱をして、旋律の流れや音程をつかむ。 ④ グループの学習で、歌詞の歌いにくい部分を練習する。 ● 似たふしと違うふしを見つけましょう。 ⑤ 1フレーズと2フレーズ・3フレーズと4フレーズの出だしが、同じであることをつかむ。
まとめ	⑥  おぼけなんてないさの言葉のもつリズムを感じとってはっきりと歌う。	⑥ 二声の響きを感じ取りながらリズムに乗って合奏する。	⑥ グループごとに身体反応や、リズム表現を考え、発表する	⑥ 歌詞の内容を生かして楽しく歌う。
評価	○ 伴奏に合わせて、リズムカルに楽しく歌うことができたか。	○ 曲想をいかし、伴奏に乗って合奏できたか。 ○ 運指が正しくできたか。	○ リズムに乗って、身体反応をすることができたか。	○ ふしの変化を生かして歌えたか。

人間関係にかかわる態度目標

- 友達の言葉をよく聞いて、自分の考えをしっかりと持つことができる。
- 自分の考えがしっかり発言でき、いっしょになって勉強する気持ちを持つことができる。
- 友達のがんばりを認めるとともに、自分の責任を果たすことができる。
- 他のパートと合わせることによって、相手を思いやる気持ちを持つことができる。

5	6	7	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 副次的な旋律を、模唱・奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の感じを生かしたリズム伴奏を、することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の感じをつかんで、楽しく演奏できる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ① あわてんぼうの歌 歌詞の内容を生かして楽しく歌う。 ② 副次的な旋律を、模唱・奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① あわてんぼうの歌 リズムに乗って言葉をはっきりと歌う。 ② 主旋律と縦笛のパートを合わせて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ① あわてんぼうの歌 主旋律と縦笛のパートを合わせて歌う。 ② 前時に学習したリズム伴奏をつけて、合唱・奏をする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 縦笛の練習をしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● リズム伴奏の工夫をしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● オルガンのパートの練習をしましょう。 	
<ul style="list-style-type: none"> ③ グループで階名唱をしながら、フレーズごとに合わせる。 ④ ミ・ファの運指や、4フレーズ目の運指に注意する。 ⑤  の長さに、注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ グループで話し合っ て、楽器を選ぶ。 ④ フレーズと対照してリズムパターンを考える。 ⑤ リズムパターンを組み合わせて、リズム伴奏を考え、練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 指番号は、右手・左手とも同じであることを再確認してから、グループで練習する。 ④ 主旋律や、縦笛のパートと合わせながら練習する。 ● 合奏練習をしましょう。 ⑤ 2グループを合わせ、その中で楽器の分担を話し合っ て決め、各パートの復習をしてから合わせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ⑥ グループで、見合っ たり教え合っ たりして練習し、みんなの前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ グループで考え合っ たリズム伴奏を、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ パートを交替しながら、合奏を楽しむ。 ⑦ 各グループの練習の成果を聴き合う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい運指で吹けたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムパターンを組み合わせて、表現できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムに乗って、楽しく演奏できたか。 	

6. 本時の展開

- ① (認知目標) 他のパートを聞きながら、リズム
 (態度目標) グループで気付いたことを言い

② 本時の展開

	学習のねらい	主な発問	形態
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 雰囲気作り 前時までの学習を想起し、リズムにのって演奏できる。 課題をつかむ 	<ul style="list-style-type: none"> 歌う人は、ことばをは、きり、楽器の人は、リズムにのって、楽しく演奏しよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 今日は、金鍵盤ハーモニカとリコーダーがきれいに合うようにしましょう。 </div>	一斉 列
ささ	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の方法を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを発表しよう。 	
くぐる	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのパートを確認する。 グループで教え合い、高め合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> テープに合わせてみましょう。 グループで練習しましょう。 	一斉 G
はかめる	<ul style="list-style-type: none"> グループの成果を発表できる。 互いに聞き合い、認め合うことができる。 本時の成果を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを発表しよう。 	一斉

- ③ 本時の評価 (認知目標) リズムに合わせて
 (態度目標) グループの中で

くみによって合奏できる。

合いながら、練習することができる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	準備
<p>あいさつの歌</p> <p>「あわてんぼうの歌」 ① 4グループ歌詞唱, 4グループ鍵盤ハーモニカ (2番交代)</p> <p>② 4グループ歌詞唱, 4グループリコーダー (2番交代)</p> <p>列ごとで、鍵盤ハーモニカとリコーダーに分かれ、合奏する。(4列合奏, 4列聴き役)</p>	<p>・歌う姿勢がよいか、確認する。</p> <p>・いい表情で歌っている子、リズムにのって歌っている子、口を大きくあけて歌っている子をみんなに広める。</p>	<p>テープ 楽譜 課題</p>
<p>気付いたことを言う。</p> <p>・とてもきれいに合っていた。・途中でぼらぼらに合わなくなった。</p> <p>・休符がきちんと休めなかった。</p> <p>きれいに合うためには。(板書)</p> <p>① 出だしの音をそろえる。② 休符をきちんと休む。③ よく聴き合う。</p> <p>それぞれのパートをテープに合わせて合奏する。</p> <p>グループで練習する。 ① ああてを言う。(リーダー) 「今日は、鍵盤ハーモニカとリコーダーが合うようにがんばる」</p> <p>② 役割を正確かめる。鍵盤ハーモニカ、リコーダー 聴き役2人(拍子打ち)</p> <p>③ 練習する。</p> <p>④ 聴き役が気付いたことを言う。(役割交代) よく合っていました。・少しだけぼらぼらになりました。</p>	<p>・気付いたことが出ない場合、耳かきすることにより、気付かせる。</p> <p>・拍を合わせやすくするために、手拍子を打つ。</p> <p>・和間巡視により、行きつまっているグループには助言をする。</p> <p>・うまく教え合っているグループは認める。</p>	<p>テープ</p>
<p>発表 (2グループ)</p> <p>気付いたことを言う。</p> <p>・とてもきれいな音でした。</p> <p>・きれいに合っていました。・合っていないところがあつたけど、合わせようとかがんばっていました。</p> <p>全員で合奏する。(教師の指揮に合わせて)</p>	<p>・よい意見は、認め、みんなに広める。</p> <p>・聴き役の子の態度もよく見る。</p>	

、他のパートを聞きながら合奏できたか。(発表, グループ練習)
自分の役割を果たし、気付いたことを言うことができたか。(和間巡視, グループでの発表)

⑦ あわてんぼうの歌

まどみちお 作詞
外 国 曲 ♪

♩ = 112~120

3 2 1

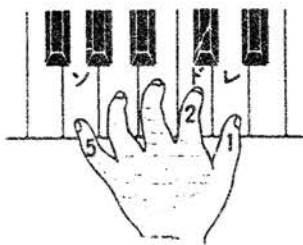
1 あわてんぼうの おつかい ようじも きかず
2 あわてんぼうも にどめは ようじを きいて
3 あわてんぼうも さんどめは おかねを にぎり

左手 2 5 1 5

3 3

あわてて かけだす タッタッタッタ タ
さんちょうめの やおやへ タッタッタッタ タ
やおやへ かけこむ タッタッタッタ タ

[オルガン]



🎵 リズムにのって、ことばをはっきりと歌いましょう。

3 2 1 1

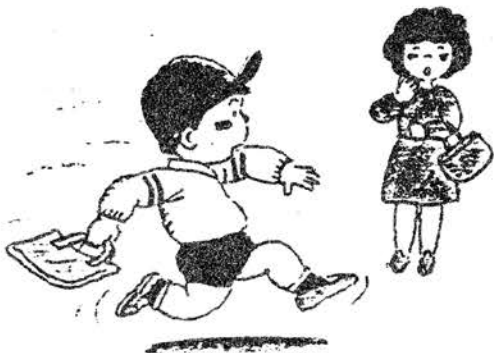
いちちよめ の かどで きがついて かえる
 にちちよめ の かどで きがついて かえる
 やさいを かって おかねを だすと

右手4

3 2 1 4 2 3 3

ようじは なんだっけ タッタッタッタ タ
 おかねを もってない タッタッタッタ タ
 やさいも もたずに タッタッタッタ タ

4



〔リズムばんそう〕下から えらんで
 自由に くふうしましじょう。

7 $\frac{2}{4}$ | |

7 $\frac{2}{4}$ | . 7 . 7 . 7 . 7 . |

7 $\frac{2}{4}$ | . 7 . 7 . 7 . 7 . |

第3学年 社会科学学習指導案

公開 第1時
教室 3年4組
授業者 愛知美志

1. 単元名 とうじきづくりのさかんなわたしたちの市

2. 単元目標

・土岐市でさかんな陶磁器工業をとりあげ、それが地域の人々のくらしと深くかかわっていることや、原料・製品の輸送や働く人などの面で、他地域と深く結びついていることがわかる。

3. 指導観

① 教持について

第3学年では、『自分たちの市(町・村)の重要な生産活動を自然環境との関係、原料や資源の利用、生産品の販売や輸送などの面から理解させ、生産活動を通しての他地域との結び付きについて考えさせる』(小学校学習指導要領)にあるように、地域における生産活動の特色をつかみ、地域社会の成員としての自覚を育てることもねらいとしている。

三市一町(土岐市・多治見市・瑞浪市・笠原町)は、陶磁器づくりが盛んで、この泉町内でも陶磁器工場が多くみられる。ただ、泉西校区は、泉北団地の児童が過半数を占め、市内の他地域に比べ、陶磁器工場に対する関心は高いとは言えない。しかし、自宅で絵付けをしたり、祖父母が陶磁器工場で働いたりしており、子どもたちにとって最も身近な生産活動と考えられる。そこで、陶磁器づくりを取り上げ、陶磁器工場見学のなかから陶磁器づくりの過程を知り、生産性をおげるための工夫と苦勞をしていることに着目させたい。また、製品の送り先や原料から他地域と深くかかわっていることも理解させたい。

②児童の実態

3年生の社会科は、今までに、『わたしたちの市』『買い物と商店がい』『土政市ののうぎょうのようす』を学習してきた。どの單元も、できるだけ見学学習を取り入れ、自分の目や耳を使って学習することを重視してきた。しかし、始めの頃は、漠然と見てしまい、一つ一つをいねいに深く追求することができなかつたため、見学の計画を立てる段階で、見学のめあてもできるだけ焦点化し、視点をはっきりさせるように進めてきた。その結果、少しずつではあるが、意欲的に見学し、細かな所まで見るようになるようになってきた。また、VTR・スライド・TP・写真などの資料を提示することで、興味を芽らせて取り組む姿が見られるようになり、「社会が好き」という子が増えてきた。しかし、

- ・表面的な理解で終わり、「なぜ、...なのが、どうして、×××があるか」という事象の意味を追求する力が弱い。
- ・自分の生活と関わらせて追求していく態度や習慣が身についていない。
- ・友達に頼ってしまい、自分でやろうとする意識が弱い。

このような実態のため、出来るだけ身近な生活の中から題材をおめ、子どもたちの生活体験を生かしながら陶磁器工業に対する理解を深めさせたい。

③学級集団づくり

リーダーを中心に全員が自分の考えを自由に発言し、お互いに意見交流をする中で、自分の考えをより深めていくことをグループ学習の目標とし指導してきた。現在は、グループ内で全員が発言することはできるようになったが、全員で話し合い、深めていくまでには到っていない。そこで、リーダーを中心に、友達のことを聞き、自分の考えと比べることを通し、話し合いを深めていくように指導している。

4. 単元指導計画〈全12時間 本時第8時〉

とう じ き ぶ く り の さ か ん な わ た し た ち の 市	つ け た い 力	人 間 関 係	・リーダーを中心に言
	・陶磁器工業が地域の人々のくらしと深くかかわっていることと、原料・製品の輸送の面で地地域との結びつきがわかる。	時	1
	・計画を立てて見直し、視点にそってまとめたり、絵図に表現することができる。	目 標	土岐市の工場分布図や仕事調べから、土岐市では陶磁器工業が重要な生産活動であることがわかる。
	・陶磁器製品ができるまでの工程がわかり、作る人の願いや苦勞がわかる。	つ か む	・クラスの仕事調べのグラフを見て話し合う。 〈学級の仕事調べのグラフ〉
	・地域でさかんな陶磁器工業について、意欲的に追求することができる。	さ ぐ る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 土岐市でさかんな仕事は何だろう。 </div> ・P43のグラフから、どんな工場で働く人が多いのが調べられる。(G)
		ま と め る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> どうして陶磁器の仕事をする人が多いのだろう。 </div> ・原料の生産地の地図をみて話し合う。 〈原料の生産地の地図〉
		評 価	・陶磁器工場の調べ方についてまとめる。 ・陶磁器工業がさかんな理由がわかったが。

話し合うことができる。	・グループや個人のためあてをもち見学できる。	・役割を決め、グループの作品づくりができる。
2	3・4・5	6・7
陶磁器工場の見学の視点を決め、計画を立てることができる。	前時に話し合ったためあてに従い、陶磁器工場の見学ができる。	陶磁器ができるまでの工程をつかみ、それぞれの仕事をまとめることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・陶磁器を見て、作り方を話し合う。(G) 〈茶わん、皿〉 	陶磁器工場の見学	<ul style="list-style-type: none"> ・見学して調べたことをまとめる。(G)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 見学してくることをまとめよう。 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 見学したことをまとめよう。 </div>
<ul style="list-style-type: none"> ・何を見学してくるかを話し合う。 ◎作る工程 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな順序で。 ・どんな仕事があるか。 ◎原料 <ul style="list-style-type: none"> ・何で、どこから来るか。 ◎製品 <ul style="list-style-type: none"> ・どれくらい作るか。 ・どこへ送るか。 ◎働く人 <ul style="list-style-type: none"> ・何人くらいか。 ・どこから来るのか。 ・見学ノートを整理する。 	陶磁器工場の見学	<ul style="list-style-type: none"> (G) ・グループで見学のまとめをする。 ・陶磁器のできる順序を確かめ、まとめる。 原料→製品→発送 ・それぞれの仕事についてわかったことをまとめる。 ◎原料について ◎働く人と機械 ◎仕事の工夫 ◎気をつけていること ◎働く人の様子。
<ul style="list-style-type: none"> ・見学のめあてづくりができたか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・めあてにそって見学ができたか。

・自分の考えを持ち、グループの話し合いに参加できる。

8 (本時)	9	10
<p>陶磁器工場では、買ってもらうに喜ぶでもらえる物を作るため、不良品を出さないように努力していることがわかる。</p>	<p>工場が国道などに近いのは、原料や部品を運んだり、働く人が楽のことに利便がよからだということがわかる。</p>	<p>陶磁器試験場は、より良い製品を作るために努力していることがわかる。</p>
<p>・2つの皿も比べ、違うところを見つけ、話し合う。(G) <不良品量場のスライド、良品の皿と不良品の皿></p>	<p>・工場のある場所について話し合う。 <工場のある場所の記入した地図></p>	<p>・見学でのメモをもとに、試験場の仕事を思い起す。 <社会見学でのメモ></p>
<p>おばさんは、なぜ一つ一つていねいに調べるのだろう。</p>	<p>工場が道路のそばにあるのはどうしてだろう。</p>	<p>どうして試験場はどんな仕事をしているのだろう。</p>
<p>選別作業をしているおばさんのスライドを見て、話し合う。(G)</p>	<p>・見学で聞いたことをもとにして話し合う。(G) ・原料の仕入先・製品の販売先・働く人の通勤地図をもとに考える。</p>	<p>メモをもとに、試験場の仕事をまとめる。(G)</p>
<p>こんなたくさん不良品がでたら、もうからないのに。</p>	<p><原料の仕入先・製品の販売先・通勤地図></p>	<p>工場で作らないで、なぜ試験場でやるのだろう。(G)</p>
<p>・加藤さんの話を聞く <願いのわかるテープ> ・勉強してわかったことをまとめる。</p>	<p>・P45のねがいを読んで確かめる。</p>	<p>・P52の資料をもとに考える。</p>
<p>おばさんは、不良品を出さないように、一つ一つていねいに調べている理由がわかったか。</p>	<p>・国道をいっただけが輸送面が働きの面から良いことがわかったか。</p>	<p>・長い陶磁器を作るために陶磁器試験場があることがわかったか。</p>

・自分の考えを持ち、グループの話し合いに参加できる。

11

陶磁器工場では、つくられた製品を全国各地へ送っていることが美濃焼卸南業団地の働きからわかる。

・美濃焼卸南業団地へ行った経験を話し合う。

卸南業団地では、どんな仕事をしているのだろう。

・見学でのメモをもとに話し合う。(G)

一けんの中でやればいいのに、どうして卸南業団地をつくったのだろう。

狭い道に立ち並ぶ陶磁器南の様子のスライドを見て話し合う。(G)

<陶磁器の伸び率を示すグラフ。上のスライド>

卸センターのおじさんの話をもとにまとめる。

卸南業団地の働きから、他の都市とのつながりがわかったが。

・新聞作りで、わからないところを教え合えることができる。

12

学習してわかったことやわからなかったことをまとめることができる。

・とうじきづくりについてまとめた「おしらせ」をつくることを知らせる。

「とうじき」しんぶんをつくらう。

・しんぶんをつくるつくり方やめあてをつくる。

・つくり方の順序にしたがって作業を進める (G)

発表会をする。(時間がなければ、掲示する。)

・しんぶんにまとめることができたが。

5. 本時の目標 (認知目標)・選別作業を通して、買ってもらえる理解できる。

(態度目標)・自分の考えを持ち、グループで




6. 本時の展開 (8/12)

過程	学習のねらい	主な発問	形態
フ か む	不良品はたくさん であるが、その不良品 には、小さなきずの ものまで含まれて いることがわかる。	1. これは、売れないものが揃んであります。 どうして売れないんだろうね。 <資料-不良品が揃んである様子のスライド> 2. 3つの皿を比べ、違うところを 見つけよう。 <資料-> 良品の皿 ↙ 小さなきずの皿 ↘ 大きなきずの皿	一斉 G
さ ぐ る	おばさんが、一つ 一つ、ていねいに調 べる意味を理解す ることができる。	3. おばさんは、どうして、こんなに きびしくけんさをするのだろう。 <資料-選別作業をしているおばさんの スライド> 4. こんなにたくさんの不良品がで たら、もうがらないのじゃないの。	個 G 一斉
ま と め る	加藤さんの願いや 努力がわかる。	5. 社長の加藤さんの話を聞こう。 6. 今日、勉強してわかったことを まとめよう。	一斉 個

評価 (認知目標) ・おばさんは、不良品を出さないよう

(態度目標) ・グループ学習で、自分の考えを発表

う人に喜んでもらえる製品を出荷するために、きびしい検査をしていることが話し合いに参加できる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・割れているから。 ・黒いものがついているから。 ・欠けているから。 ・切れているから。 <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>① </p> <p>② </p> <p>③ </p> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・③の皿は黒いものがついているけど、①と②の皿はいいよ。 ・③の皿はかけているけど、①と②の皿はきれい。 </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・①の皿はいいけど、②の皿も少しへんぞるところがあるみたい。 ・①の皿はきれいだけど、③の皿は、切れている。②の皿は……。 <p>(各自、ノートに考えを書く。)</p> <p>グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばさんは、③の皿のようなきずのついたものが混ざらないようにしている。 ・お客さんが買って、少しでもきずがついているといやだからくわしくけんさをしている。 ・一つでもへんな皿が入っていたら、他にもあると思われちゃうからもう買ってもらえなくなる。 ・もし、へんな皿があったらもう売れなくなるから、やっぱりきびしくけんさしないけない。 ・もし不良品までまじっていたら、信用がなくなって、もう買ってもらえなくなる。 ・工場の信用がなくなったらおしまいだから、きびしくけんさする。 <p>(ほくの考えたとおりだ。)</p> <p>ノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで3つの皿を比べ、違いを見つけさせる。 ・③の皿のきずは、ちょっと見たら気づけられないものにし、子どもにきずをもたせ、課題とつなげたい。 ・③の皿も不良品であることをおさえる。 ・わからない子には、自分が買う時のことを考えさせる。 ・グループ発表では、全員の子に発表させる。 <p>・多数の不良品がでても、なおきびしくすることを、工場の信用問題へとつなげたい。</p> <p>・検査の大切さがわかる内容で、わかりやすく話してもらおう。</p>

に、一つ一つていねいに調べている理由がわかったか。(発言・ノート)
 することができたか。(発言)

第4学年 音楽科学習指導案

公開 第1校時

教室 視聴覚教室

指導者 丹羽 裕子

1. 題材名 楽しい合奏
2. 題材の目標 楽器の音色や響きの特徴を感じとり、パートの役割を理解して正しく合奏することができる。
3. 教材群 A. いたすら、このいたちくん
B. 茶色の小びん

4. 指導観

① 題材及び教材(茶色の小びん)について

この題材では、歌声とちがい 楽器を使うことにより、様々な音色や響きにふれることができ、自分の声では出せなかったものに親しむことができる。また、合奏であるから 1つのものをみんなで作りあげる喜びも味わうことができる。そのため、完成したもののだけを評価するのではなく、作りあげていく過程を十分に評価していきたい。

「茶色の小びん」は、シンコペーションのリズムと四分音符の連続の(カカ)と(カカ)リズムパターンからできているので、リズムに乗って楽しく歌える曲であり、リズム伴奏を入れた合奏ができる曲でもある。リズムに乗りながら楽しく合唱、合奏ができるため、特にリズム中心に学習させていきたい。

合唱で、リズムがはきりとれ、拍を感じさせるようにするため、体からリズムを感じとれるようにさせたい。そのため、体を揺らしながら歌わせるように常に心がけたい。

合唱で十分リズムにのれるようにしておき、そのリズムを体で感じながら合奏に入ると、パートができるようになる段階も、リズムから離れないで練習ができるようになるため楽しく練習ができる。そのリズム伴奏は、打楽器を即座に導入してしまうのではなく、身近なものから(例えば足音、手拍子、机をたたく音 etc.) 広げていくようにして、体で拍をとることから打楽器へと自然につながるようにして学習させたい。

② 児童の実態

楽器は、4月当初より リコーダーに多く親しんでいるが、リコーダーの技能は、1時間で1つの曲をマスターできる子が、クラスの2/3おり、意欲的に取り組むことができる。タンギングなど細かい奏法が男子の中で特に身につけていないため、ミニでの「ほむむ感じ」にあてはめて確実に身につけさせたい。楽器を扱うのは、ミニが始めてで、非常に興味をもっているのだが、扱い方を学習している^{（木琴、リズム楽器）} 初歩の段階である。興味を乗せにつなげられるよう、体でリズムをとりながら演奏できるようにしたい。

③ 学級集団づくり

仲間というものはどういうものかを常に考えながら、指導をしてきた。そのため、班内のつながりは、特に大切にしており、個人をほめるのとよりも、お互い高まり合った時にほめる点に重点を置いている。

グループ学習でも、結果的にとらえるのではなく、その過程において、どう取り組んだのか、励まし合いができたのかの点で評価するようにしている。そのため、音楽の学習では、個人学習よりもグループ学習の方が自分の技能が上達したと感じる子が、全員であった。しかし、そう感じる時は、グループ学習の雰囲気がとても良く、意欲的に取り組んだ時で、毎回感じる事はできていないので、いつでも感じることをできるよう、意欲的に取り組ませるようにしたい。

5. 単元指導計画 (全8時間 本時第8時)

身に付けた能力	
音楽的諸能力	態度
<ul style="list-style-type: none"> ハ長調の視奏ができる。 リズムや旋律の特徴を生かして合奏をすることができる。 二部合唱の奏の技術を高めることができる。 オーケストラの表現に親しみ、いろいろな楽器の音色や特徴をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 拍子やリズムの違いを感じ、合奏を楽しもうとする。 グループで発表したり、聴き合ったりできる。 弾んだリズムにのり、身体表現をしようとする。 パートの役割を理解し、互いに協力して楽しく合奏ができる。

	1.	2.	3.	4.
目標	楽器の音色や特徴を感じとって聴くことができる。	情景を想像しては自分で感じて歌うことができる。	主旋律をリズムにのって演奏することができる。	副次的な旋律を正しく演奏できるようにし合奏することができる。
つかむ	① 「いたずらっこのいたちくん」を全曲を通して聴き、感じたことを話し合う ② 曲名、作曲者を知る。	① 「茶色的小びん」の歌詞を読み、情景について話し合う。 ② 範唱コードを聴き、曲の感じについて話し合う。	① 「茶色的小びん」を斉唱する。 主旋律をリコーダーでふけるようにしリズムにのって演奏しよう	① 「茶色的小びん」の主旋律を斉唱・演奏する。 ② 副次的な旋律の入った二重奏を聴く
さぐる	③ 主な旋律(テーマ)をラウラで歌い②④の感じの違いを話し合う 楽器の音色がどんな様子をあらわしているか考えよう。	は自分で感じて楽しく、はきり歌おう ③ 拍子打ち、リズム打ちをし互いに聴き合う ④ 主旋律の階名唱歌詞唱をする	② 主旋律を階名唱する リズム打ちをする。 リコーダーで視奏する。 ③ グループ練習をする。 ④ グループ発表をする	副次的な旋律を正しくふけるようにし、楽しく合奏しよう ③ 副次的な旋律の階名唱をする。 リコーダーで視奏する ④ グループ練習をする
まとめる	④ 楽器の音色、特徴に耳をつけて聴く。 ⑤ イメージをふくらませ物語を作って発表する	⑤ フレズのみとまりを感じながらは自分で感じて歌う。	⑤ リズムにのって全体演奏をする	⑤ グループ発表をする ⑥ 全体で合奏する
評価	曲想の変化をとらえて聴くことができたか。	はきりとした発音では自分で歌えたか。	主旋律が正しい運指で演奏できたか	副次的な旋律が正しい運指で演奏できたか。

人間関係に関わる態度目標

- 反だちのつまずきや努力について暖かい 褒めあいができる。
- 合わせる活動により、相手のことをよく聴いたり、相手を思いやる気持ちができる。
- 自分の意見を仲間の中へ進んで出して行き、お互いに高めあうことができる。

5	6	7	8 (本時):
拍の流れにのって 低音伴奏を入れる ことができる。	リズム伴奏を工夫 して演奏すること ができる。	響きの美しさを感じと り、正しく合奏するこ とができる。	リズムにのった演奏 ができる。
① 「茶色的小びん」を 二重奏する。 ② 低音の入った演奏を 聴き、感じを話し 合う。 主旋律に合わせて 低音伴奏をはずんだ 感じてひけるように しよう ③ 低音の階名唱、リズム 打ちをする ④ オルガンで視奏する。 ⑤ グループ練習をする ⑥ グループ発表をする ⑦ 全体で演奏する	① 「茶色的小びん」を 合奏する。 ② リズム伴奏の入った 演奏を聴く。 曲に合ったリズム 伴奏を工夫しよう ③ リズムパターンを 練習する ④ どのリズムが、どの フレーズに合うか 話し合う ⑤ 楽器選定をする ⑥ グループ練習をする ⑦ リズム伴奏を加えた 合奏をする	① 「茶色的小びん」を 合奏する。 ② 新しいパートの入 った演奏を聴く。 ③ 役割分担をする 木さんのパートを 入れて、合奏できる ようにしよう。 ④ グループ練習を初 各パートの音量の バランスを考えた 演奏 ⑤ グループ発表	① 「茶色的小びん」を 歌う ② グループで合奏する ③ 乾奏パートを聴き グループ合奏の問題 点を話し合う はずんだ感じて 合奏しましょう。 ④ グループ練習をする ⑤ グループ発表をする
はずんだ感じて 低音伴奏がひけたか	拍の流れにのった リズム伴奏が入れられ たか。	響きのある演奏が できたか。	はずんだ合奏をする ことができたか。

本時の展開

- ① 本時の目標 (認知目標) リズムにのって合奏することができる。
 (態度目標) グループで聴き合い、意見を出し合いながら練

② 展開

段階	学習のねらい	主な発問	形態
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 学習の雰囲気作り 本時の課題を見つけることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体ごとはずみながらあいさつしましょう。 2. グループで合奏してみましょう。 ・節奏テープと自分達のグループの合奏を比べて聴いてみましょう。 3. 今日はこの合奏を完成させるためにはずんだ感じで合奏しましょう。 	一斉 G 一斉
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> はずんだ感じを出すためには何を工夫すればいいかわかる。 はずんだ感じで合奏できる 	<ol style="list-style-type: none"> 4. はずんだ感じができるためにはどう工夫すればいいだろう。 ・合唱の時を思い出してみよう。 5. はずんだ感じで合奏できるようにグループ練習しよう。 	G
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 本時の成果を味わうことができる 	<ol style="list-style-type: none"> 6. グループ発表をしよう。 	一斉

- ③ 評価 (認知目標) 体でリズムにのりながら(身体表現をつけて)演
 (態度目標) グループの演奏に関して自分の意見を言うことがで

習できる。

学習活動と予想される子どもの反応	指導上の留意点	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい音楽はじめましょう。はじめましょう。」 ・グループごとに合奏をする。 ・節奏テープを聴く ・感想交流 <ul style="list-style-type: none"> ・もっとほすんだように合奏したい。 ・もっとそろうように合奏したい。 ・主旋律がもときえるようにしたい方がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現できた子ととりあげる。 ・テープの長さだけでなく自分達は どう合奏したいかという意見まで 言わせるようにする。 ・グループのめざすところがちがっている 時は共通なものを取りあげる。 	楽譜 めあて の紙
<ul style="list-style-type: none"> ・有唱 <ul style="list-style-type: none"> ・「音を短くきって歌った」 ・「体でリズムをとりにながら歌った」 ・「♪♪の音の長さを正しくとって歌った」 ・グループ練習 <ol style="list-style-type: none"> 1. めあてを言う 2. 全員で合奏 3. グループの段階を確かめる 4. 練習する <ul style="list-style-type: none"> ① 音の長さが正しくふける <ul style="list-style-type: none"> ・ 拍をとりにながら合奏できる ・ 休符が正しく休める ・ ♪と♪の長さが正しくのほせる ② リズムにのりながら合奏できる <ul style="list-style-type: none"> ・ リズム伴奏とききながら合奏できる ・ 体のどこかで拍をとりにながら合奏できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習を思いださせる ・ 音を短く切るところはこの 音が楽譜の上で確認する。 ・ ♪♪の部分が出るときは教師が 提示する。 ・ グループ巡視 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の長さに関心しているか どうか評価する ・ 聴き役がただの聴く人にな っていないか。拍子とりや 指揮ができるようにする。 ・ お互いが音を聞きあえるよ うに相手を見ながら合奏 できているか。 ・ アイデアを出しているグルー プを評価する。 	グループ 楽譜 学習 カード
<ul style="list-style-type: none"> ・ エ夫したところを発表し、演奏する。 ・ 感想発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとの工夫を十分紹介 させる。 	

奏することができたか。【グループ練習、グループ発表】

できたか。【グループ練習】

7 茶色の小びん

美 龍 明 子 作詞
ヨセフ ウィンナー 作曲☆

♩ = 132~144

1 おがわの ほとりの ちいさな こやに
2 ちやいろの こびんを ふたりで ゆすりや
3 ともだち きたときゃ えがおで むかえ

(オクターブひくく)
右手1 2 3 4 5 1 4 1
左手4 2 1 2 1 5 2 5

1 2

ふたりは たのしく すんでい ました
こうちやに ぎゅうにゅう なんでも できるよ
ちやいろの こびんで ジュースを どうぞ

[オルガン] *じりしの音

ソ ド ミ ソ



5 1 1 3 2

4 2 3 1 3

おくの たなの ちいろの こびんは
 リンロンロン ランリンロン のどをうる おして
 リンロンロン ランリンロン なみなみと ついで

1 2

4 3 3

いつも ピッカピカ まほうのこび んです
 いつも ごきげん ならんででか けます
 のめば ごきげん うたもはず みます

〔リズムばんそう〕 ♪-♪をさんこうにして、くふうしましょう。

♪いろいろな楽器の音色やリズムに気をつけて、楽しく合奏しましょう。

第4学年 学級会活動(話し合い活動)指導案

公開
教室
指導者

第1校時
4年4組
山本 青代

1. 議題名 “チャレンジ体カ”の方向を考えよう
2. 議題設定の理由

9月の運動会を契機とし、体カづくりに挑戦しようと「チャレンジ体カ」をグループ単位で実施してきた。実施しているうちに、さまざまなグループがあることに気づく。

- ・ 班長中心にまとまりを見せるグループ
- ・ やる気がない子を励ましながらかつ活動するグループ
- ・ 自分本位な子が多く、問題が絶えないグループなど。

そこで、意欲的に活動しているグループは、より楽しく活動できるように、また、今ひとつ円滑さに欠けるグループは、問題を解決するために、「チャレンジ体カ」を見直してみようと班長会議で意見一致し、この議題に決定した。

3. 指導観

① 議題のとらえ — 価値観

「チャレンジ体カ」はグループごとに実施している。したがって、グループの中での助け合い、励まし合い、注意し合いといった、班長相互の呼びかけ合いが当然必要となってくる。しかし、実施するうちに、忘れてしまいがちなのは、個人の努力する姿勢である。「チャレンジ体カ」は仲間づくりも目的としているが、個人のやる気がなければ全くの無意味なものなのだ。この議題を通して、もう一度、より良い個人の取り組み姿勢を考えさせたい。

また、本時は「チャレンジ体カ」の方向を考えるということで、まず、子ども達は、「方向」という言葉にとまどうであろう。前回の学級会で内容を考えた時は全員が同じメニューをこなすという条件があった。しかし、今回は、「より楽しくより意欲的に」なることなら、メニューを変更してもいいし、同じメニューで方法を考えてもいい。つまり、それぞれのグループがそれぞれの計画のもとに活動するというのをしっかり押さえておきたい。

この話し合いを通し、「チャレンジ体カ」の取り組み姿勢について反省でき、個人、グループとしての活動に意欲が持て、より積極的な子どもの姿を願っている。

② 児童の実態

男子18名、女子19名、合計37名の男女バランスのとれた学級である。全体的に明るく、活動的であるが、自己中心的な考え方をする子が多く、仲間に協力する姿勢をとれる子は少ない。また、発表者に片寄りが見られ、声がかなり小さい。足の長い発言や、友達の見聞に関わっての発言ができない。小集団学習では、班長中心に、ひとりひとりが意見を言えるようにしたい。

〈チャレンジ体カへの取り組み〉

1) チャレンジ体カをしていて 楽しいですか。

楽しい・ふつう (28人) 楽しくない (9人)

2) なぜですか。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・朝ががんばると気持ちがいい。 ・足が少し速くなった気がする。 <li style="text-align: center;">(個人として) ・グループの子と仲よくなれた。 ・他のグループと競争して面白い。 <li style="text-align: center;">(グループとして) | <ul style="list-style-type: none"> ・時間までに集まらない。 ・文句を言われる。 ・今のメニューがイヤだ。 ・朝は他の遊びがしたい。 ・面倒くさい。 |
|---|--|

③ 学級集団づくり

学年目標 「自分の考えを持って 行動する子」

学級目標 「みんなで注意し合い、友達とおもうクラス」

4月から、子ども達ひとりひとりが4年生であることを自覚し、学級をより良くしようと努力する姿、集団の意識の高まりを期待し、指導してきた。

朝の活動、帰りの活動には、次のようなものを設けた。(右はめざすもの)

- | | | |
|----------------|-------|---------------------------------------|
| イ) 今週のめあて | → (個) | めあてを持って生活する大切さ |
| ロ) めあての反省 | | ・めあてに向かってがんばる |
| ハ) 友達の話 | | ・来週に直したいこと、我をふりかえる |
| ニ) 図書館へ本を借りに行く | → (個) | 友達の良さを見つける、鬼いやりの心育成 |
| ホ) グループ活動 | | |
| ヘ) 係活動 | → (年) | 個人の活動意欲
班員相互のよびかけ合い
仲間とともに高まる姿勢 |
| ト) 係へのお願い | | |
| チ) 係からのお知らせ | | |

4年生という発達段階から、自己中心的で、乱暴したり、悪口を言ったりと協調する姿勢がなかなかつけないでいる。しかし、問題が出れば学級で話し合うなど、根気強く「考えて行動する」ことを説いている。

4 実施計画

身につけたい力

- ・ チャレンジ体カを楽しみながら積極的に取り組める。
- ・ 自分の意見を友達へ広めることができる。

活動の計画

指導の内容

(放課) 班長会議で「チャレンジ体カ」の案をつくる。	チャレンジ精神に基づいて、自分の体カに挑戦してみよう。グループ単位で活動し、個人記録が残るものを決める。
(短学指) 班長会議で決めた案についてアンケートをとる。	班長会議での経過を知らせるとともに、メニューについてどう思うか、自分の考えを表面化させる。
(放課) 班長会議にて、アンケート結果をまとめる。	仲間がどの点で賛成し、どの点で反対をしているか考えさせる。次時学級会の議題決定。
①学級会 「チャレンジ体カ」のメニューを決めよう。	グループとして助け合いができるもの、個人として成果がわかるものを入れさせたい。チャレンジ精神の素晴らしさ、グループの呼びかけ合いの大切さを運動会を通して話す。
(放課) チャレンジ班がメニューのカードを作成する。	個人の記録、グループの様子がわかるよう作成させたい。見て楽しくなる工夫をさせる。
(終わりの会) チャレンジ班がカードの記入の仕方を説明する。	記入の仕方を補足説明。 チャレンジ班の活動を評価する。
(毎朝) 「チャレンジ体カ」実施	集合時間にはいつも見に行く。子どもと一緒にメニューをこなし励まし合う。
(短学指) 「チャレンジ体カ」に対して、自分の取り組み方を反省するとともに、友達のを認め合う。	グループごとに今のチャレンジ状態はどうか確かめあわせる。友達を批判する者より、良い点を見つけた者をほめる。 次週への意欲、高まりを促す。

(短学指)
「チャレンジ体カ」についてアンケートをとる。

それぞれのがんばりをほめるとともにグループで助け合いをしている様子を例をもって話す。困っている点を表面化させる。

(放課)
班長会議を開き、アンケート結果をまとめる。また、今、問題になっていることを話し合う。

問題点を明確にさせ、それに対し、どう改善していくか、案を出させる。助言。
次時学級会の議題決定。

	本時	時
	話し合い活動	指導・援助
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 司会者による開会 班長会議による話し合いの内容紹介 より良い取り組み姿勢について交流 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をグループごとにまとめた表を提示。 ビデオで取り組んでいる様子をながす。
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> 「チャレンジ体カ」の方向を考える話し合い 各自 グループ 全体 グループごとに具体的に計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人、グループ、全体と話し合った後に、カードに自分の考えを記入する。 グループバズ (班長司会)
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに決定事項紹介 司会者による閉会 	評価 発言について 話し合いの内容について 司会係について 今後の活動について

評価

(翌日から)
新しいやり方で実施する。

変更されたことがスムーズにいこう、教師も一緒にやりながら教えていく。

(短学指)
新しく変わったところについてアンケートをとる。

問題が出たら何度でも話し合っ、よりよい「チャレンジ体カ」を作り上げよう。

5. 本時の展開

- ① 本時の目標 (認知目標) --- チャレンジ マラソンにより 意欲的
(態度目標) --- 自分の考えを持ち、カードに記入する

② 展開

	学習のねらい	話し合いの進行	形態
つかむ	・「チャレンジ マラソン」により意欲的に取り組む方法について話し合うことがわかる。	1. 司会者による開会 ・ 始めの言葉、歌、議題紹介 2. 提案者による内容紹介 3. 提案者への質問 4. 話し合いのめあての確認	一斉
さぐる	・ みんなで より意欲的に取り組む方法を考えることができる。	より楽しいチャレンジ マラソン 5. 話し合い I 6. 話し合い II (必要ならば)	個別 一斉
まとめる	・ 新鮮な気持ちで「チャレンジ体カ」に取り組もうとする意欲が持てる。	7. 話し合いの内容のまとめ 8. 先生の話 9. 司会者による開会 ・ 終わりの言葉	一斉

③ 評価

- (認知目標) --- 新しいチャレンジ マラソンの方法が見える
(態度目標) --- カードに 自分の考えを記入することができる

マになれる方向が見つけられる。
 いることができる。

児童の活動と予想される児童の反応	指導と留意点							
<p>○ これから 第〇回学級会を開きます。 今日の議題は「チャレンジマラソンを楽しくしよう」 です。提案者は〇〇さんです。</p> <p>○ チャレンジマラソンについてアンケートをとった結果、 このようになりました。 私達ががんばっているなと感心したグループを少し紹介 します。マラソンはとてまえらいことですが、もっと工夫し て、楽しくしたいと思います。</p>	<p>・アンケート結果をまとめた表を 提示する。 くわしく 必要な所を話させる。</p> <p>・良い例を実名で話させる。 助け合い、工夫、がんばりに分け た表を提示する。</p>							
<p>ンにする為のアイデアについて 自分の意見を言おう</p> <table border="1" data-bbox="95 851 925 1075"> <tr> <td data-bbox="95 851 351 1075"> <p><助け合い></p> <ul style="list-style-type: none"> 声かけ 追い抜いていく子が 力あましの声をかける 走り方についての声 以前との比較 <p>取り組み発表会</p> </td> <td data-bbox="351 851 622 1075"> <p><工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> Gが2組に分かれ てのリレー 他のGとリレー競走 呼吸法 走法 <p>取り組み発表会</p> </td> <td data-bbox="622 851 925 1075"> <p><がんばり></p> <ul style="list-style-type: none"> 朝だけでなく、放課 もやってみよう。 「がんばってるね」の声 ガンバリマン賞 駅伝大会 </td> </tr> </table> <p>全体に関わるものについて話し合う。</p>	<p><助け合い></p> <ul style="list-style-type: none"> 声かけ 追い抜いていく子が 力あましの声をかける 走り方についての声 以前との比較 <p>取り組み発表会</p>	<p><工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> Gが2組に分かれ てのリレー 他のGとリレー競走 呼吸法 走法 <p>取り組み発表会</p>	<p><がんばり></p> <ul style="list-style-type: none"> 朝だけでなく、放課 もやってみよう。 「がんばってるね」の声 ガンバリマン賞 駅伝大会 	<p>・Gで取り組める方法をまず話 し合わせる。</p> <p>個人カード使用 それぞれの区切りごと 時間を与え、自分の考えを記入させる。</p> <table border="1" data-bbox="1181 918 1356 1030"> <tr> <td>名</td> <td>前</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>全</td> </tr> </table> <p>・内容変更の話も出れば認めたい。 詳しい内容はGでもう一度考えさせ る。</p>	名	前	後	全
<p><助け合い></p> <ul style="list-style-type: none"> 声かけ 追い抜いていく子が 力あましの声をかける 走り方についての声 以前との比較 <p>取り組み発表会</p>	<p><工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> Gが2組に分かれ てのリレー 他のGとリレー競走 呼吸法 走法 <p>取り組み発表会</p>	<p><がんばり></p> <ul style="list-style-type: none"> 朝だけでなく、放課 もやってみよう。 「がんばってるね」の声 ガンバリマン賞 駅伝大会 						
名	前							
後	全							
<p>○ 今日 決まったことを発表します。クラスとして ～ を 行います。グループとしては、それぞれ、もっとくわしく 話し合い、次回から実行していきましょう。</p> <p>○ 先生の話聞く。</p> <p>○ これで 第〇回学級会を終わります。</p>	<p>・先生の話</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加態度について ② 発言(態度)について ③ 話し合いの内容について ④ 司会係について 							

けられたか。(発言内容)
 きたか。(個人カード)

第5学年 音楽科学習指導案

公開：第1校時

教室：音楽室

指導者：肥田 絹代

1. 題材 リズムにのって
2. 題材の目標 曲のもつリズムの特徴を感じとり、リズムにのって歌うことができる。
3. 教材群
 - ・いろいろな木の実
 - ・ジャマイカルンバ

4. 指導観

① 題材及び教材(いろいろな木の実)について

指導要領には、「リズムフレーズの拍の流れを感じ取り、リズムや速度の変化に応じて、演奏したり、身体表現をすること。」と示されている。この題材では、シンコペーションのリズムを感じ取って表現したり、音楽の流れに調和したリズム伴奏を工夫したりするなどの活動を取り入れる。そして、取り上げられている曲がリズムに特徴のあるラテン系の曲なので、子ども達にリズムの特徴に親しませ、楽しませることができると考える。

「いろいろな木の実」は、曲調にマッチした南国の果実を風物詩としてユーモラスに描いた歌詞がつけられており、大変楽しい曲である。

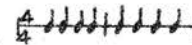
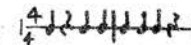
冒頭の6小節は、 カカカカ のリズムで、誰かに呼びかけるように始まる。それに続く4小節2フレーズの部分は、同音による カ と跳躍音程を中心に動きながら カカカ のシンコペーションのリズムや半音進行が変化を与え

ている。結尾の8小節は、冒頭と似たリズムの繰返しである。

以上のことから、この教材では、シンコペーションのリズムを感じ取り、歌い方を工夫したり、リズム伴奏を工夫したりして楽しく演奏させていきたい。また、合唱奏とする場合、お互いの音が美しく響き合うように音量バランスを考えた演奏ができるようにも指導したい。

② 児童の実態

やさしい声で歌うことができるが、やや自力に欠ける。この点は、一人で歌う機会を設けて、自分の歌声を認識させるようにしている。

リズム打ち、リズム伴奏は、この学年では初めて扱う。事前に実態を調べてみると、のような4分音符・4分休符のものは、43人中40人はできた。他の3人も友達のを聞きながらではできた。しかし、のような8分音符・8分休符が入るとできる子が4人中3人であった。あとの子は、まねるとできる。友達のリズムを真似たり、聞いたりすることでリズム伴奏を覚えさせていきたい。

③ 学級集団作り

グループ学習を取り入れるにあたって大切にしたいと考えたのは次の2点である。(ア) リーダーの育成 (イ) どの子もグループ内で考えが述べられること。

(ア)に関しては、グループ活動の進め方の指導、グループ活動の上打例を紹介することなどを行ってきた。その結果、進め方の要領を得始めた。しかし、どの子もリーダーとして活躍できるままで至っていない。その点での指導は、今後の課題である。

(イ)に関しては、聞き役を輪番にし感想を言う機会を作ること、自分の段階を皆の前で明らかにすることなどを行ってきた。

今後は、友達をつまづきを進んで援助する姿がみられるような人間関係を作りたい。

5. 単元指導計画 < 全6時間、本時第3時 >

身につけたい力	
音楽的諸能力	態度
<ul style="list-style-type: none"> ・エコーフレーズのおもしろさに関付き、強さの変化を工夫できる。 ・3度のシバや白い感じながら、曲の感じを生かして合唱ができる。 ・リズムの特徴が楽器に合ったリズム表現ができる。 ・リズム変化のタイミングに合った楽器演奏にリズム表現ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく表現活動ができる。 ・表現の仕方を工夫することができる。 ・楽器に合わせることができる。

	1	2	3 (本時)
目標	リズムの特徴をつかむことができる。	リズムの特徴を生かして歌うことができる。	いろいろなリズムパターンを覚えて伴奏できる。
つかむ	① 木の葉拾いの経験を生かして合う。 ② 範唱のコードと聴き、シンパジョンの感じをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> コードのリズムを感じながら歌おう。 </div>	① 「いろいろな木の葉」をシンパジョンを生かして歌う。 ② 範唱のコードと聴き、二部合唱の部分をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 副旋律を正しく歌えるようにしよう。 </div>	① リズム打ちを入れて「いろいろな木の葉」を歌う。 ② 教師のリズム伴奏をまき。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 曲に合わせて、いろいろなリズム伴奏をつけてよう。 </div>
さぐ	③ 主旋律の暗唱をする。 全体 グループ	③ 副旋律を覚える。 ・階名唱 ・歌詞唱	③ リズム譜を見ながら打つ。 曲に合わせて打つ。
る	④ 言葉とメロディにした歌詞唱をする。 ⑤ コードに合わせてリズム打ちをする。	④ グループで二部合唱の練習をする。 ・オルガン伴奏 ・主旋律伴奏 ・無伴奏 ⑤ グループで発表をする。	④ グループ練習 ⑤ グループ発表をする。
まとめ	⑥ リズム打ちを聴きながら、歌詞唱をする。	⑥ 全体合唱をする。	⑥ 全体でリズム伴奏を入れる。
評価	シンパジョンのリズムを心得できたか。	自分のパートが正しい音程で歌えたか。	正しいリズム伴奏ができたか。

人間関係に関わる態度目標

- ・自分の考えを仲間の中へ出していくことができる。
- ・友達のつまずきや努力について、励ましや認め合いができる。
- ・合唱奏することにより、相手のとをよく聞いたり、合わせたりしようとする気持ちを持つことができる。

4	5	6
フレーズの変化をリズム伴奏の変化で表現することができる。	音量のバランスを考えて演奏ができる。	楽器の特徴をつかんで表現できる。
<p>①前時のリズム伴奏を入れて「いろんな木の葉」を歌う</p> <p>フレーズの感じに合ったリズム伴奏をつけよう。</p> <p>②前時のリズム伴奏を組み合わせて、曲の感じに合うものをさがす。(グループ)</p> <p>③グループ練習をする。 ・手拍子 ・机 ・楽器の選択 ・の練習</p> <p>④グループ発表をする。</p>	<p>①「いろんな木の葉」の合唱奏をする。</p> <p>②範唱リードと比べ、直したい点と話し合う。</p> <p>音量のバランスを考えて演奏しよう。</p> <p>③全体で合唱奏をする。 ・聴き役 ・録音テープ により、バランスを評価する。</p> <p>④グループで音量バランスを考えながら練習する。 ・音量のあげ下げ ・人数の増減</p> <p>⑤グループ発表をする。</p> <p>⑥全体で合唱奏をする。</p>	<p>①「ジャマイカルンバ」を聴く。 ・身体反応</p> <p>②どんな音やリズムが聴こえるか話し合う。</p> <p>曲に合う楽器やリズムを考え、伴奏しよう。</p> <p>③リズム譜を参考に、手や机を打つ。</p> <p>④自分のリズムに合う楽器を選ぶ</p> <p>⑤楽器ごとにコーナー練習。</p> <p>⑥代表者による発表をする。</p>
曲に合うリズム伴奏ができたか。	合唱とリズム伴奏のバランスを考慮することができたか。	曲に合った楽器で演奏できたか。

6. 本時の展開

- ① 本時の目標 (認知目標) 5つのリズムパターンを覚え、曲に合わせ
 (態度目標) 自分のつまずきを出し合い、教え合うこと

② 展開

段階	学習のねらい	主な発問	形態
つかむ	秀田気作りをねることが出来る。 前時までの学習を想起することができる。 本時の課題をつかむことができる。	リズム打ちを入れて「いろいろな木の葉」を歌いましょう。 今度は先生がリズム伴奏を入れておきます。みんなのリズム打ちとどちらがいいか聴いてね。 曲に合わせていろいろなリズム伴奏をアツよう。	一斉
さぐる	リズム視奏ができる。 曲に合わせてリズム伴奏をすることができる。	リズム譜を見ながら、打ってみよう。(手) 曲に合わせて打ってみよう。 みんながリズム伴奏ができるようにグループで練習しよう。	一斉 ペア G
まとめる	本時の成果を味わうことができる。	曲に合わせてリズム伴奏を入れましょう。	一斉

- (認知目標) 5つのリズムを正しく打つことができた
 (態度目標) 自分のつまずきを言えたか。友達に影響

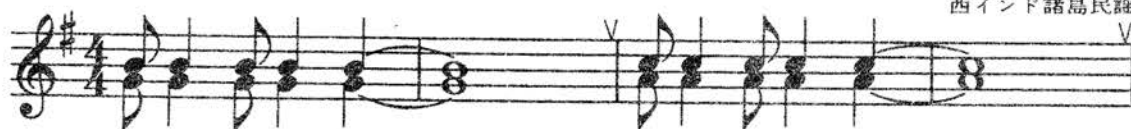
せてリズム伴奏をすることができる。
とができる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	準備
<p>「5年1組集まって…始めましょう。」 指揮者…めあて 聴き役…感想</p> <p>5つのリズム伴奏を入れて、聴かせる。</p>	<p>最後の音はロングトーンで歌わせる。</p> <p>リズム伴奏にあこがれを持たせ、意欲化を図らせる。</p>	<p>楽譜</p> <p>リズムのめあて</p>
<p>(ア) $\frac{4}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ (イ) $\frac{4}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ (ウ) $\frac{4}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩</p> <p>(エ) $\frac{4}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ (オ) $\frac{4}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩</p> <p>範唱レコードに合わせてリズム伴奏をする。 } ・ア、イ、ウのみ 友達の歌に合わせてリズム伴奏をする。 } ・エやオとの組み合わせで</p> <p>グループ練習をする。 ・各自のつますきを言い合う。 ・グループのめあてを作る。 ・練習をする。 — リズム唱をしながらリズム伴奏をする できる子のとききながらリズム伴奏をする。 歌を入れてリズム伴奏をする。</p> <p>お互いに教え合い、励まし合いのできたグループが発表する。 2種類の伴奏が入れられたグループ</p>	<p>リズム唱 → リズム唱 + 手拍子 → 手拍子のみの順で練習させる (オ)は、7や2小節異、リズムのため できない子が多いと予想する。 歌で…リズム唱、速度をゆくりにする できる子のとききながら打つ</p> <p>段階表</p> <ol style="list-style-type: none"> 歌いながらリズム伴奏ができる 曲に合わせてリズム伴奏ができる リズム視奏ができる 	<p>段階表</p>
<p>歌に合わせて、リズム伴奏を入れる。</p> <p>歌 — (ア)の(イ)の(ウ) — (エ)の(オ) の3つに分けて行う。</p>	<p>評価は教師が行う。</p>	

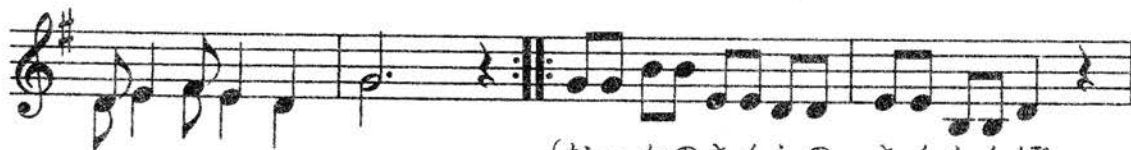
か。(グループ練習、最後の歌)
えることができたか。(グループ練習、一斉)

⑥ いろいろな木の実

♩ = 120~132

中山知子作詞
西インド諸島民謡☆

1・2 いろんなきののー いろんなきののー



みがるんだよ

- 1 { おーかのさくらの さくらんぼ
きいろいバナナが うれるのは
- 2 { せいたかのっぼの パパイヤのみ
パイナップルはー かくれんぼ

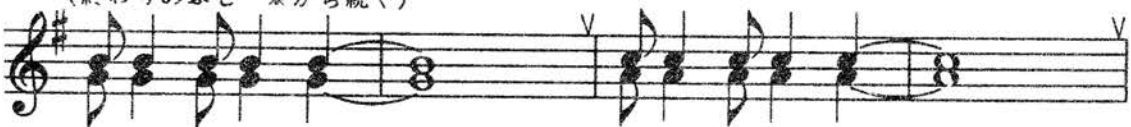


かぜにふかれて ゆれていた だれもしらない
うみのむこうの あついくに けさはおいしく
ひいとみあげりゃ ちぎれぐも おいらはおもくて
しまのはたけは いいてんき みどりのはっばを



ひるさがり のっそりけむしも ぶらぶら
なったかな さーるがきのぼり するする(2番へ)
とべないが あそびにこないか ふわふわ
かきわけて おにさんどこだろ きょろきょろ*

(終わりのふし *から続く)



いろんなきののー いろんなきののー



みがる みがる みがるんだよ

(ノ…主なふし)

第5学年社会科学学習指導案

公開 第1校時

教室 5年2組

指導者 岡本 康彦

1、単元名 伝統に生きる工業

2、単元目標

土岐市的美濃焼作りを中心に、その技術や特有の製法を調べることにより、わが国では昔からの技術を受け継ぎ、自然の条件を生かしながら生産を続けている伝統的な工業が行なわれていることを理解し、その伝統を守っていかうとする人々の願いや努力がわかる。

3、指導観

①教材の解釈

5年社会科の国土における工業生産では、わが国の近代工業と伝統を生かした工業（以下、伝統工業と呼ぶ）を取り上げている。そして、これらの工業生産において、人々が原料、土地や交通などの諸条件との密接な関係のうえに生産を高める工夫をしていることを理解させるとともに、国民生活の向上にとって大切なはたらきをしている工業生産の意味について考えさせることをねらっている。

近代工業ではテレビ工場と製鉄所を取り上げ、機械技術を用いて大量に製品を生産する工業を学習してきた。

そして、本単元、伝統工業では、機械力よりはむしろ人間の技術を生かし、道具を用いた作業によって生産する工業を扱っていく。

そこで、児童の生活の場——土岐市にある伝統工業・美濃焼きを取り上げ、伝統工業の具体的内容

(1)人々が原料や土地の条件を生かしながら生産していることを理解すること。

(2)生産する人々の技術や製品のもつ意味について考えること。

(3)伝統を守っていかうとする人々の願いや努力について考えること。
を学習させていきたい。

(1)については、愛知県の瀬戸から岐阜県の東濃地方の一帯は、日本でも有数の良質の陶土が取れる地帯であったこと、また、窯を焼く時に必要な薪も豊富にあったことを歴史的背景をふまえながら考えさせたい。

(2)、(3)については、伝統的な技術を生かして美濃焼をつくっている人（加藤勝之さんの姿）を通して、その人々の技術や、技術を習得するための

長年の苦勞や努力に迫る。更に、技術を駆使して生産された製品は、昔ながらの味わいのある心休まる素晴らしいものであること、そして、製品自体が伝統的な技術を伝え、より発展させるものであることを考え、児童に美濃焼の良さを理解させたい。

② 児童の実態

5年生の社会科ではほとんど見学にいけなかったため、写真、グラフ、文章表、VTR、スライド等の資料を使い学習を進めてきた。子供達は、写真スライド、VTR、では興味を示し細かな所まで事実気づくようになってきた。

しかし、

- ・表、グラフ、文章資料となると読み取る力が弱く、特にパーセントで表してあるものや、一つのグラフに二つの要素が入っている場合など読み取れない子供が多い。
- ・事実等を読み取っても、そこから「なぜ・・・」「どうして・・・」といった疑問や考えをもち、進んで調べてみようといった態度や習慣がつかない。
- ・課題があっても、自分で資料を探したり考え合おうとせず、教科書に頼る子供が多い。

本単元の先行知識としては、三年生の「陶磁器作りの盛んな町」の単元で陶磁器のでき方、陶磁器の販売等を学習しているが、子供達の家庭で陶磁器に関わる仕事をしている人が少ないため関心は弱いと思う。

このような実態のため、土岐市の代表的な産業である美濃焼の伝統的工芸品としてのよさや伝統工業の意義をわからせていきたい。そのため、伝統的な技法で陶器をつくっている加藤さんの工場見学やろくろなどの体験学習を取り入れて学習を深めていきたい。

③ 学習集団づくり

社会科では、資料に出会った時に、その資料がもつ事実気づき、発表したり、予想したり、友達との話し合いで考えを深めたりすることが大切である。しかし、一学期の様子では事実気づかず、自分の考えをもてない子供が多かった。また、自分の考えをもっても、それを発表まで至らない子供が多かった。そこで、まず、自分の考えをもてるよう書く活動を大切にしてきた。そして、その考えをグループの話し合いのなかで出し合うようにしてきた。友達のを聞き、自分の考えに自信をもったり深めたりすることによって、発表の意欲をもたせてきた。また、自分の考えをもてない子供も、友達のを聞くことによって考えがもてるようになってきて、全体の場で発表できるようになってきた。

このように、全員が自分の考えをもち、全員がグループの中で話し合い参加できることを目指してきた。そこで、現在では、考えを出し合う中で同じ考え違う考えをまとめ、話し合いを深めていくことをリーダーを中心に指導している。

4. 単元指導計画

伝 統 に 生 き る 工 業	つきたい力	人間関係	リーダーを中心に話し合いができる。	
	目	時	1	2
	標	目	日常生活において伝統的工芸品と呼ばれる物が数多くあることがわかる。	美濃焼は地理的、歴史的条件を生かして、生産されてきたことがわかる。
	つ	つ	・伝統的工芸品の資料や実物を見て気づいたことを話し合う。 ＜実物や写真＞	・土岐市の人々の仕事と工場の数、種類の資料からわかったことを話し合う。 ＜人々の仕事と工場の種類と数のグラフ＞
	か	か	・土岐市の伝統的工芸品（美濃焼）と機械づくりを比べる。	なぜ、土岐市には陶磁器工場が多いのだろう
	む	む	伝統的工業とは、どんな工業だろう。 見た感じ、触った感じ	・副読本や聞いた話しをもとに、工場の多い訳を考え話し合う。 いつごろから、美濃焼は作られてきたのだろう。
さ	さ	・伝統的工業について学習したいこと、調べたいことをまとめる。	・陶磁器の歴史年表を見て話し合う。 ＜土岐市陶磁器歴史年表＞	
ぐ	ぐ	・伝統的工業は手作りで生産している工業ということがわかり、これからの学習の方向がわかったか。	・土岐市に陶磁器工場が多いのは、原料があったこと昔から作られていたことがわかったか。	
る	る			
工				
業				

グループや個人のめあてをもち見学できる。			
3	4	5	6 7 8
加藤さんの工場での工程をつかみ、陶器作りを体験し手作りの難しさを知る。			近代的な技術で陶磁器を作っている工場の様子を知り、伝統的な技術の理解を深めることができる
<p>・手作りで陶器を作っている加藤さんの作業工程をスライドで見て話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> <p>自分たちも加藤さんのように、ろくろで茶わんができるだろうか</p> </div> <p>・ろくろを使い茶わんを作る。 ・粘土をきくねりする。 ・ろくろを使う。</p> <p>・ろくろで作った感想を話し合い、見学計画を立てる</p>			<p>・見学の視点にそって見学する。</p> <p>(1)きくねり (2)ろくろ (3)はまけづり (4)乾燥 (5)絵つけ (6)上薬ぬり (7)窯やき (8)検査、箱詰め</p> <p>・願いや苦勞など聞きたいことを質問する。</p> <p>・見学したことや聞いたことを見学カードにまとめる。</p>
<p>・工程がわかり、手作りの手作りの難しさを体感し、見学の目当てができたか。</p>			<p>・伝統的な技術で作っている加藤さんは、一貫して手作業であることがわかったか。</p>

単元導計画

	リーダーを中心に加藤さんの苦勞や願について話し合おう。	
時	10 (本時)	11
目標	伝統的な昔ながらの方法で素晴らしい美濃焼を作りたいという加藤さんの願いがわかる	美濃焼の伝統的な技術を伝え発展させるための施設を知り美濃焼の将来を考えていることがわかる。
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤さんが作った茶わんと近代工場でできた茶わんの違いを見つけ話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃焼伝統会館のスライドを見て話し合う。
さぐ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">加藤さんは、なぜ、昔ながらの方法で美濃焼を作っているのだろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">加藤さんは、高く売るためだけで美濃焼を作っているのだろうか</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">美濃焼の技術は、どのように受け継がれているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統産業会館等の施設を調べ、できた理由や働きについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ、伝統工芸品マークをつけるのだろう。</div>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤さんが手作り茶わんを作っている理由を調べる。〈加藤さんの年表と話〉 ・加藤さんの願いをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を守っていこうとする人たちの願いをまとめる。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤さんの陶器作りの願いを考えることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統会館ができた理由がわかり、伝統を守っていこうとする人々の願いを考えられたか。

グループで調べたり、まとめたりできる。	
1 2	1 3
<p>陶磁器の他に、日本各地にある伝統的な技術を生かした工業があることを知る。</p>	<p>美濃焼をはじめ伝統工芸品について学習したことをまとめることができる。</p>
<p>・美濃焼のように伝統的な技術を生かしたものがあるか調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>伝統的な技術を生かした工芸品にはどんなものがあるか調べよう。</p> </div> <p>・どんなもの ・種類 ・作られている地域 ・伝統工芸品がもつ良さをまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・美濃焼をはじめ伝統的な工業についてまとめよう。</p> </div> <p>・伝統工芸品の良さ ・伝統工芸品の作り方 ・盛んになった理由 ・加藤さんの喜びと苦勞 ・伝統技術を伝えるための努力</p>
<p>・全国にはいろいろな工芸品があることを知り、その良さを考えることができたか。</p>	<p>・伝統に生きる工芸品についてわかったこと、考えたことをまとめることができたか。</p>

- 5、本時の目標 <認知目標> 伝統的な昔ながらの方法で、素晴らしい
<態度目標> 加藤さんの願いを考え、リーダーを中心

6、本時の展開

段階	学習のねらい	主な発問	形態
つ か む	・伝統的な技法で作っている加藤さんと、近代的工場で作られた作品の違いや作業方法の違いに気づくことができる。	・二つの茶わんの違いを見付けよう。	一斉
		○ 加藤さんは、なぜ、昔ながら	
さ ぐ る	・加藤さんが伝統的な技術方法で、一つ一つ心をこめて、ていねいに作っている意味（気持ち、願い）をつかむことができる。	・自分の考えをノートに書こう ・グループで話し合おう。	個 G
		○ 加藤さんが、昔ながらの方法	
ま と め る	・加藤さんの願いや努力に気づき、ノートまとめることができる。	・資料を手がかりに考えてみよう。	一斉
		・友達の話をもとにして今日の学習でわかったことをまとめよう。	個

- 7、本時の評価<認知目標> 加藤さんの陶器作りの願い
<態度目標> 加藤さんの願いを考え、全

美濃焼を作りたいという加藤さんの願いがわかる。
 に話し合いができ。

学習活動と 予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>○加藤さんが作った茶わんと、近代工場で作った茶わんの違いを見つけ話し合う。</p> <p>(見た感じ・さわった感じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加藤さんの方はごつごつとしているが工場の方はつるつる。 ・加藤さんの方は上薬がたれているが、工場はたれていない ・加藤さんの方は厚いが、工場は薄い。 <p>(作り方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加藤さんは一つ一つ手で作るが、工場は同じ物をたくさん作る ・加藤さんは茶わんの縁を皮を使って手できれいにしているが、工場ではローラーを回してきれいにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見た感じ、触った感じなど児童の言葉でありのまま聞らせる。 ・手作業と機械作業の違いをしっかりとおさえる。 ・一日に生産される量など、手作りのマイナス面にも目を向けさせる
<p>の手作りの方法で美濃焼を作っているのだろう。</p>	
<p>○加藤さんが手作りで作るわけを考え話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作りだと高く売れる。 ・伝統を守っていきたい。 ・心をこめて作りたい。 ・手作りが好きだから作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りで数も少ないので高く売れということから、切り返し、それだけではないことを考えさせる。
<p>で美濃焼を作っているのは、高く売るためだけだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を根拠として、自分の言葉で発言させる。
<p>○資料を基に加藤さんの美濃焼に対する願いや努力を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やわらかく、味わいのある作品をつくりたい。 ・昔のような素晴らしい作品をつくりたい。 ・機械では、良いものを作ろうとする心がない。 ・土岐市の産業としての美濃焼を大切にしていきたい。 ・昔から伝わってきた、美濃焼の伝統を受け継いでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加藤さんの願いに迫るものは、大きく取り上げていく。 ・加藤さんの願いや気持ちから「伝統」について考えさせる。
<p>○学習のまとめをノートに書き発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低次の児童に意図的にしめいして全体の定着度をみる。

い がわかりノートにまとめることができたか。(ノート、発言)

い 真 が発言(グループ学習も含めて)できたか。(発言)

第6学年 学級会（話し合い活動）学習指導案

公開 第1校時
教室 6年1組
指導者 三輪敏成

1. 議題名 楽しい学級遊びをつくろう

2. 議題設定の理由

学級づくり、仲間づくりの柱の一つにしている「学級遊び」。6月から実施してきているが、意識が沈滞傾向にあったり、遊びの内容がマンネリ化したり、行事等の関係で実施できなかったりしたことがあった。また、ペア（1年生）と遊んでみたい、新しい遊びをしてみたい、全員参加できるようにしたい、などの要望も出されている。

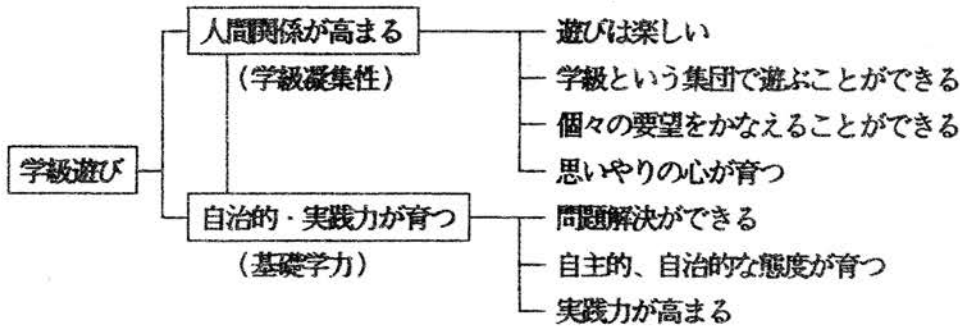
そこで、今回もう一度、「楽しい学級遊びをつくろう」という議題で話し合い、楽しい遊びを創造し、楽しい遊びを通して、学級の人間関係をさらに高めたい。

3. 指導観

①議題のとらえ

お昼休みに、学級全員で遊ぶことを願っている子どもはとても多い。しかし、サッカーがしたい・図書館にいきたい・のんびりしていたい・好きな子と自由に遊びたい、というような欲求を持っている子どももいる。また、おもしろくない・すぐもめる・同じ遊びが続く・参加しない人がある、などの問題意識を持っている子どももいる。

学級遊びを行うことが、学級づくりのために最善の手段であると考えてはいないが、下記のように、効果的な一つの手段であるにとらえている。



みんなで楽しく遊んだ後の子どもたちの顔が、生き生きして見えるのは、活動欲求と人間関係における安定感が充足されたからであるにとらえている。

また、この議題は、自発性・切実性・共同性・解決可能・生活の向上発展・自治的活動範囲と言った、議題の適性から考えても適切であるとする。

②児童の実態

・学級遊びに対する意識

	遊びたい	遊んだほうがいい	どちらでもよい	遊びたくない
5月の段階	11人	5人	8人	20人
10月の段階	28人	5人	5人	6人

学級遊びに対する意識は大きく変わってきている。遊びたいと思う子どもたちが増えてきたのは、学級としての仲間意識が高まってきたからだとする。学級遊びはもちろんであるが、今までのバス学習、行事、など生活すべての学習経験によるものである。

「遊びたくない」と考える子どもたちの気持ちは、否定できないし、批判もしないが、楽しい学級遊びを創造、実践していく中で、学級としてのまとまりの中に存在できる心の安定感やみんなで遊ぶ楽しさを味わわせてやりたいとする。

・遊びたい「遊び」

キックベースを希望する子どもが非常に多い。今までにも遊んでおり、その楽しさを知っている。しかし、男女別で、混合で、女子がうまくない、アウトかセーフでよくもめる、などの問題点がある。また、どの子もペアと一緒に遊びたいという希望を持っている。面倒をみてあげるといふことに、年長者としてのいろいろな喜びを感じていると思われる。

③学級づくり … 学級づくりのために次のような実践をしてきた。一部紹介する。

○ソシオにより学級の人間関係をつかみ、指導に生かす

7月、1回目のソシオをとる。私の予想に反して、排斥が集中したA君。

4月・5月の時期には、「素直で、明るく、学級のムードメーカーだ。運動も良くできるし、発言も多い。横着はするが、ズルはしない。グループでの指示もテキパキしている。学級のリーダー的な存在だ。」と私はA君をとらえていた。ところが、7月に調査をしてみると、A君に排斥が集中していた。しかし、夏休みが始まったので、指導ができなかった。

9月に入り、A君の活動や子どもたちの反応をじっと見つめてみたり、子どもたちの言葉に耳を傾けたりしてみると、「指示ではなく、命令であった。理屈をつけては、友だちの注意を聞かない。自分だけの都合で行動し、係活動などでは協力しない。発言は、知識だけの断片的なものであり、みんなには通じていない。」などの様子が分かってきた。

その後A君に対しては、次のような指導をした。

- ・家庭学習のノートを毎日提出させ、認め言葉や心の中を朱書きする。
- ・社会見学のときに、時計係を任せる。

- ・バズ学習、係活動や掃除、全校運動、陸上記録会など活動の様子を見つめ、認め、励ます。
- ・作品は、ていねいに最後まで完成させること。
- ・発言するとき、みんなに分かってもらえるように話すこと。 など

私に対しては、素直な態度で接してくれるようになってきた。10月に二度目の調査をした結果、排斥は少なくなってきたが、なくなっていない。本当に少しずつではあるが、本人も周りの友だちも変わってきていることは確かである。A君だけの問題としてとらえず、A君を取り巻く学級全体の問題として、解決を図っていきたいと考えている。

○朝の会の中に〈ふれあいタイム〉を位置付けて

朝の会のプログラムの中に、〈ふれあいタイム〉という時間を設けた。〈ふれあいタイム〉の内容は毎日違っているが、その中の「学級の誇り」と「私の自慢」について紹介する。

- ・「学級の誇り」…毎週木曜日、「すばらしい友だちを紹介してください。」という日直当番の進行で始まる。「M君は、修学旅行の下調べノートで100枚を突破しました。学級の誇りに推薦したいと思います。」とある子がM君を推薦する。同じ思いの子も推薦する。拍手をもって決定される。そして、カードに記入され掲示される。

この活動は、友だちの頑張りを認め合い、友だちの頑張りを価値付けるものである。頑張っている子どもとその頑張りを見つけた子どもを、同時に大切にしたい、また、頑張りの姿を紹介させることで、子どもたちの活動に対する意欲の向上を図っていきたいと考えた。

- ・「私の自慢」…毎週金曜日、「〇〇さん、あなたの自慢を紹介して下さい。」という日直当番の進行で始まる。「私の自慢は、～です。見て下さい。」と言って、隠し芸や得意なこと、誉めてもらったこと、何でも自由に紹介する。学級全員が、笑ったり、驚いたり、あきれたりする楽しい一時である。

この活動は、自己表現の場であり、気付き合い、認め合う活動である。学級の一員としての存在感を感じさせたい、自己表現の場面を増やしてやりたい、楽しく暖かい雰囲気を作りたいという願いである。

○帰りの会に〈生活バズ〉を位置付けて

グループで一日の反省、反省の交流、めあてづくりを行う活動である。

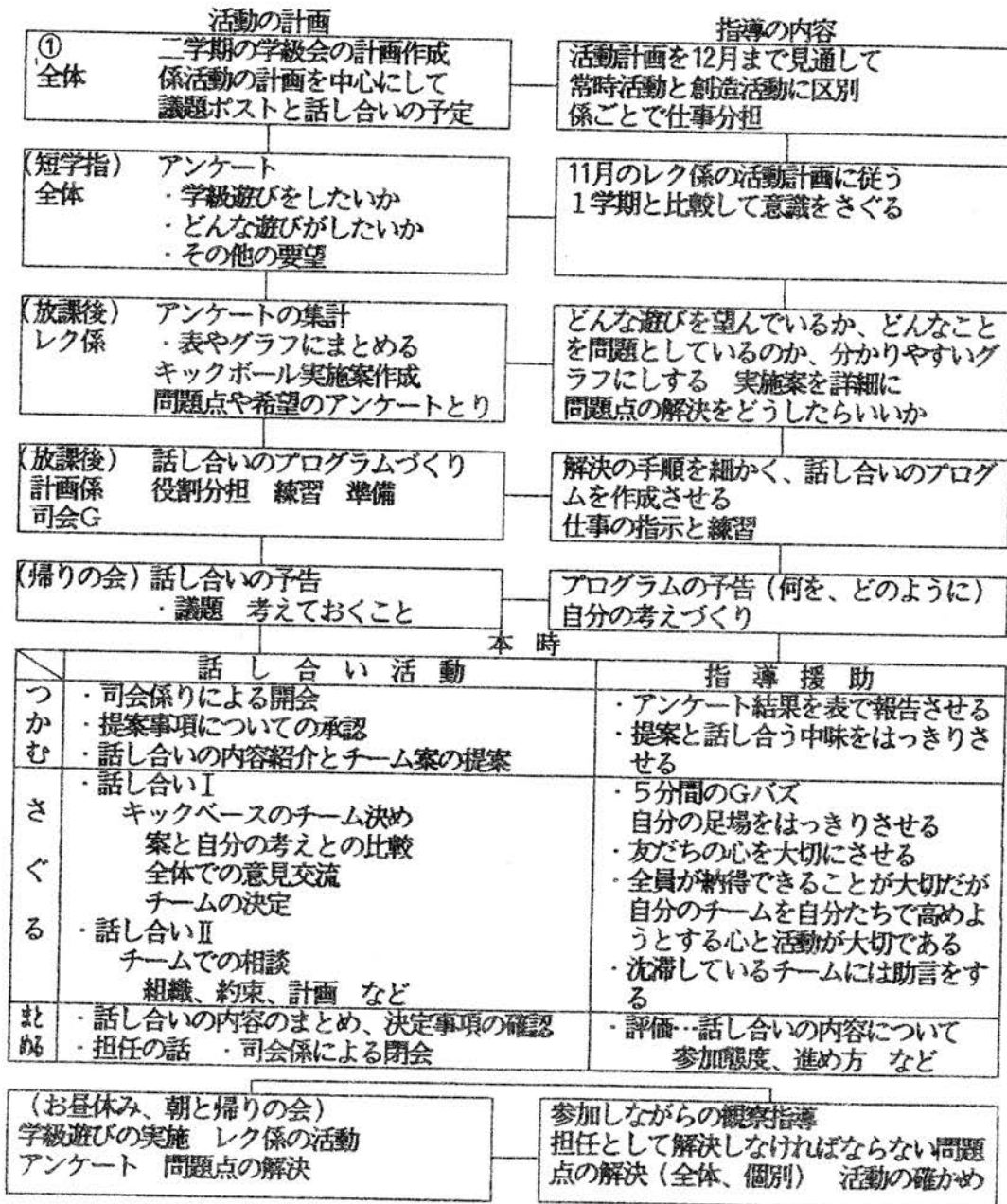
学級会で話し合い、決定した反省項目にしたがって、まず個人で一日の反省を行う。基準に沿って「○か×か」と、一行文の反省を反省カードに記入する。次にそれをグループ内で交流し、グループとしての傾向をリーダーが中心になってまとめる。その後、個人とグループとしてのめあてを決め、交流の内容を全体の場で発表する。

めあてを持った生活づくりと、友だちとの支え合いを大切にしたい活動である。最近では、めあてを達成させるための方法まで考え、発表するようになってきた。例えば、忘れ物を無くすために、予定帳をグループで回して、友だちの予定帳に記入する—といった様子である。そのグループは忘れ物がなくなり、他のグループも真似をし始めた。

4. 実施計画 <全1時間、本時第1時>

<身に付けたい力>

- ・問題解決、より高い価値の追求という活動を通しての自治的実践力
自分たちで、楽しい学級遊びというものを考え、つくり、実践していく力
- ・暖かい人間関係の基になる思いやりの心
楽しい、うれしい、参加したいと思う心 誘える心



5. 本時の展開

①本時の目標

(認知目標)…キックベースが楽しくできるために、全
(態度目標)…問題意識を持っている友だちの心を考え

②展開

	学習のねらい	話し合いの進行	欄
つかむ	○キックベースの進め方が分かると同時に、さらに楽しくするための話し合いであることが分かる。 ○話し合いのめあてが分かる。	1. 司会係による開会。 ・始めの言葉 ・議題の紹介 ・提案者の紹介 2. 提案者による内容の提案 ・キックベースのあらまし ・話し合いの内容	一 斉
			・楽しくなるようなチ
さ	○全員が納得でき、楽しみになるようなチームをつくることができる。	3. 話し合い I (チームづくり)	G 一
ぐ			斉
る	○チームが勝てるように、楽しく遊ぶことができるように、約束をつくったり、計画を立てたりすることができる。	4. 話し合い II (約束、計画)	G
まとめ	○話し合いの内容と決定事項を確かめ、これからの学級遊びに対する期待感を持つことができる。	5. 話し合いの内容のまとめ 決定事項の報告 6. 先生の話 7. 司会係による閉会 ・一口感想 ・終わりの言葉	一 斉

③評価

(認知目標)…キックベースに対して、期待がもてるチームづ
(態度目標)…思いやりの心をもって、発言ができたか。(発

員が満足するチーム決めをすることができる。
て、暖かい気持ちで発言することができる。

児童の活動と予想される児童の反応	指導と留意点
<p>○これより第5回学級会を始めます。 ・教の議題は、「楽しい学級遊びをつくろう」です。 ・提案者は、レクリエーション係です。</p> <p>○提案者の提案と提案理由の説明。 ・週2回、ペア遊びとキックベース ・遊びを決定した手順 ・チームは男女混合で4チーム ・その他実施する上でのルール、方法など ・チームづくりが、楽しくなるために一番大切な問題だ ・チーム案の紹介</p> <p>チームづくりをしよう。 ・友だちの気持ちを一生懸命考えて発言しよう。</p>	<p>・チーム案の紹介を除いた内容は簡単に報告させる。 今までのアンケートなどを集計させ、表やグラフを用いる。 (今日までの流れを確認) ・チームづくりで、問題点の解決と、より楽しい学級遊びづくりができることをおさえる。</p>
<p>○自分が考えてきたチームをグループ内で交流する。 ・メンバー全員が自分の案を公開し、レクリエーション係が考えた案について意見交流する。</p> <p>○提案されたチーム案についての話し合いをする。 ＜メンバーチェンジを希望する意見＞ ・強そうなチームと弱そうなチームがある (得意な子と不得意な子が等しく入っていない) ・文句をいいそうな子が何人かかたまっていて、もめそうだ ・好きな子同士のかたまりがあって、そのチームはいい仲間外れになる子が出てきそうでよくない ＜チームの高まりに関する意見＞ ・チームの中で得意な子がそうでない子に教えてあげればいい(練習すればいい) ・ミスしても文句を言わないで、励ましてあげるようなチームでの約束を決めるといい ・好きな子同士では、高まらないことがある</p> <p>○チームを決定する ・氏名カードを入れ替えながら、全員の了解で決定する。</p> <p>○チームで話し合いをする。 ＜組織関係＞ ・キャプテン、副キャプテン ・ミスしても絶対文句を言わない ・審判 ・守備位置 ・応援しよう ・打撃順 ＜計画＞ ・ゲームに勝てるように、あいている昼休みなどに練習しよう</p>	<p>・5分間 提案された案と自分の案との違いを見つけさせる。 願いがあって案を立てたので、そこに目を向けさせる。 (自分の足場を持たせる) ・賛成や反対がたくさんでるだろうが、友だちを思いやる内容の発言を大切にさせたい。それを基準に話し合いを進めさせる。</p> <p>助言…全員が納得できるチームをつくるのが大切だけれど、決まったチームで、自分たちのチームをよくしていこうとする心と活動も大切だと思うよ。</p> <p>・チーム内の表情を観察し、沈滞しているチームには助言する。 困ったことがあるの? こうしてごらん! ・掛け声くらいかけさせたい。 (期待感を高めさせる)</p>
<p>○話し合いの内容と決定事項を報告します。 ・話し合いの順序にしたがって ・決定事項の報告</p> <p>○担任の話を聞く。</p> <p>○教の話し合いで、こんなことを感じました。楽しいキックベースができるように、どのチームも頑張ってください。 これで第5回学級会を終わります。</p>	<p>・担任の話・評価(認知、態度) 一つのチームに話し合ったことを紹介させる チームづくりの様子について 参加態度について 進行について 楽しくやろう</p>

くりができたか。(発言、挙手、チーム内の約束、計画)
言内容、挙手)

特殊学級音楽指導案

公開 第1校時

教室 5 組

指導者 中島瑤子

1. 題材名 3拍子のリズム とんくるりん ばんくるりん
2. 目標 3拍子の拍子感を歌って、踊って、指揮をして、体を通して、感ずることができる。

3. 指導にあたって

a. 教材について


子供達の生活の中には、2拍子系のリズムが実に多い。今までの音楽学習も、テレビアニメの主題歌も、朝の運動も、日常の会話の中に存在するリズムでもある。

今まで経験することの少なかった3拍子のリズムに対し、「なんとなく今までと違った感じがする。」「でも、楽しい音楽だな。」と言った。新鮮な感覚を持たせることによって、子供の音楽体験を広げさせたい。更にその音楽体験が子供達の暮らしの中に生き、より楽しく豊かなものになっていくことを願っている。

特殊学級においては、一つの教材を深く追求することにより音楽の流れにのって歌い、踊り、指揮をする、といった体を通して音楽を楽しむことが学習だと考えている。

テンポの乱れや、音のはずれ、リズムの不正確さを問題にするのではなく、仲間とどのようにかかわれたのか、共に楽しむことができたのが重要な課題だと思っている。仲間とのかかわりが弱い子供たちだけに、私の大きな課題である。

b. 児童の実態

個 別	音 楽	そ の 他
<p>A. 2 自 年閉 生的 傾 向 児</p>	<p>☆4月から5月前半 「ワン、ツー、どん」の テレビをかけるとチラッ と視線を投げかけるだけ で、あとは無関心であり、 歌うことも、踊ることも 全くない。</p> <p>☆5月後半 4月以降毎日歌ってきた 「アイ、アイ」を言葉の 発音ははっきりしないが 一番と思われる歌をにこ にこし、時には口で伴奏 をいれながら歌う日が時 々あるようになった。</p> <p>☆7月から10月 朝の歌「楽しいね」のメ ロディーの流れにのって にこにこしながら隣の席 の子や先生と手を合わせ たり鈴を鳴らしたりする ようになる。</p>	<p>☆4月から5月前半 話しかけても何の反応もない。 粘土を細かくきざみ、シャーと 言いながら油でいためるまね？ をし、全く自分の世界に入り込 んでいる。</p> <p>次から次へと何やら話しつつけ ている。</p> <p>それにあきると、先生におぶさ ったり、気にそわないと、先生 をたたいたり、つねったりする 日が続く。</p> <p>☆5月後半 「塩いれて」「醤油いれて、「 酒いれて」という二語文をま ごとをしながら話すようになる。</p> <p>☆7月から10月 かみしばいや絵本にも少しずつ 目を向けるようになる。 帰りの会の予定を書くときにな ると時々鉛筆を持って  と書 くようになる。 先生におはようと声をかけるよ うにもなる。</p>

<p>B 3精 年神 生薄 ・弱 児 ハ 軽 度 V</p>	<p>☆鍵盤ハーモニカや笛は 余り吹けないが、元気よ く歌ったり踊ったりする。 ☆交流教科は図工、体育、 行事である。</p>	<p>☆日常生活は全く普通児と同じ である。 ひらがな五十音が書け、拗音、 長音はまだ不完全。 算数は操作活動をしながら2位 数-2位数、2位数-1位数の 計算ができる。 3位数の加法計算の学習をして いる。</p>
<p>C 4精 年神 生薄 弱 児 ハ 中 度 V</p>	<p>☆音楽大好きよく歌い、 よく踊る。 歌詞を覚えるのも早い。 鍵盤ハーモニカ、笛は余 り吹けない。 ☆交流教科は音楽、行事 をしている。</p>	<p>☆日常生活は殆ど普通児と変わ らないが運動力が少し劣る。 下校はひとりで出来ず途中まで 迎えにきてもらう。 ☆手指の発達が遅れ、鋏を使っ たり、文字を書いたりするのが 遅れているが、大体出来る。 ひらがな五十音が大體書ける。 拗音、長音は余り書けない。 百まで数えることが出来る。一 位数の加減は不完全であるが大 体出来る。 人の絵を画くと頭足人間になっ てしまう。</p>
<p>D 6自 年閉 生症 児</p>	<p>☆遊び時間でも音楽の教 科書を出し歌詞を読んだ り絵を見たりしてよく歌 っている。 ☆「ワン、ツー、どん」</p>	<p>☆名前を呼ばれると振り向き声 の主に視線を向けることが出来 る。対話が出来ず質問してもオ オム返しの返事が返ってくる。 長続きの学習は出来ず一つの作</p>

	<p>は好きでテレビを見ながらみんなと一緒に踊ることが出来る。</p> <p>タンブリン、鈴も音楽を聞きながら打つことが出来る。歌は全部歌うことが少なく部分的に歌うことが多い。</p>	<p>業が終わったり飽きたりするとボールをつくか、本や紙芝居を見ることが多い。</p> <p>「だめですよ」と言うときょつとしたハプニングを起こす。</p> <p>6月頃から雑巾をかけた二人で机をつったりすることが出来るようになった。</p> <p>☆彼の対話は相手に同意を求める形で行われる。本の絵を見ながら相手の顔を見、「〇〇だめですよ。」「おさるさん、イタイタイ」という単語のみの言葉である。</p> <p>☆五十音を使っての聴書や漢字の視写も出来る。数を数えることは出来るが、任意の数を取り出すことは出来ない。数字は百の位まで書ける。</p>
<p>E 6 精 年 神 生 薄 弱 児 ハ 軽 度 V</p>	<p>☆鍵盤ハーモニカが少し吹ける。</p> <p>音楽の時間は一生懸命歌いリズムに合わせて踊ろうとする。鈴、タンバリン等の楽器はリズムに合わせて打つことが出来る。</p> <p>☆交流教科は体育と家庭と行事を行っている。</p>	<p>☆日常生活は普通児と全く変わりなく走ることも跳ぶことも泳ぐこともいろいろの当番活動等も出来る。</p> <p>☆2位数までの加減計算が大体出来る。3位数の構成を具体物を使い学習している。作文力は原稿用紙1~2枚程度書ける。メモや作文の中で漢字を使って書くことが出来る。</p>

F 3 年 生 精 神 薄 弱 児 (軽 度)	☆鍵盤ハーモニカが少し吹ける。 リズム楽器も大体打てる。 算数、国語、学級会、道徳以外は交流している。	鉄棒は、殆どやることができる。 運動会で個人走2位、縄とびも百以上跳ぶ。絵も細かいところに気を付けて描くことが出来る。 具体物を使って、十までの加法を学習している。ひらがな五十音が不完全。
---	---	--

C. 学級集団づくり

児童の実態でも述べたように精神薄弱児と情緒障害児とが一緒になっている学級であるため、学級づくり=仲間づくり=仲間を獲得させることと考へ、学級の指導目標を①ひとり立ち、②たすけあい、③みとめあいの3つを決め進んできた。そのための指導計画は次の様である。

段階	目 的	指 導 内 容	備 考
1	① 自由児に疎通性(つうじあうか)を獲得させる	思う存分「ままごとあそび」をさせる中で教師も子どもと同じ世界へ入っていく。	ごっこ遊びをすることによって、担任と自由児の共有する世界をつくり、疎通性の獲得を考えた。
②	共感しあう経験をより多く持たせる。	全校運動、学校行事、児童会行事、学校行事、集団登下校、分団活動に参加。	出来る範囲内で皆と同じことをやらせることで、普通児との共有する世界が広がり、共感しあう経験がより多くなる。
③	身辺の生活習慣を自立させる。	衣・食・住に関する基本的な生活習慣を見届け、実行させる。	生活のあらゆる場を通して習得させる。
2	役割仕事を持たせ実行させる中で仲間として認めあわせる。	a 日常の当番活動をする(掃除、給食、日直) b 係の活動を決めて実行(A・EとB・C・Dと組んで)	役割を持たせることによって、自分が学級の中にいる意味を、自他に与え、助け合い的なかわりを創っていく、と考えている。
3	表現活動を通して、仲間を獲得させる。	七夕まつり、紙芝居の発表、おたのしみ会、計画実行する	これらをする中で、互に存在を認め合い、ひとり立ちする力を育てると共に、人々との関係を強めると考へる。

4 単元名 トンくるりん、パンくるりん

5 単元指導計画

目標 3拍子によって楽しくうたったり、部分演奏したり
身体表現をすることができる。

第 一 次		第 二 次	
目標 たん 指	3拍子の拍子感をつかんで、楽しくうたったり、身体表現をたのしむ。	目標 たん 指	部分的な旋律奏・リズム奏の練習をする。
a	(内容) 強弱弱の3拍子を感じて楽しくうたう。 (備考) 黒板の歌詞を見て、テープに合わせてうたう。	e	(内容) タンブリン、鈴などを使ってリズム奏の練習をする。 (備考) 好きな打楽器を選ばせ、第一フレーズ、第三フレーズの練習させる。
b	歌詞早覚えあそびをする(児童B.C.Eを対象)。 連続録音をして置き、覚えたら座るという条件で競走させる。	f	鍵盤を使って旋律奏の練習をする。 第二フレーズの旋律奏の練習させる。
c	ドレミ遊びをする。 床の五線を跳んだりして音の跳躍や続く音を知る。	g	色々な楽器を使って、合奏したり、合唱奏したり、楽器を色々交替して楽しませる。
d (本時)	3拍子の流れによって、楽しく歌ったりゲームをする。 手拍子あそび、色板ダンス、ゴムひもダンス	※	a~gまでの学習内容が考えられるが、時間数は、子どもの様子を見て考えて進みたい。

6. 学習の展開

① 本時の目標

3拍子の流れにのって 手拍子あそび

② 本時の展開

学習のねらい	教師の働きかけ	期待する
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気をつくる。 ・楽器を入れて合唱奏を楽しむことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR東海の電車にのって社会見学に行きました。 ・草原には、虫がいっぱいおりました。 「すす虫さんの歌を歌いましょう。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「線路は続くよどこまでも」フレーズ向をポッポッばす。 2. 「すす虫さん」を歌う。 ・手拍子を入れて歌う。 ・楽器を入れて歌う。
<ul style="list-style-type: none"> ・リズムにのって楽しんでうたうことができる。 ・ドヘソ、ドヘミの音の幅の広さや、第2フレーズの、音のつながりを体感することができる。 ・3拍子の拍子感を体感させ、リズム感を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・草原で 「とんくるりん、ぱんくるりん」の音楽をうたったり、おどったりして楽しみました。 ◎楽しくうたってみましょう。 ◎ドレミあそびをしましょう。 ◎先生とEくんのまねができますか。やってみましょう。 ・今日は あたらしいダンスをおどってみましょう。 名前を色板ダンスと言います。一緒に言ってみましょう。 	<ol style="list-style-type: none"> 3. リズムにのって楽しんで 4. 階名で歌い、ドレミあひとりで跳んだり、2人になって跳んだりして 5. 手拍子あそびをする 2人組になって、友だちをを交替して。 6. 「色板ダンス」と一斉色板ダンスの練習
<ul style="list-style-type: none"> ・終りのあいさつができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうの音楽は楽しかったですでしょうか。 終了しましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 終りのうたを歌う。 「たのしい おんが

ドレミあそび・色板ダンスを楽しむことができる。

児童の学習活動	児童記号						指導上の留意点
	A	B	C	D	E	F	
<p>ら」を歌って汽車ごっこをする と大声をかけ、ポツポツと腕を高くの (可愛いすず虫さんになったの) もりでうたう。</p>	△	○	○	○	△	○	<p>部屋の中を汽車になって大きく移動する</p> <p>自分の好きな楽器をえらばせて合唱奏する</p>
<p>でうたを歌う。</p> <p>そび(床の五線を跳ぶ)をする。 く組になって跳んだり。みんなと一緒に 遊ぶ。</p> <p>3人組になって。みんなかたつになって</p> <p>に言う。ひとりずつ言う。 をする。</p>	X	○	○	○	△	○	<p>輪になって、手を取りあつて歌う。</p> <p>第1フレーズを跳ぶことは難しいが、第2フレーズは B.C.E.F については完成させたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <p>2色の色板を使って、バンブーダンスの要領で遊ばせる。 うまく出来ないことがあたり前と思い、以後の音楽の時間に少しずつ練習を重ねたい。</p>
<p>「おわります」のあいさつをする くおわりましょう」</p>	○	○	○	○	○	○	

第 2 校 時 公 開

10:45~11:30

年・組	教科等	授 業 者	教 室
1-2	社 会	小木曾 徹	1-2
2-1	学級会	水野 知恵	2-1
2-3	音 楽	加藤いづみ	2-3
3-1	学級会	溝口 正子	3-1
3-2	音 楽	小川満寿子	3-2
4-1	社 会	丹羽 岳人	4-1
4-3	音 楽	土屋美由紀	視聴覚教室
5-3	学級会	伊藤 策雄	5-3
6-2	音 楽	新田 恵子	音楽室
6-3	社 会	杉浦 正佳	6-3

第1学年社会科指導案

公開 第2校時
教室 1年 2組
指導者 小木曾 徹

1、単元名 わたしのうち

2、単元目標

私達の家庭の暮らしは家族が仕事を分担し、協力し合って支えられていることに気づかせると共に、家庭の日常生活で利用している水、電気、ガスなどの資源の大切な働きに気づかせる。

3、指導観

①教材について

この単元では、家族の人達が、それぞれ仕事を分担したり、協力したりして仕事をしていることと、毎日の生活で使われる水、電気、ガスなどの大切な働きに気づかせることをねらっている。

むかしは、家事的労働＝母親という考え方が強かった。最近では、核家族が増え、祖父母に手伝ってもらえなくなったことや働く母親が増えてきたことから、この考え方は変わってきている。母親一人で家事的労働をすることが困難となり、家族みんなで家事的労働を受け持ち、家庭生活を差さえ合うという実態が増えつつある。このような家庭生活を子供に気づかせていくことは、社会の一員として自分も責任を担う意識を育てるために、大変重要である。

集団生活を意識づけるために、これまでに、学校や学校をとりまく地域社会（近所の公園、安全な暮らし）を取り上げてきた。本単元では、家庭という、地域社会で最小の集団生活を取り上げる。つまり、家庭を取り上げることによって、子供達に、家庭生活における家族の協力の大切さ、資源の大切さに気づかせ用としているのである。

そこで、家事的労働の中心である母親を通して、家事的労働の大切さ、家族に対する心づかいをとらえさせていきたい。そして、家族間のつながりや家事的労働の分担の必要性にも気づかせていきたい。また祖父母同居の家庭と、核家族とでは、家事内容も分担も異なるということが考えられるが、形は違っても家事に

たずさわる家族の願いは、「より快適な暮らし」をめざしているということで同じものであるとして取り扱いたい。

そのために、家族という集団の範囲や家での仕事を明らかにし、洗濯と食事のしたくをとりあげ、学習を進めていく。この時、子供の具体的観察を大切にしたい。単元末には、お母さんへの手紙を書くことで、関心、態度の評価も考えている。

② 児童の実態

「N君しっかり立ちましよう」朝の会で私がまず第一に発する言葉がこれである。とにかくこの学級のムードメイカー的存在になっているのがこのN君である。

1学期最初の頃は、まるで宇宙人と話をしているようなそんな錯覚をするような日々が続いた。これはきっと1年生の子たちも感じていたであろうと思われる。私が中学校出ず指示がなかなか徹底しなかった。そのためにどの教科においても、一つの事柄を説明するのに、必要以上に時間がかかり、ただでさえ集中力がない1年生のことであるから、隣の子と話をしたり、他ごとをすることが多く、全体的に落ち着きのないクラスであった。

この落ち着きのない状態を改善するために、二つの点に注意した。

- (1) できるだけ短いわかりやすい言葉で子供に指示をする。
- (2) みんなが守らなければならない約束事を決める。

(1)については、まだまだ的確な言葉で指示することができないのが現状であるが、(2)で係の子が合図をして、みんなで手を3回打ったらお話をやめるという約束ができた。この係になった子がとてもしっかりやってくれたので、一学期途中から定着し現在も続いている。

この合図によって、いままで同じ調子で流れていた1時間の授業の中に、みんながサッと集中できる時間をもてるようになった。

しかしまた新たな問題が起こってきた。1学期最初の頃はそれほど気にならなかったN君がだんだんめだつようになってきた。

この子は、知的にもすぐれ(担任の主観ではあるが)特に絵がたいへん上手で、算数でもたいへんユニークな発想をして、担任や友達を感心させる子である。

その反面、集中力がなく、何度注意してもなかなかまっすぐに立てない。勉強や運動も、気が向かなければまったくやろうとしない。大声で泣く。といった行動が目立つ子である。

今、帰りの会で毎日3人ずつ前を出て、クラスみんなに話しをするというのをやっている。恥ずかしいのか大きな声でしゃっきりお話ができる人は、わずかしかない。

そんな中で、N君は大きな声でとてもおもしろい話をしてくれる。クラスみんなも、N君の話が聞けるのを楽しみにしており、話が終わったあとは、みんな大笑いでたいへん和やかな雰囲気になる。

しかし、調子の悪いときは、「先生の説明がわからん」といって大声で泣きだしなかなか泣き止まないときがある。

現在もこのような状態がつずいているが、指導の方法として、本人が自分のやったことが、悪いことだと納得するまで話す。できなかったこと、やろうとしなかったことは、できるまで何度もやらせる。できるかぎりN君とスキンシップを取るといって、指導を心がけている。

4. 単元指導計画

		人間関係 グループで話し合おう		
		時	1	2
わ た し の う ち	つ か む	自分の家の、家族について発表する。	調べてきた家族一人ひとりのし仕事を、表に書き入れる。	
	さ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">家族の似顔絵を描こう</div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">家族の人数や、家族の人の仕事を紹介しよう</div>	
	ぐ	<p>1、家族の似顔絵を描く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードに一人ずつ描く。 ・自分との関係（お父さん妹など）を書く。 <p>グループ単位で発表させ、友達の家族構成と比較させる。</p>	<p>1、家族構成の図を見せながら、家族の紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんの仕事 ・お母さんの仕事 ・お兄さんは、中学の3年生 	
	る			
	ま と め る	自分の発表と友達の発表をくらべ、気が付いたことをノートにまとめる。	発表を聞いて、気付いたことを、ノートにまとめる。	
	評 価	家族の似顔絵を描き、友達の家族構成と異なっていることに気付けたか。	家族のそれぞれの人が、役割を持って生活していることが理解できたか。	

つきたい力

- ・家族は、それぞれの家庭で、人数や仕事に特色があり、それぞれの仕事を分担していることがわかる。
- ・洗濯をするお母さんは、家族の人たちが、気持ちよく着られるように、いろんな工夫や心がけをしていることに気付く。
- ・お母さんは、たくさんの家事労働を工夫しててきばきとこなしているが、買物や、食事作りに家族を思いやる心がみられる。
- ・洗濯に使う水電気、炊事に使う水、ガス、電気など、豊かな生活に欠かすことのできない資源のおかげで、生活が成り立っていることがわかる。

友達と意見の交換ができる。

3	4	5 (本時)
<p>家庭での、お母さんの仕事には、どんなものがあるか考えみんなで話し合うことができる。</p>	<p>洗濯の仕事について調べてきたことをもとにして、「だれが」「いつ」「どんな順序で洗っているか」発表する。</p>	<p>お母さんが洗濯物を干す時の工夫や、家族に対する心ずかいに気付くことができる。</p>
<p>家庭での、お母さんの仕事と 思うものを、朝、昼、夜に分けて、表に書き入れる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「おしゃべり」や「おこる」ことは、お母さんの仕事だろうか。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1、お母さんの一日の仕事について、まとめた表を黒板に提示する。 2、黒板に提示した表をじっくりと読ませ、気付いた点を自由に発表させる。 3、表に書いてある「おこる」ということは、果たしてお母さんの仕事だろうかと問いかけ、意見を発表させる。 <p>テレビをみる、昼寝をするについても、意見をきいてみる</p>	<p>よごれたシャツやタオルなどの、洗濯物を提示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>よごれたシャツや下着はだれが、いつ、どんな順序で洗濯していますか</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1、洗濯は、だれが、いつしているのか発表する。 (だれ) 母、祖母、父 ・一番多いのはお母さん(いつ) 朝、昼、夜 2、洗濯は、どんな順序ですか ・洗濯をする時のいろいろな仕事を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>洗濯は、お母さんの趣味でしょうか。</p> </div> <p>洗濯の大好きなお母さんと、そうでないお母さんに分け、どしらのお母さんのほうがいいか聞いてみる。</p>	<p>VTRで、お母さんが、洗濯物を干しているところを見せる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お母さんが、手で何回も横にピンピンと伸ばしているのは、どうしてでしょう。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1、しわを伸ばして干したものと、干さないものを対比させながら、ピンピンするよさに気付かせる。 2、お母さんの工夫が他にもないか考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お母さんは、どんな気持ちで洗濯物を干しているんだろう</p> </div> <p>お母さんの絵の吹き出しに、自分で考えた言葉を入れる。</p>
<p>お母さんの一日の仕事には、どんなものがあるか、理解できたか。</p>	<p>お母さんがやる、洗濯のたいへんさが、少しでも実感として感じられたか。</p>	<p>お母さんの工夫がわかり吹き出しに、言葉を書き込むことができたか。</p>

2学期になり、子供達も学校生活にも慣れそれぞれの生活のパターンができてきたようである。そのために生活全体に余裕ができ、落ち着いた態度で学習に取り組めるようになってきた。授業が始まって自分の席に座らず、教室や廊下で遊び回っている子がたくさんいるなかで、席につき次の授業の準備をして、遊んでいる友達に席に着くよう呼び掛けることができる子が、女子に少しずつではあるがふえてきた。

体育の授業のときも、一学期の頃は担任が大声で注意しないとなかなか並べなかったが、最近では体操係が中心になってみんなを並べてくれている。

自分たちが次になにをしないではいけなさを考えながら、行動できる子が増えてきた。

③ 学級集団づくり

小学校一年生の担任を持ってから、子供の様子を見ていて特につよく感じたことは私が一人の子供と話をしていると、横から他の子供が「先生、先生あのね・・・」と平気で何のためらいもなく、担任に聞いて欲しいと思う話をする児童の姿であった。

2～3人の子供が話すだけならばまだいいが、クラスの半数近くの子供が一斉に話したすと、騒音になり私も子供達の声に負けないぐらいの大きな声で「やかまし」とどならなくてははいけないときがなんどもあった。

この実態を見て、一学期はまず先生対子供の人間関係の基礎を築いていくことが大切だと感じた。しかし一年生と良好な人間関係を結ぶための具体的な手立てがわからなかったため、とにかく子供達と一緒に遊ぶことと彼らの話を最後までよく聞くということを中心とした。

6月には、学年でクラス対抗の運動会を行なうことになった。一年二組の子供とはいうものの、個々バラバラであった子供達が、一年2組という学級の集団の意識を高める絶好の機会だとおもった。運動会のかなりまえから「みんなで力を合わせ最後までがんばろう」という言葉を黒板に書き、20分休みに運動場で綱引きの練習などをやったりして、二組の仲間みんなが一つになって運動会に取り組もうという意識を盛り上げてきた。

当日の運動会は、みんなよくがんばり、クラス全体で一つのことに取り組んだ時の喜びを感じることができたようである。

九月に入ってから、席替えをしてはじめてグループを作った。それまでの授業では主にペア活動を取り入れてきたが、この時からグループになって話し合いながら課題について取り組むようにした。また給食の時もグループで食べるようにした。そおすると、グループ内の対抗意識が芽生えだし「今日、ぼくたちのグループ給食全部食べちゃった」とか「わたしたちのグループが一番早く食べたよ」という言葉が聞かれるようになった。しかしこういったグループ単位の集団意識を持っている子は、数人である。いろいろな活動にグループ単位で取り組ませることにより、クラスの子全員にグループの仲間と協力して物事に取り組む楽しさが感じられるように指導していきたい。

	人間関係	グループで話し合うなかで
時	6	7
目標	これまでの学習を生かして実際に洗濯することにより母親のたいへんさに気づかせる。	お母さんは、一人一人の好みや新鮮さ・値段を考えて買物をしていことに気づかせる。
つかむ	お母さんは、汚れた服をどうやってきれいにしているか話し合う。	カレーライスのしたくをするまでに、どんな仕事があるか話し合う。
さ	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px;"> お母さんになったつもりで、自分のものを洗濯しよう。 </div>	スライド「野菜を手にとっているお母さん」を見て、お母さんの買物の様子を発表する。
ぐ	1、家庭科室の洗濯機で実際に洗濯をする。 汚れのひどい部分をまず、手でもみ洗いする	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px;"> お母さんは、どんなことを思っ買物をしているでしょう。 </div>
る	2、バケツで水をくんで入れる。 3、洗剤と洗濯物をいれてスイッチをいれる。 4、洗濯機がまわっている間、プリントに記入する。	1、スライド「野菜売場」を映し、買物の動作化をし吹き出しに書く。 ・安い ・新鮮 ・みんなの好きなもの 2、買物をしているときに考えていることをテープで聞く。
まとめ	・使った水の量 ・かかった時間 ・洗濯の順序 洗濯物の様子 ・お母さんの気持ち	吹き出しに書いたお母さんの気持ちを発表する。
評価	洗濯をしながら、家族を思っお母さんの気持ちが考えられる。	食事のしたくをするまでに買物などの仕事があることがわかる。

友達と意見の交換ができる。

8	9	10
<p>カレーライス用の用意ができるまでには、多くの仕事があり、たいへんであることをすることができる。</p>	<p>家庭生活では、毎日、電気やガスを使っていることに気づかせる。</p>	<p>家族の世話をするお母さんへの気持ちを手紙に表現する。</p>
<p>食事の用意の時、どんな仕事があるか観察してきたことを発表する。</p> <p>1、食事の用意のとき、どんな仕事があるか、観察してきたことを発表する</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>食事ができるまで、お母さんはどんな仕事をどのようにしているのろう。</p> </div> <p>2、食事の用意の仕事を動作化する。 ・動作化の様子とお母さんとのやり方の違いを見つける。 ・もっと上手で早い ・いくつもの仕事を同時にやっている</p> <p>3、食事づくりをしているお母さんの気持ちをテープで聞く。</p> <p>お母さんに一言吹き出しに書いて発表する。</p>	<p>家電製品を見せ、どうやったら動くのか考えさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんなところに、電気やガスを使うのでしょうか。</p> </div> <p>1、電気・ガスはどんなところで使われているか調べてきたことを発表する。</p> <p>2、電気、ガスを使っているところを確かめる。</p> <p>3、水、電気、ガスのない暮らしを想定し、動作化する。</p> <p>見取り図のなかの、電気やガスを使うところに印が打てる。</p>	<p>お母さんの忙しいときを話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>家族の世話をしているお母さんに手紙を書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちをこめて ・いたわりの言葉を入れて ・わたしたちのできることを考えて
<p>食事の用意には、洗う、切る、炒める、煮る、などの仕事があることがわかる。</p>	<p>電気やガスを使うものがわかり、大切に扱うことができる。</p>	<p>感謝の気持ちや、自分にできることを入れながら、手紙を書くことができる。</p>

5、本時の展開

(1) 本時の目標

(認知目標)

お母さんが洗濯物を干す時の様子の動作化を通して工夫をしているのか気づくことができる。

(態度目標)

お母さんの洗濯をしている様子を思い出しながら

(2) 展開 (5/10)

	学習のねらい	主な発問	種	学習活動と
つかむ	お母さんが洗濯をして、洗ったものを干すところのVTRを見て、洗濯物を干す、お母さんの動作に注目することができる。	1. お母さんは、どんなものをどうやって干していましたか。	個	<ul style="list-style-type: none"> ・パンパンと洗濯物を ・洗濯物をピンピンに ・キューと横に洗濯物 ・シャツは、長い棒(・ズボンなんかは、洗 ・くつしたは、洗濯ば
さぐ	洗濯物を干すという動作化を通して、お母さんの仕事のたいへんさに少しでも気づくことができる。		G	<p>いろいろな洗濯物を、みんなで干してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物なんて干した ・洗濯物を、なにかに ・私は、いつもお母さ ・たいわかるは。 ・私洗濯干すの大好き ・シャツなんてどうや ・洗濯ばさみって、こ ・シャツなんかは、こ ・こうやって干すと、
る	お母さんが、しわをのぼして干すのは、家族のみんなに気持ちよく着てもらいたい、という心遣いであることに気づくことができる。		個	<p>お母さんは、洗濯物を干すときなぜピンピ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物に付いたよご ・このお母さんの洗濯 ・洗濯物のしわをのぼ ・クシャクシャだと、
まとめ	お母さんの心遣いや、洗濯をするときの苦勞などを、テープを聞いて理解できる。	5. お母さんは、どんなことを考えながら、洗濯をしているのか、お話を聞いてみよう。		<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんは、毎日平 ・なんだな。 ・これからは、洗濯物 ・お母さんて、やっぱ

(3) 評価

(認知目標) 洗濯物を干す動作化を通して、洗濯にたいするおかあさんの工夫
 (態度目標) グループの話し合いのなかで、自分の意見を言うことができたか

て、家族のみんなが気持ちよく着られるように、お母さんがどんな

う、話し合いに参加することができる。

予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>とたいているよ。 伸ばして干しているよ。 を伸ばしているよ。 勿干し竿)に吊して干していた。 覆ばさみで、はさんで干していたよ。 さみのついたまるい和のやつに干していたよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・VTRは、お母さんの動作に視点をあてて見させる。中でも、手の様子に注意させる ・VTRは、洗濯物を干すところだけではなく、洗濯を始めるあたりから見せる。 ・ハンガーや洗濯バサミなどの道具にも留意させる。
<p>ことないからわからん。 ぶらさげればいいんだよ。 ンのお手伝いで洗濯物を干しているから、だいで干したらいいのかわかんないよ。 うやって使うの。 んなふう干すとすぐ乾くんじゃないかな 乾いたあと気持ちよく着られるよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物 (ハンカチ、洋服、帽子、シャツ等) ・グループごとに誰がどの洗濯物を干すのかを決め、実際に教室で干してみる。 ・上手に洗濯物を干しているグループを見つけ、どんなところに注意して干したのか発表させる。
<p>ンとしわをのばして干しているんだろう れでもとっているんじゃないかな。 物を干すときのくせだよ、きつと。 しているみたい。 うまくたためないからじゃないのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンピンにして干した洗濯物と、そうでない洗濯物を提示して(シャツなど)、違いなどを比べさせ、今まで気づかなかったお母さんの洗濯に対する工夫を実感させる。
<p>気な顔をして洗濯をやっているけど、結構大変 をまとめてださずに、毎日ちゃんとだそ。 りえらいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの仕事を、すこしでも減らしてあげようという気持ちにさせる。

と心遣いに気づくことができたか。

。

第2学年学級会活動指導案

公開 第2校時
教室 2年1組
指導者 水野 知恵

1. 議題名 なわとび大会の計画を立てよう
—— 自分たちでつくるスポーツ集会 ——

2. 議題設定の理由

二学期に計画されている「みんなで作る集会」でどんなことがやりたいのかアンケートをとった結果、なわとび大会をすることに決まった。種目も4つに決まったので、それらをどんな方法で競うのか、1位をとるためにはどんな作戦を立てたらいいのか相談させ、大会までの取り組みを意欲的なものにしたいたいと思っている。

3. 指導観

① 議題のとらえ

今までにスポーツ集会として、親子運動会(学年)・水泳大会(学年)・運動会(級)がある。自分たちでつくったスポーツ集会といえるのは親子運動会で、それも実行委員になった子が意識できたぐらいである。今回のなわとび大会は学級独自のものなので、運営を子どもたちにまかせてみようと思う。2年生なので全てというわけにはいかないが、体育の時間になわとびのいろんなとび方を指導したり、号車ごとのチームでペアとびやリレーをやり、作戦を立てさせたりした。また、朝運動で8ジャンプ^{ソリ}をしているが、まだ全員が入れないので、学級のがんばりめあての一つにして、みんなで声かけ合って頑張っている。

そういうことが子どもたちの自分たちでつくるなわとび大会となって計画・実行できないものかと願っている。

②児童の実態

なわとび大会にあけて意識のアンケートを取った結果

なわとびは とべるほうですか	はい……35名	いいえ……4名
8ジャンプは すぐ入れますか	はい……22名	いいえ……17名

なわとびは自信持っているようで、「なわとび大会、いつやるの」「早くやりたい。」という声も聞えてくる。いいえと答えた4名もぜんぜん出来ないというわけではないので、体育の時間などチームの子といっしょにとべている。

8ジャンプも学級会で決めた学級遊びの時間に赤白のチームに分かれて行っている。出来るだけ間をあけないよう「はい・はい」と声かけ合っている。初めは2分間で20回くらいだったのが70回ちかくとべるようになってきて、朝運動の8ジャンプの時間は赤白で競争のようになっている。

子どもたちは係の仕事もやりたいという子が多く、学級の係も毎日取り組んでいるグループが多い。点校や呼びかけ、賞賛などグループで考え、学級に広めている。

なわとび大会の係活動も子どもたちで考え行動できるように援助していきたい。

③学級集団づくり

2年1組のみんはでがんばろう」ということで、学習も遊びもスポーツもみんな頑張っている。その認め合う場がグループである。1グループ4名で、リーダーがいて、ノートあつめ、けんらくあつめなどグループの中で役割がある。グループで10項目の生活がはばりチェックをしたり、忘れ物しらべをしたりして、がんばっている子をほめてあげたり、やうでな子にはしっかりするよう声かけ合っている。

10のグループ全部ではないが、学習などで頑張り出したグループが多い。それが学級全体に広がっていきつつあるところだと感じている。

4. 実施計画

身につけたい力

- 自分たちの力でなわとび大会を計画、準備し、プレーはチームで、係はグループで助け合いながら成功させようとする力を倍たい。
- 友だちと考え行動する中で、良さを見つけ自らもがんばろうとする意欲を育てたい。

活動の計画

(帰りの会)

なわとび大会の計画をする

(放課)

スポーツ係とグループ1名で計画委員会を開きアンケートの結果をまとめる

(学級会)

なわとび大会のめあてと係を話し合い決定する

(放課)

各係で仕事の内容、分担を話し合い決定する
大会に必要な物を準備し作成する

(放課)

司会グループ、計画委員会
で学級会の進行について確認する

指導の内容

アンケートをとる

表やグラフにまとめるとわかりやすいことを知らせる

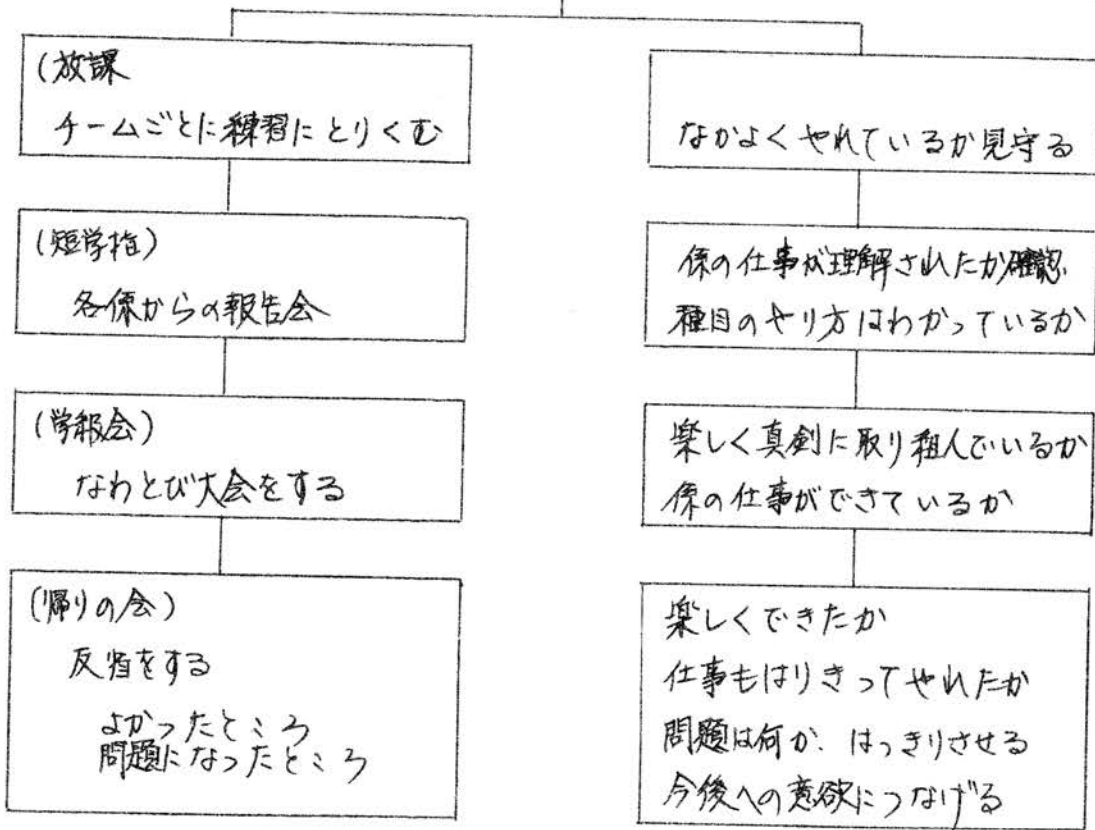
どんななわとび大会にしたいか具体的なめあてになるよう助言する
自分たちでできる係であるか確認する

分担はみんなにさかっているか
仕事は理解できているか
必要な用紙等を準備してやり大きさは適当であるか見届ける。

話し方、聞き方の指導
準備等の確認

本 時

	話し合い活動	指導 援助
つかむ	・ 計画委員会の報告やスポーツ係の提案を静かに聞く ・ 種目のやり方を考えることをつかむ	・ 報告はわかったか ・ 何を考え話し合うのがわかったか確認する
さぐ	・ どんなやり方にしたら競争しやすいか考え話し合う ・ チームで走る順番だとか話し合い勝つための作戦、練習方法を考え定める	・ 自分の考えをグループで言えるように話す ・ 競争になる方法を問う ・ 作戦はチームみんなで決めたか
まとめる	・ 種目の方法を確認する ・ なわとび大会に向けて意欲をもつ	評価 ・ 話し合いの態度 ・ 話し合いの内容 ・ 楽しいなわとび大会になるよう激励を話す



5 本時の展開

- ①本時の目標 (認知目標)…… 種目のやり方を考え、自分たちのチームが1位
 (態度目標)…… 自分の考えをグループや全体の場で発言するこ

②展開

	学習のねらい	話し合いの進行	形態	児童の活動
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・議題・提案理由がわかる ・種目の方法について話し合いのこをつかむ 	1. 始めのあいさつ 2. 議題の紹介 ⑦計画委員会からの報告 ⑧提案理由の説明	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・これから学級会を始め ・議題・提案理由を聞き 計画委員会からア: 4つの種目をど人なう また、チームが1位に:
どんな方法で きょうせうしたら みんながが				
さぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・種目の方法を考え、交流し合うことができる ・1位をとるための作戦を相談し立てることができる ・練習方法を話し合い決めることができる ・大会へむけてのとり組みを交流し合うことができる 	3. 話し合い ⑧方法について ⑨1位をとるために	G 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・方法についてグループ ・方法について全体で話し ・前とび……1分以上と ・ペアとび……1つのペア ・8ジャンプ……2分間で何 ・リレー……バトンゾー ぬく時は外 ・方法を決める
チームが1位になるための作せんや れんし				
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで決まったことを確かめ、なわとび大会にむけて意欲を高めつことができる。 	4. 決定したことを報告する 5. 先生の話 6. 終わりのあいさつ	チーム 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・方法は、前とび ~ ・8ジャンプへ ・先生の話聞く。 ・これで 学級会をおわ

- ③評価 (認知目標)…… 種目のやり方は決定できたか(決定事項)・チー
 (態度目標)…… 自分の考えをグループや全体の場で発言できた

になるためには、作戦や練習をどうするか相談し決定する。
とがでざる。

と予想される児童の反応	指導と留意点
<p>ます。</p> <p>く。</p> <p>アンケート結果と決定事項を聞く。</p> <p>方法で競争したらいいか決めてほしいです。 なるためにどう練習していくか話し合っしてほしいです。</p> <p><u>いぼれるか 考えて下さい。</u></p>	<p>アンケートの結果を表に わかりやすく提示させる</p> <p>授業理由の補足をする</p>
<p>話し合う</p> <p>話し合う</p> <p>・だよりがチームに何人いるか(時間とび) ・何回とんだか、5組のペアの数を合わせる(とび回数) 目とべるか、残って何回とべるか ・のわり方とはとまってわたす、リードする とわりでぬく</p> <p><u>うほうほうをそうだんしてください。</u></p> <p>練習方法を話し合う。</p> <p>・だれからとぶのか(とび順番) 順番)</p> <p>を話し合う。(どんは負持ちでとり組むか) ・けんがましないでやる。</p>	<p>例を言わせてみるか、司会 者に説明させるかして話し合 いに入る。</p> <p>方法のわかりにくいものは 意見を出し合い、自分たちで できる方法にしていくように させる</p> <p>④ 4-チームカードに決まった ことを記入させる。</p> <p>なわとび大会にあけてがし はる戻持ちを4-チーム全員を持 つことが出来たか確認</p>
<p>・ペアとび ~</p> <p>・ソレー ~ に決まりました。</p> <p>ります。</p>	<p>先生の話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの態度について ・話し合いの内容について ・なわとび大会について

ムで作戦や練習計画を立てることができたか(作戦カード)
か。(挙手、発表)

第2学年 音楽科学習指導案

公開 第2校時
教室 2年3組
指導者 加藤いづみ

1. 題材名 おいかけあそび
2. 題材の目標 輪唱することに慣れさせ、二声の重なりのおもしろさに関心を持たせる。
3. 教材群
A. かわいいな
B. 木のはのゆうげん
C. あわてんぼうのサンタクロース

4. 指導観

①題材及び教材(かわいいな)について

「おいかけあそび」、つまり輪唱である。二つのふしを合わせるといふことは、難しさもあるが、同時に、斉唱などとは別のおもしろさがある。

1学期、「がっしょうあそび」で属音(ソ)による簡単な合唱とオステイナートによる合唱を行い、そこで、初めて、自分たちの歌声による二声の重なりを経験した。本題材では、さらに、同じ旋律をずらして歌うことにより、合唱と同じような響きを楽しもうというわけである。

「かわいいな」は、2小節遅れ、4小節の輪唱曲である。旋律は「ブンブン」の最初のフレーズを思わせるが、ここでは、子どもたちの耳に残っている旋律を活用して、輪唱への足がかりをつかもうという意図を持っている。わずか4小節の短い旋律を反復して歌うだけなので、初めての輪唱には適した教材と言える。速さを変えたり、かえ歌を作ったりとい

う遊びの要素を取り入れながら、輪唱に慣れさせ、二声の重なりのおもしろさに関心を持たせていきたい。

② 児童の実態

1学期、「がっしょうあそび」で、擬音“ボーン”の入った「とけいのうた」を初めて聴いた時に、ほとんどの子が“ボーン”に気付き、おもしろそうだなと関心を持った。「この合唱が上手にできると、みんなの歌声は、6年生のきれいな合唱へ一歩近づくことになるよ。」と話をすると、「わあ、早く練習しよ。」「私たちもしコードみたいに歌いたいな。」と大変意欲的になった。実際に練習に入ると、“ボーン”の音がソからドに下がってしまい、なかなか、きれいな合唱まではいかなかったが、鍵盤ハーモニカで支えの音を入れたりして練習を重ねるうちに、なんとか音が下がらずに歌えるようになった。次に扱った「ブンブンブン」や「だるまさん」でも喜んで取り組み、少しの練習で合唱ができた。

以上のように、二声の重なりにはかなり関心を持っているので、「おいかけあそび」でも、二つのふしを合わせるとおもしろさを十分味わわせたい。

③ 学級集団づくり

4月当初から、隣り同士で何かすることを意識して取り入れてきた。隣りで見合う、聴き合う、話し合うことを色々な場で行ってきたため、大分抵抗なくペアの活動ができるようになってきたが、まだ、照れたり、ふざけたりして、うまくできない子もいる。

グループの活動については、まだ、子どもたち同士で自主的に学習をすすめるというところまでいかなかったため、1学期には、役割をきちんと決めて、それをローテーションしながら練習するという方法をとってきた。2学期になってから、少しずつ、自分たちで相談して練習することを取り入れているが、グループによって差があるという現状である。

5. 単元指導計画 〈全6時間、本時第2時〉

身に付けた力	
音楽的諸能力	態度
<ul style="list-style-type: none"> 〇 ひとびきあいを感じ取って、輪唱や輪奏ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 他声部を聴きながら、合わせて歌おうとする。 〇 声の重なりのおもしろさに関心をもつ。

	1	2 (本時)	3
目標	曲の感じをつかんで歌うことができる。	速さや拍の流れに気を付けて輪唱ができる。	他声部を聴きながら、歌ったり演奏したりできる。
つかむ	①「かわいいな」の範唱テープを聴き、感じたことを話し合う。	①「かわいいな」をリズム打ちしながら歌詞唱・階名唱する。	①「かわいいな」を輪唱する。 かえうたを作ろう。
さぐ	リズムにのって、楽しく歌おう。	ころばないように気をつけて、歌のおいかけっこをしよう。	②子犬や子ねこを他の動物にかえて、輪唱する。 からきでおいかけあそびをしよう。
る	②テープと一緒に歌詞唱する。 ③階名模唱する。 ④リズム唱とリズム打ちをする。	②リズムカノンをしながら、リズム唱・階名唱・歌詞唱をする。 ③グループで輪唱の練習をする。	③楽器でカノンをする。 鍵盤・ハと鍵盤・ハ 鍵盤・ハとオルガン 鍵盤・ハと木琴
まとめ	⑤リズム打ちをしながら階名唱や歌詞唱をする。	④2,3のグループが発表する。 ⑤全体で輪唱する。	④ふしあそびをする。 階名で 鍵盤・ハで
評価	二拍子のリズムにのって歌えたか。	拍の流れにのって、輪唱ができたか。	拍の流れにのって、輪唱・輪奏ができたか。

人間関係に関わる態度目標

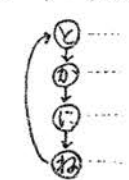
- 自分勝手にしないで、グループ練習ができる。
- グループの中での自分の役割がわかり、その責任を果たすことができる。

4	5	6
曲の感じをつかんで、柔らかい声で歌うことができる。	身体表現をしながら、輪唱することができる。	情景を想像しながら歌うことができる。
①「木のはのゆうびん」の範唱テープを聴き、感じたことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">やわらかい声で歌おう。</div> ② 範唱テープと一緒に歌詞唱をする。 ③ 2小節ずつの交互唱をする。 ④ 範唱テープと一緒に輪唱をする。	①「木のはのゆうびん」を輪唱する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">おどりながら、歌のおいかけこしよう。</div> ② グループで身体表現を工夫する。 ③ 5グループずつ前で発表し、曲のイメージに合ったものを、全員で表現する。 ④ 身体表現をしながら輪唱をする。	①「あわてんぼうのサンタクロース」の範唱テープを聴き、感じたことを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">がっきやおどりを入れて楽しく歌おう。</div> ② 歌詞唱をする。 ③ グループで身体表現や打楽器の入れ方を工夫し、練習する。 ④ グループごとに発表する。 ⑤ 全体で、身体表現をしながら歌う。(打楽器もかえる)
拍の流れにのって、柔らかい発声で歌えたか。	身体表現をしながら、輪唱ができたか。	身体表現をしながら歌えたか。

6. 本時の展開

- ① 本時の目標 (認知目標) 決められた速度を守り、拍の流れにのって輪
(態度目標) グループの中での自分の役割がわかり、協力

② 展開

	学習のねらい	主な発問	形態	学習活動
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 雰囲気づくり 鍵・ハのドリル学習 前時の学習を想起できる。 本時の目的をつかむことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> にこり顔で歌いましょう。 体中で歌いましょう。 耳をすましてふしをあてましょう。 「かわいいな」をリズム打ちしながら歌いましょう。 いよいよ歌のおいかげ、をします。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ころばないように気をつけて、うたのおいかげをしよう。 </div> 	一斉 ペア 一斉	<ul style="list-style-type: none"> 「楽しい音楽始 「歌えバンバン 教師がオルガン 「かわいいな」を いよいよ歌のおい 簡単に歌えよう ころばないように
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> 輪唱の約束を思い出すことができる。 輪唱のイメージをとらえることができる。 速度や拍の流れに気をつけて、輪唱ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ころばないように歌うには、どんな約束を守ればよかったですか。 おもしろいテープを聴いてみましょう。 一度、歌のおいかげをしてみよう。 グループで練習しましょう。 	一斉 G	<ul style="list-style-type: none"> 決められた速さ 範唱テープを聴 半分ずつに分か リズムカノ 速度を色々 先に歌う人、追い 役をローテーション 
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 本時の成果を味わうことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 発表してもらいましょう。 みんなが歌のおいかげをしましょう。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 前に出て発表する 半分ずつに分か

- ③ 評価 (認知目標) 速度や拍の流れに気をつけて輪唱ができたか
(態度目標) 自分勝手にしないで、自分の役割が果たせた

⑧ かわいいな

(りんしょう)

♩ = 84~92

(1) ワンワン こいぬ かわいい な ニャーニャー
 (2) びんびん うさぎ かわいい な すいすい

(1) ワン ワン こいぬ かわいい
 (2) びん びん うさぎ かわいい



🐶 こ犬や: こねこを, ほかの どうぶつに かえて うたって みましょう。

渡辺 茂 作詞
作曲

(V)

こねこ かわいい な
あひる かわいい な

(V)

な ニャーニャー こねこ かわいい な
な すいすい あひる かわいい な



先生や ともだちと ドレミで おはなししたり、がっき
()で おはなししたり しましょう。

じゆうに

第3学年 学級会活動指導案

公開 第2校時

教室 3年1組

指導者 溝口正子

1. 議題名 読書発表会の計画を立てよう

2. 議題設定の理由

二学期も半ばになると、係の活動のマンネリ化や行き詰まりのためか 活動意欲の低下が目立ち出した。そのため、学級会で、「係の仕事を工夫しよう」という議題でそれぞれ自分たちの係活動の反省をし、もっと工夫して仕事ができることをねらって話し合いを行った。その結果、係の仕事を広げようとする活動も見られるようになって来た。

図書係も本の整理や貸借の世話の他、学級文庫の入れ換えなど色々と自分達の仕事を広げて行った中で「紙芝居を作って、それを発表してみんなで楽しみたい。」という願いを議題ポストに入れてきた。

リーダー会で議題選定をしたところ 11月に読書週間もあるし、1つの物を作り上げる事を通して協力の大切さも分かるということ、この議題を取り上げることにした。

3. 指導感

①議題のとらえ

子供達は、山びこ集会やお話大会などの発表会を経験しているが、自分達で計画し実行していく事は初めである。従って計画段階でのきめ細かい指導が必要となり、時間もかかることが予想されるが、係の文化的な活動を広げさせるためにも この時期にこうした経験をさせることは、意義のある事だと考える。

発表会となると、出し物の出来具合に気を取られがちにな

るが、1つの係の提案したことを学級であるいはグループで
取り組み力を合わせて作り上げていく過程こそ大切にしてい
きたい。また、発表会をするための準備や必要な係、分担な
どもこの議題を通して学ばせたい。

②児童の実態

読書発表会の出し物は、どんなものがあるかアンケートを
とった結果は下記の通りであった。

紙芝居(O・H・P)・・・11人	読み聞かせ・・・15人
本さがし クイズ・・・7人	本作り・・・・・・・4人
劇・人形劇・・・・・・・5人	本の紹介・・・・・・・6人

この中から 作り上げる楽しさや 協力性の両面を考え合
わせ、出し物を決定して行きたい。また、出し物を作ってい
く段階でグループ内で様々なトラブルが予想されるが、問題
となった点をグループで話し合わせたり、力を合わせて作っ
ているグループを認めるなどして作り上げる過程の協力の大
切さを分からせていきたい。

③学級集団作り

生活・学習グループは、4~5名で構成している。グループ活
動の日を水曜日の帰りの会に位置付け、目当ての反省や困っ
たことの話し合い、漢字・計算の練習に当てている。

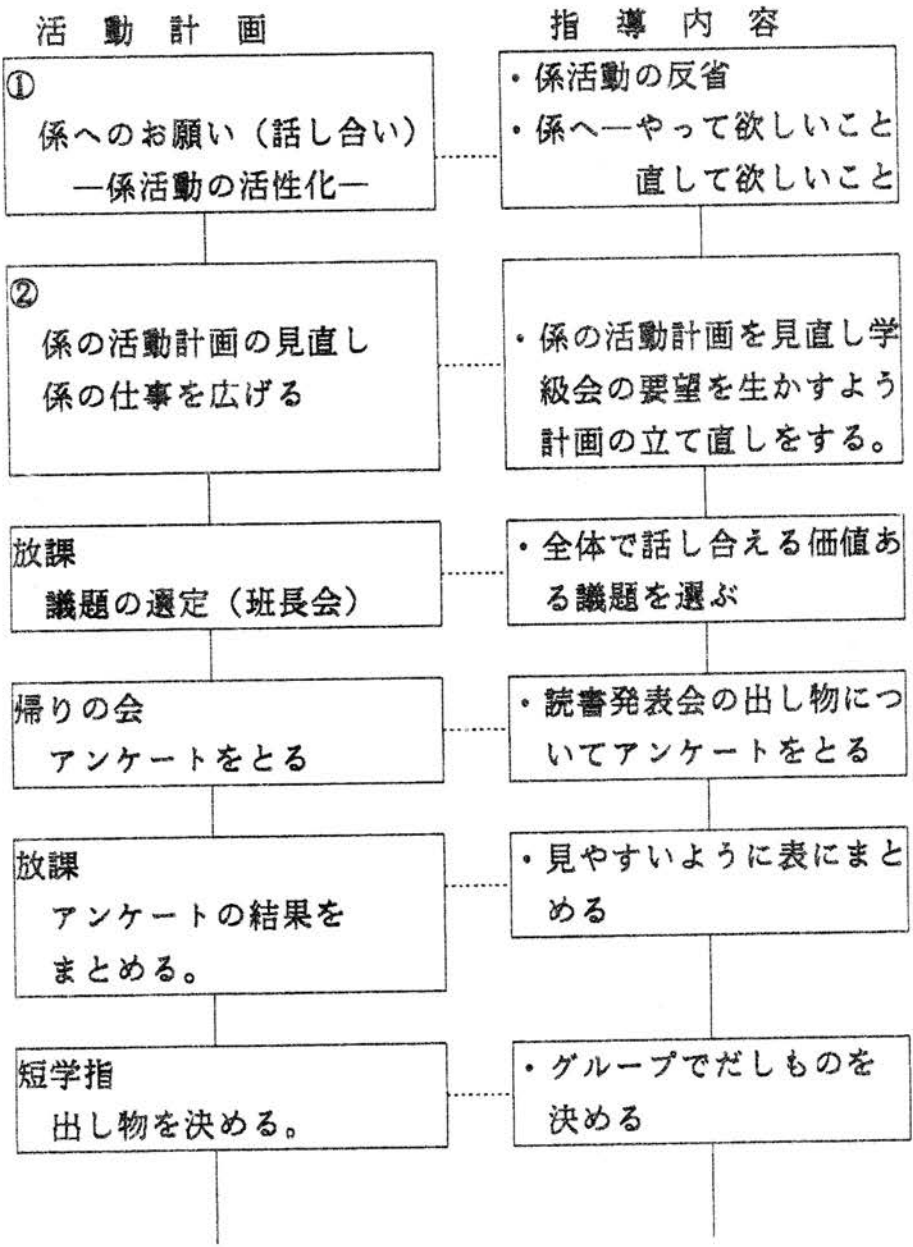
自己中心的な子がいたり、リーダーが力不足だったりして、
初めのうちはトラブルも多かったが、その都度、グループや
学級全体の問題として話し合っていくうちに、少しずつ協力
していこうとする姿勢が出てきた。

また、学習時は、小集団で意見交流の機会を設けることによ
って 自分の考えがなかなか言い出せない子も気楽に話せ
ようになり、全体の場でも グループの子に励まされ挙手す
る場面も見られるようになって来た。

4、実施計画

つきたい力

- ・文化的な活動ができる。
- ・発表会をするための準備必要な係・分担などが分かる。



放課
実施計画の作成
プログラム作成

・班長会で司会者 記録者
提案者など決め実施計画
を立て直す。プログラム
を作る

本 時

	話し合い活動	指導 援助
つか む	読書発表会で頑張った班 に賞をあげたいが・・・	議題、提案理由を補説する。
さぐる	賞を出すか、出さないか どんな賞がいいか	意欲が持てるように考える。
まと める	話し合いのまとめ 決定事項の報告	今日の話し合いの評価 今後の活動の意欲付け

短学指
賞の係決め

活動し易いよう班で
分担する

①
出し物実施計画作成

出し物のテーマ、場面分け
役割分担

②
製作 練習

班の協力

読書発表会

5 本時の展開

- ① 本時の目標 (認知目標) …… 意欲を持って読書発表会に参加できるよう 賞
 (態度目標) …… 生活を振り返りながら、自分の考えをグループ

② 展開

	学習のねらい	話し合いの進行	形態	児童の
つかむ	・読書発表会のめあて、期日などを 知る	1. 始めのあいさつ 2. 班長会からの報告 3. 議題の紹介および提案理由の 説明 4. 話し合いの進め方、めあての 確認	一 斉	・これから ・めあて、ま ・議題、提 読書発表 あける。
みんなのやる気を起こす賞について考				
さぐ	・意欲が持てるような賞を 決めることができる	5 話し合い ② 賞を出すかどうか。 ① どんな賞がいいか	個 ・一 斉 G 一 斉	・賞を出す ・頑張る ・頑張る ・どんな賞 ・絵が ・声が ・協力 ・練習
まとめる	・決定した事が分かり、今後の 活動に意欲、見通しが 持てる	6. 記録の発表 7. めあての反省 8. 先生の話 9. 終わりのあいさつ	一 斉	・今日、決 ・今日の話 ・先生の話 ・これで

- ③ 評価 (認知目標) …… やる気を起こす賞を考え、決定できたか。(発言)
 (態度目標) …… 友達のことを考えて、自分の意見が発表できたか(

について話し合っで決めることができる。

アや全体の場で 発言できる。

活動と予想される反応	指導と留意点
<p>学級会を 始めます</p> <p>明日、出し物など決まったことを発表する。</p> <p>案理由など 確かめて聞く</p> <p>長会で頑張ったグループに賞をあげてもよいか。 したら、どんな賞がいいか</p>	<ul style="list-style-type: none">・プログラムを作り掲示する・提案理由の補足を・目当ての意識化の工夫。
<p>しよう。</p> <p>か 出さないかについて話し合う</p> <p>作っても賞がもらえないと悲しい</p> <p>作るから、賞があった方がやる気がでる</p> <p>を作ったら、みんなのやる気が出るか話し合う</p> <p>上手にかけているグループに</p> <p>はきはきしているグループに</p> <p>しあい作り上げたグループに</p> <p>の工夫ができたグループに</p>	<ul style="list-style-type: none">・自分が賞をもらった時の気持ちや もらえなかった時の気持ちを 思い出させる・発表も大切だが作り上げる 過程が大切であることも分か らせる・審査の方法については、時間 があれば考えさせる
<p>ったことを発表します。〜です。</p> <p>し合いのめあては、守れたか反省してください。</p> <p>を聞く。</p> <p>学級会を終わります。</p>	<ul style="list-style-type: none">・先生の話し・参加態度・発表内容 友達のことを考えた 発言・日会、記録・活動計画

落 決定事項)

挙手：発言)

第3学年音楽科学習指導案

公開 第2校時
教室 3年2組
指導者 小川満壽子

1. 題材 リズムにのって

2. 題材の目標 リズムを体で感じとり、音楽の流れにとけこんで表現できる。

3. 教材群
○おぼけなんてないさ
○メリーさんのひつじ
○エンターティナー
○あわてんぼうの歌

4. 指導観

① 題材及び教材について



本題材の『リズムにのって』の『のる』というのは、古くから、日本の音楽にも用いられているが、『拍の流れにのって』とか『音楽にのって』の『のって』と同じであり、音楽を聴いて手を振ったり、体を揺すったりする身体の反応は、この『のって』の行動化であると考えられる。

従って、『リズムにのって』は、平たく言えば『調子にのって』『音楽の流れと一心同体になって』ということになる。

今までの学習では、拍子に重点を置いたものであったが、本題材では、その学習の流れを受け継いで、それらを、より生きた音楽の表現に高めていくように考えられている。

この題材を学習することにより、リズムを体で感じとり、音楽（リズム）の流れにとけこんで表現する能力を養いたい。

「あわてんぼうの歌」は、あわてると忘れ物をしたり、落とし物をしたりする等、よいことはないといった、日常の生活にありがちな失敗談を、ユーモラスな歌詞で歌われており、親近感を覚えるものである。

音型は、前半8小節で、1小節ごとに  の音型の反復を主にして1音ずつ下行しているので、拍子の拍の周期が旋律の上からも感じ取りやすい。後半は、 の音型を特徴とし、最後のフレーズは前半の動きを取り入れてまとめられている。

また、この曲は、主旋律と副次的旋律に低音を加え、リズム伴奏を工夫して、合奏や歌の伴奏ができるように編曲されている。

美しいアンサンブルを作るためには、それぞれのパートを、正しく、生き生きとしたリズムにのって演奏することの大切さを理解させたい。

② 児童の実態

4月当初、児童達の「音楽学習」に対する興味・関心を調べたとき、音楽を好きと答えたのは、クラスの8割を数えた。残りの2割の児童も、「嫌い」と断定したものは一人もなく、「普通」とか「ちょっと苦手」といった表現をしており、関心の度合の強さを感じた。

最近では、「音楽は苦手やけど、リコーダーがおもしろいで、音楽をいっぱいやりたい。」という男子も多くなってきたのは、喜ばしいことである。

どの教科でも、学習に対する取り組む姿勢は積極的で、意欲的に活動している。音楽でも、音楽係を中心に自習することもでき、全員が協力的に学習することができ、この点、前学年の指導のよさを感じている。

児童達は、全体的に軽快なメロディーを好む傾向にあり、こういった曲のほうがリズムに乗りやすく、表現しやすいためと思う。

本時の教材「あわてんぼうの歌」は、児童の好みにもあった3年生らしさを表現できる好教材である。

③ 学級集団づくり

低学年のバス学習の形態としては、隣席同志で話し合うという形態をとることが多いが、3年生になってからは、一歩進めて、4人の小集団で活動させる方法を取り入れた。

年度当初は、机列にしたがって、1列が歌い、残りの3列が聴き役となって、意見交流を行うという方法を多く取り入れたが、この場合は、どうしても発言者が偏りがちとなり、消極的な活動のまま学習が終わってしまう児童が多くいた。

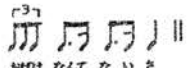
小グループによる学習活動を取り入れるようになってからは、個々の意見や考えが発表できる場と、何でも言える雰囲気ができ、児童の学習意欲が盛り上がり、考えが交流し合えるようになってきた。

お互いが教え合い、認め合うということが、仲間づくりを強固なものにし、リーダーを中心とした学習活動によって、どの子も学習課題が把握でき、取り組み方もより明確化されるので、学習に対しても、意欲が高まるようになってきた。

2学期からは、この実態の上に立って、人の意見を聞き、それを基にして自分の考えがまとめられ、発表できるようにしたいと考えている。

5. 単元指導計画 (全7時間 本時第5時)

音楽的諸能力		身につけたい力	態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しい感じに合った表現を工夫して、歌詞唱ができる。 ○ ふしのまとまりを感じとって歌うことができる。 ○ リズム伴奏を工夫して、曲に合った楽器を選んで演奏できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ グループや個人で楽器を選んだり、練習したりすることができる。 ○ ピアノの音色に興味を持ち、口ずさんだり、身体でリズムをとりながら、レコードを聴くことができる。 	

	1	2	3	4
目標	○ リズムに乗って楽しく歌うことができる。	○ 縦笛の演奏に慣れる。	○ 躍動的なリズムの楽しさを感じ取ることができる。	○ 曲想にあった表現ができる。
つかむ	① おぼけなんてないさ 範唱テープを聴いて、リズムや歌詞のおもしろさを感じ取る。 ② 歌詞内容、旋律から感じたことを話し合う ● テープやオルガンの伴奏に合わせて、リズムカルに歌いましょう	① たておえ 5 縦笛の基本練習をする。 ② メリさんのひつじ テープを聴き、曲の感じをつかむ ● 縦笛の練習をして上のふしと下のふしを合わせましょう。	① エンターティナー鑑賞レコードを聴く ② 軽快な曲の雰囲気、直感的にとらえる。 ● レコードを聴き、曲に合わせて、体を動かしてみましょう	① あわてんぼうの歌 範唱テープを聴いて、曲のおもしろさをとらえる ② 歌詞を読んで、気づいたことを話し合う。 ● テープやオルガンの伴奏に合わせて、たのしく歌詞唱をしましょう。
さぐる	③ グループ学習で、身体反応をしながら、リズムの感じや、ユーモラスな歌詞を感覚的にとらえる。 ④ リズム唱や拍打ちをして、曲に慣れる。 ⑤ 拍打ちをして、言葉を拍に乗せるようにする。	③ グループで、運指や息の強さに気をつけて、1フレーズずつ練習をする。 ④ 三拍子の拍の流れを感じ取りながら、視奏する。 ⑤ グループで教え合って、主旋律や副旋律の練習をする。	③ グループの友達と組んで、身体反応を工夫する。 ④ 情景を想像しながら、身体反応をする ⑤ フレーズの変化を体にとらえる。	③ 階名唱をして、旋律の流れや音程をつかむ。 ④ グループの学習で、歌詞の歌にくい部分を練習する。 ● 似たふしと違うふしを見つけましょう。 ⑤ 1フレーズと2フレーズ・3フレーズと4フレーズの出だしが、同じであることをつかむ。
まとめ	⑥  の言葉のもつリズムを感じとってはっきりと歌う。	⑥ 二声の響きを感じ取りながらリズムに乗って合奏する。	⑥ グループごとに身体反応や、リズム表現を考え、発表する	⑥ 歌詞の内容を生かして楽しく歌う。
評価	○ 伴奏に合わせて、リズムカルに楽しく歌うことができたか。	○ 曲想をいかし、伴奏に乗って合奏できたか。 ○ 運指が正しくできたか。	○ リズムに乗って、身体反応をすることができたか。	○ ふしの変化を生かして歌えたか。

人間関係にかかわる態度目標

- お互いに教え合うことにより、自分のつまずきを知り、練習することができる。
- 友達の言葉をよく聞いて、自分の考えをしっかりと持つことができる。
- 自分の考えがしっかり発言でき、いっしょになって勉強する気持ちを持つことができる。
- 友達のがんばりを認めるとともに、自分の責任を果たすことができる。
- 他のパートと合わせることによって、相手を思いやる気持ちを持つことができる。

5	6	7
<ul style="list-style-type: none"> ○ 副次的な旋律を、模唱・奏することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の感じを生かしたリズム伴奏を、することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の感じをつかんで、楽しく演奏できる。
<p>① あわてんぼうの歌 歌詞の内容を生かして 楽しく歌う。</p> <p>② 副次的な旋律を、模唱・奏する。</p> <p>● 縦笛のふしを練習して、歌と合わせる勉強をしましょう。</p>	<p>① あわてんぼうの歌 リズムに乗って言葉を はっきりと歌う。</p> <p>② 主旋律と縦笛のパートを合わせて歌う。</p> <p>● 曲に合ったリズム伴奏を工夫して、合奏しましょう。</p>	<p>① あわてんぼうの歌 主旋律と縦笛のパートを 合わせて歌う。</p> <p>② 前時に学習したリズム伴奏をつけて、合唱・奏をする。</p> <p>● オルガンのパートの練習をして、楽しく合奏をしましょう。</p>
<p>③ グループで階名唱をしながら、フレーズごとに合わせる。</p> <p>④ ミ・ファの運指や、4フレーズ目の運指に注意する。</p> <p>⑤ ♪ ♫ ♫ ♫ ♫ ♫ の長さに、注意する。</p>	<p>③ グループで話し合っ て、楽器を選ぶ。</p> <p>④ フレーズと対照して リズムパターンを考 える。</p> <p>⑤ リズムパターンを組 み合わせて、リズム 伴奏を考え、練習する。</p>	<p>③ 指番号は、右手・左手とも同じであることを再確認してから、グループで練習する。</p> <p>④ 主旋律や、縦笛のパートと合わせながら練習する。</p> <p>● 合奏練習をしましょう。</p> <p>⑤ 2グループを合わせ、その中で楽器の分担を話し合っ て決め、各パートの復習 をしてから合わせる。</p>
<p>⑥ グループで、見合っ たり教え合ったりして 練習し、みんなの前で 発表する。</p>	<p>⑥ グループで考え合っ たリズム伴奏を、発表 し合う。</p>	<p>⑥ パートを交替しながら、 合奏を楽しむ。</p> <p>⑦ 各グループの練習の成果 を聴き合う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい運指で吹けたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムパターンを組み合わせて、表現できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズムに乗って、楽しく演奏できたか。

6. 本時の展開 (本時 5/7)

- ① 本時の目標 (認知目標) 副次的な旋律を、たて笛で、模(唱)・奏すること。
 (態度目標) お互いに教え合うことにより、自分のつまずきを!

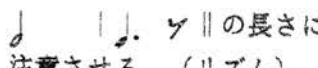
② 本時の展開

学習のねらい	主な発問	形態	
つ か む さ ぐ る	<ul style="list-style-type: none"> ○本題材を歌い、学習意欲を盛り上げる。 ○副次的な旋律を、テープを聴いて、つかむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に勉強した「あわてんぼうの歌」を歯切れよく歌いましょう。 ○今のテープを聴いて、歌と違ったふしがあったことがわかりましたか。 ○たて笛のふしを練習して、歌と合わせる勉強をしましょう。 	一斉 一斉
さ ぐ る	<ul style="list-style-type: none"> ○副次的旋律を吹くことができるようにする。(音程・拍・リズム) ○グループで、運指・音程・拍について、教え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●階名視唱をさせる。 ●階名唱をしながら運指をさせる。 ●一緒に吹かせる。 ●個人で吹いてみる。 ○グループで、たて笛のふしが、正しい音で、長さに気を付けて吹けるように、練習しましょう。 ○練習できたグループに発表してもらいます。 	一斉 個 G 一斉
ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> ○主旋律とたて笛のパートを合奏することができる。 ○次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どのグループも、しっかり練習できたから、いっしょに吹いてみましょう。 ○それでは、歌に合わせてみましょう。 ○今度の時間は、リズム伴奏の勉強です。 	一斉 一斉

- ③ 評価 (認知目標) 副次的な旋律を、たて笛で、模(唱)・奏することができ
 (態度目標) お互いに教え合うことにより、自分のつまずきを知り、練

とができる。

印り、練習することができる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	準備
<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容を生かし、リズムにのって楽しく歌う。 ●指揮者の指揮によって歌う。●身体表現をする。 ○歌のふしと違ったふしが、たて笛でやっていたよ。 ○たて笛がきれいだったよ。 ○たて笛で吹いてみようよ。○ぼくたちもやってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○拍の流れにのって、身体表現をさせる。 ○たて笛がわかるテープを聴かせる。 	楽譜 テープ ① 学習目 当の紙
<ul style="list-style-type: none"> ○たて笛のパートの模唱をする。(階名唱) ○階名唱をしながら、運指をする。 ○たて笛のパートの模奏をする。 ○フレーズごとに合わせる。 ○各自で吹いてみて、つまずきを知る。 ○グループ学習でお互いに教え合う。 ○グループ同志で聴き合って、感想を話し合い練習をする。 (1～2人が吹き、他が聴く。) ○グループ全員が吹けるようになったら、みんなの前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい運指・音程で吹けるようにさせる。 ○3フレーズ目の  の長さに注意させる。(リズム) ○グループの中で、演奏者・聴き役をきめて、教え合っ て練習をさせる。 ○グループの全員に吹かせる ○2～3Gに発表させる。 	オルガ ン 楽譜 (児童 に配布 する)
<ul style="list-style-type: none"> ○たて笛パートをいっしょに吹く。 ○パートを交替しながら、合奏のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音程・拍に留意させる。 ○パートのバランスに気をつけさせる。 	テープ ②

たか。

《一斉学習、グループ学習(机間巡視)の場で評価する。》

習することができたか。《グループ学習(机間巡視)、まとめの発表の場で評価する。》

⑦ あわてんぼうの歌

まど みちお 作詞
外 国 曲

♩ = 112~120

3 2 1

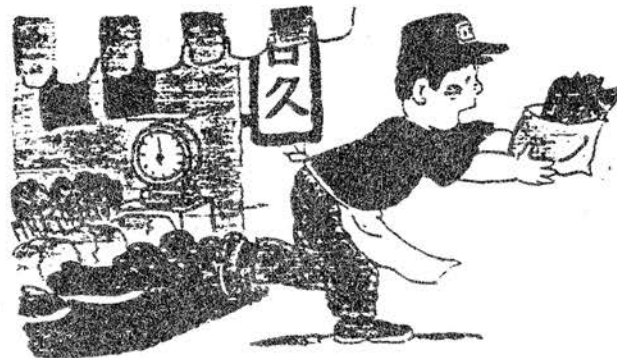
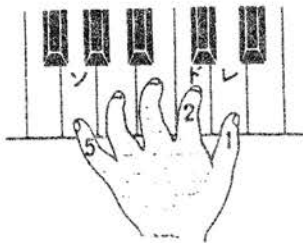
1 あわてんぼうの おつかい ようじも きかず
2 あわてんぼうも にどめは ようじを きいて
3 あわてんぼうも さんどめは おかねを にぎり

左手 2 5 1 5

3 3

あわてて かけだす タッタッタッタ タ
さんちようめの やおやへ タッタッタッタ タ
やおやへ かけこむ タッタッタッタ タ

[オルガン]



リズムにのって、ことばをはっきりと歌いましょう。

3 2 1 1

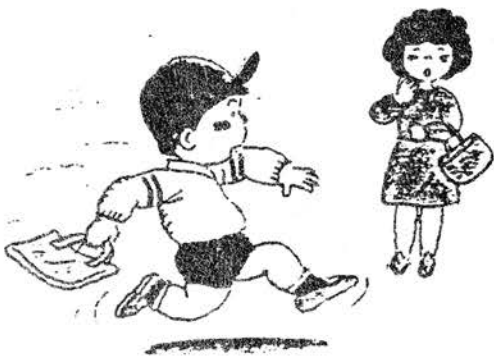
いちちよめ の かどで きがついて かえる
 にちちよめ の かどで きがついて かえる
 やさいを かって おかねを だすと

右手4

3 2 1 4 2 3 3

ようじは なんだっけ タッタッタッタッ タ
 おかねを もってない タッタッタッタッ タ
 やさいも もたずに タッタッタッタッ タ

4



〔リズムばんそう〕下から えらんで
 自由に くふうしましょう。

7 $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ||

7 $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ||

7 $\frac{2}{4}$ ♩ ♩ ♩ ♩ ||

第4学年 社会科学習指導案

公開 第2校時
教室 4年1組
指導者 丹羽 岳人

1. 単元名 あたたかい沖縄の暮らし

2. 単元目標

一年中暖かく雨も多い沖縄では、気候条件にあった生産活動や生活様式をとっていることがわかる。

3. 指導観

① 教材について

日本列島は、狭いながらも、様々な気候条件、地形条件が見られる。人間の生活様式や産業も、それぞれの地域によって様々である。しかし、どの地域の生活様式や産業も、それぞれの自然環境に対応し自然環境を生かしてきたものである点は同じである。ただ、自然は人間に対していつでも益をもたらしてきたわけではない。人間は、簡単に豊かな生活を得て来たのではなく、きびしい自然条件を克服してきたたくましい歴史も持っている。もちろん現時点でもその活動が続いている。

沖縄の気候は、夏の暑さはこちらとそれ程かわらないが、年間を通じて暖かいこと、夏の暑い時期が長いこと、年間を通じて雨量が多いことが大きな特徴である。この気候を生かして、亜熱帯産の農作物を栽培していることが産業の特色である。冬期、他地方では生産することのできないものを出荷しているのもここで生活する人々の知恵のあらわれである。また、強く軟の多い台風に対する防備も特色のあるもので、その工夫についても学習を進めたい。岐年と比較することで、自然条件への適応、対応の様子を見つけ取る力をつけたい。また、この単元では、今までほとんど出てこなかったグラフを使った学習が多い。グラフを読み取る力をつけることも大切な指導である。

② 児童の実態

絵地図、写真などを見せ気がついたことを発表させることを何度か取り入れて来ているが、初めの頃は何に目をつければいいのかわからない子が大多数だったが、最近何かしら気づける子が少し増えてきた。教師のねらうところまで気づける子はまだ少ない。社会事象の意味を考える時、生活や見学したことを足場にして自分の考えを持つことはできる子が多い。また既習内容から考え出すことはほとんどできない。また、考えを一つ見つけるとそれ以上考えようとする意欲が弱い。考え方も大ざっぱなので、現在もっと分析的に見たり考えたりできるよう指導している。ねり上げる力もまだ足りない。まじめに学習しようとする気持ちはあるが、ちょっと難しくなった時のねばり強さももっと欲しい。

③ 学級集団づくり

自分の考えを話す時、「〇〇君によく似ていますか…」〇〇さんにつけ足しで…」と言って話し始めたり、最後まで「…だと思えます」と言いきったりするよい習慣が前学年の時からついているので、現在も続けて指導している。まだ教師にだけ話そうとする子が多いので、人の多い方に向かって、一番遠い子に話すつもりで発表するようにさせている。意見の交流をする時、自分の考えを言えば満足してしまい、言いはなしで終わってしまって、みんなの考えを聞いてまとめようとするのがまだできない。相反する意見が出ても、意見を戦わせようとする姿勢がまだ弱く、機会があるたびに指導しているところである。

グループの中で考えを出させると、全体の場では言えなくても気軽に話せる子が多い。基本的には、自由に会話をさせている。友達のことを聞いて自分の考えに自信を持てればと考えている。まだグループによっては司会者に指名されないと話せない子もいる。グループの中では、司会の子もふだん話すように話させたり、他の場でグループ内の人間関係をよくしていくよう指導している。

4. 単元指導計画

<全6時間, 本時第3時>

つ け た い 力	
・	沖縄は一年中温暖多雨で、その気候を生かした生産活動、その気候に対応した生活用式をとっていることがわかる。
・	グラフ・図から、沖縄地方の気候農業の様子などを読みとることができる。
・	沖縄で特色ある生産活動や生活用式がとられている意味について考えることができる。
・	沖縄の生産活動や生活用式の意味追求が意欲的にできる。

時	1
人 間 関 係	資料を持ち寄り、気がいたことをグループで出しあえる。
目 標	沖縄の様子を予想し、沖縄について調べたいことをまとめる
つ か む	沖縄について知っていることを発表しあう。
さ ぐ る	① 沖縄県の人達は、どんな暮らしをしているのだろう。 ・パンフレットや絵はがきから気づいたことを発表し合う。 ② 沖縄について、これから学習したいことを話し合う。 ・「気候」「農業」「家」「観光」「基知」...と、分けてまとめてゆく。
ま と め る	これから沖縄県の暮して学習してゆくことがわかる。
評 価	沖縄について調べたい学習課題を持つことができたか。

時	2	3 (本時)	4
人間関係	リーダーを中心に全員 他の子の考えも聞いてあ	自分の考えをグループの中で発表でき ることが出来る。	
目標	沖縄県の気候の特色を グラフや生活カレンダー からとらえられる。	沖縄では、恐ろしい 台風による被害を防ぐ ため、すまいを工夫して いることがわかる。	暖かい気候を生かして、さとうきびや、パイナップル作りをしていることや、その価値がわかる。
つかむ	生活カレンダーを見て、気づいたことを発表しよう。 (生活カレンダー)	沖縄の家を見て、気づいたことを発表しよう。 (OHP、スライド)	沖縄の作物の作付け面積を岐阜のと比較する。(作付け面積グラフ)
さぐ	① 沖縄では、どうしてこんなに長い間クーラーをつけるのだろうか。 ② 那覇市と、土岐市の気温のグラフからちがいを見つけ、更に生活の違いについて知る。(気温グラフ)	① 沖縄の人は、どうしてこんな家をつくらたのだろうか ② 土岐市にも台風は来るのに、どうしてこんな家なのだろうか ・ 台風の接近回数の違い、風の強さについて知る。 (台風進路図) (宮古島台風の作文)	① 沖縄では、なぜさとうきびやパイナップルを多く作るのだろうか。 ・ パイナップル、さとうきび栽培可能な地域図からも考える。(パイナップル、さとうきび栽培地地図)
る	③ 年間を通して降水量も多いことがわかる。(年間降水量グラフ)		② さとうきび、パイナップル作りでの問題点を調べる
まとめ	沖縄県の気候についてまとめる。	沖縄の家のつくりと台風の関係性をまとめる。	気候とパイナップル・さとうきびの関係をまとめる。
評価	沖縄の気候の特色を生活と結びつけて、理解できたか。	台風の恐ろしさとそれに対応するすまいの工夫がわかったか。	さとうきび、パイナップル作りのさかんなわけが気候と結びつけて、理解できたか。

5	6
グループで考えを ねることができる。	リーダーがみんなの話を 聞いてまとめることができる。
冬の暖かい気候を利用し、野菜や花づくりにか かを入れている農業の変 化と問題点がわかる。	沖縄県のくらしには、 どんな問題があるか 調べ、人々の願いを 考えることができる。
<p>野菜の県外出荷量や 出荷時期を言合わせる。 (野菜出荷量・時期表)</p> <p>①なぜ冬の間の野菜 や花作りがさかんにな り県外出荷が増えた のだろう。</p> <p>②やさいや花の県外 への出荷のしくみを 知る。</p> <p>③出荷できない野菜 もあることから、問題 点について知る。</p>	<p>これまでの学習では、 どんな問題があったか 思い出す。</p> <p>①沖縄県と戦争の 問題について調べよ う。 (戦争と沖縄の関係) (土地利用図)</p> <p>②軍用地に対する 沖縄の人の気持ち を考える。</p> <p>③その他の問題に ついて調べる。 ・自然破壊 ・木不足 (本)</p>
沖縄の野菜づくり の工夫と問題点に ついてまとめる。	沖縄のかかえる問 題についてまとめる。
野菜づくり、花づくりの 工夫について、気候 と結びつけ理解で きたか。	沖縄県の問題に対 する人々の願いを 考えられたか。

資料「宮古島台風の話」

〈中学生の作文—『わたしたちの沖縄』より〉

私は、避難先でついに一睡もせず夜をあかした。午前8時ごろ、そっと戸をあけてみた兄が、「家が倒れているぞ。」とさげんだ。私はびっくりしてのぞいた。「ない！」 私たちがきのうまで生活していた家がない。あれくるう風、さわぎみだれる木々、生まれてはじめてのおそろしい台風である。いつもの台風なら、夜があけるとやんでしまうのに……。

昼ごろになってようやく風がしずまった。私は外へでた。時速7キロというのろのろ台風が、85メートルというものすごい風速で、こんなに小さい宮古島をなめつくしてしまった。

緑豊かな私たちの島が、今では戦場のようにあれはてたすがたになっている。父と母は、倒れた家をかたづけている。私は、どろまみれの洋服や、ずぶぬれになった教科書をひろげた。

5. 本時の展開

① 本時の目標

- ・ 認知目標 --- 沖縄では、台風による被害を防ぐよう、重い瓦をし。
- ・ 態度目標 --- 自分の考えをグループの中で発表でき、他の子の考

② 展開

	学習のねらい	主な発問	形態	活
つかむ	写真から沖縄の家の特徴をつかむことができる	○ 沖縄の家を見て、土岐市の家と比べて気づいたことを言ってもらいます。	一斉	・ 屋根が大きい ・ 一階だて ・ 垣がつんで ・ 家と家が
さぐ	家の特徴のわけを気候と結びつけて考えることができる。	○ <u>沖縄の人には、どうしてこのような家をつく</u>	個 ↓ G ↓ 一斉	・ 台風の風が ・ 雨もりしな ・ 台風の風が ・ 風をよける ・ 洪水が入 ・ 大きな屋根
る	沖縄に台風の被害が多い理由がわかる。	○ <u>土岐市でも台風が来るのに、なぜ</u> 沖縄はこの	一斉	・ 土岐市より ○ 最近数年 いかに確か ○ 宮古島台風
まとめる	考えたことが正しいか確かめる。 本時わかったことをノートにまとめられる	○ 沖縄の台風の様子をビデオで見よう ○ 今日の勉強でわかったことをノートにまとめなさい。	個	

③ 評価

- ・ 認知目標 --- 沖縄のすまいの工夫を台風と関連づけてまとめられる
- ・ 態度目標 --- グループで自分の考えを出し、他の子の考えも聞いて

つくいでとめるなどすまいの工夫をしていることがわかる。
 とも聞いてあげることができる。

動と予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>大きい ・三角の形をしている ・瓦のまわりが白い ・家の周りに石 "ある。 ・庭に木がある。 離れている。 ・窓があまりない</p>	<p>・瓦の様子はよく見せる。 ・しつくいについては補足 する ・瓦の模型と土岐の瓦を 比べさせる。</p>
<p><u>ったのだろう。</u> 瓦をばささないよう大きい。しかも、しつくいでとめた。 いようしつくいでとめた。 がまともにあたらないよう二階がない。 ように石垣がある。 て来ないように石垣がある。 るですずしい。</p>	<p>・「瓦」「一階」「石垣」に 分けてまとめる ・^大集^大ができたら、Gで話しあわせる。 ・「洪水」という考えにこた えるようなら模型を水にひた してみる。</p>
<p><u>ような家なのだろう。</u> 台風が多いのでは。・風も強いのでは 問の台風の進路図をもとに、考えが正し かる。 見の話聞く</p>	<p>・接近した台風の数の 記録、風速の記録も示す。 ・ゆづくり進むこともお さえる</p>

三か。(発表内容・)ート)

いたか。(机間巡視)

第4学年 音楽科学習指導案

公開 第2校時
教室 視聴覚室
指導者 土屋 美由紀

1. 題材名 楽しい合奏
2. 題材の目標 楽器の音色や響きの特徴を感じとり、パートの役割を理解して正しく合奏することができる。
3. 教材群 A. いたずらっこの いたちくん
B. 茶色の小びん
4. 指導観

① 題材及び教材(茶色の小びん)について

「合奏」は、いろいろな楽器によって多彩な表現を楽しむことができる。互いに協力して作り上げる喜び、楽器の音色や重なりによる音の響きの美しさを感じられるという点で、子どもたちにとっても楽しい学習のひとつである。楽器が演奏出来る様になるという技能的な面に加え、楽器の特徴をつかんで曲にあった楽器を選択することや、それぞれのパートの役割を理解してバランスを考えた演奏をすることなど、感覚的にとらえる活動を大切にして行きたい。

「茶色の小びん」は、原詩がアメリカの作曲者自身のものであり日本へは、スイングジャズの編曲で伝えられ親しまれてきた。歌詞も曲もたいへんコミカルであり、リズムカルで楽しい雰囲気がある。♪♪♪というシンコペーションのリズムと、四分音符の連続で出来ているのがこの曲の特徴である。リズムパターンに気をつけ、リズム打ち、リズム唱、階名唱をしながら全体を軽くリズムカルに演奏できる様にさせたい。また、いろいろなパートや楽器を組み合わせ

作り上げていく楽しさ、リズム伴奏の工夫、低音の動きの面白さなども味わわせていきたい。

② 児童の実態

学級全体でみると、意欲的に音楽の学習に取りくもうとする雰囲気がある。しかし、県音研音楽基礎能力調査の結果からみると、男子と女子では全体的に女子の方が全この能力に対して高いこと、また男子では特にリズムの点に弱い面が見られるという結果がでている。楽しい合奏をするためには、まずしっかりとリズムがとれること、そしてリズムによって演奏できることが大切である。拍子感をしっかりと身につけさせていきたい。

また、楽器演奏の技能面でも同様な事が言え、女子の方が男子よりもはやく出来る様になる。そのため、男女の教え合う場面もよく見られるが、全体的な日々の活動からみても、歌唱にややウエートがおかれているため、十分育っていないという実態であり、楽器のもつ特徴や音色、組み合わせの響きなどに触れる機会を多くもたせていきたい。

③ 学級集団づくり

学級の活動で重視していることは、友だちの良い点を認め合う、仲間と共に1つのものを創り上げるということである。そこで学校生活のいろいろな場面を生活グループを中心として活動してきた。音楽のグループ学習もこの生活グループが母体となっている。そのためグループ内での話し合い、助け合い、認め合いは自然な形でできつつある。グループ学習の仕方は、こんな学習ができたらいいいね、ということを通して紹介しあいながら進めてきた。しかし、リーダーの力や構成メンバー、人数により、いろいろな差がでてくる。誰でもが、それぞれの立場でリーダーになったり、また同じ立場で自由に話し合い活動できる、そしてみんなが高め合える、そんな集団づくりをめざしている。

5. 単元指導計画 <全8時間 本時第4時>

身につけたい力				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">音楽的諸能力</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">態度</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ハ長調の視奏ができる。 リズムや旋律の特徴を生かして合奏をすることができる。 二部合唱・奏の技術を高めることができる。 オーケストラの表現に親しみ、いろいろな楽器の音色や特徴をとらえることができる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 拍子やリズムの違いを感じ合奏を楽しくとする。 グループで発表したり、聴き合ったりできる。 弾んだリズムにのり、身体表現をしようとする。 パートの役割を理解し、互いに協力して楽しく合奏ができる。 </td> </tr> </table>	音楽的諸能力	態度	<ul style="list-style-type: none"> ハ長調の視奏ができる。 リズムや旋律の特徴を生かして合奏をすることができる。 二部合唱・奏の技術を高めることができる。 オーケストラの表現に親しみ、いろいろな楽器の音色や特徴をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 拍子やリズムの違いを感じ合奏を楽しくとする。 グループで発表したり、聴き合ったりできる。 弾んだリズムにのり、身体表現をしようとする。 パートの役割を理解し、互いに協力して楽しく合奏ができる。
音楽的諸能力	態度			
<ul style="list-style-type: none"> ハ長調の視奏ができる。 リズムや旋律の特徴を生かして合奏をすることができる。 二部合唱・奏の技術を高めることができる。 オーケストラの表現に親しみ、いろいろな楽器の音色や特徴をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 拍子やリズムの違いを感じ合奏を楽しくとする。 グループで発表したり、聴き合ったりできる。 弾んだリズムにのり、身体表現をしようとする。 パートの役割を理解し、互いに協力して楽しく合奏ができる。 			

	1.	2.	3.	4 (本時)
目 標	楽器の音色や特徴を感じとって聴くことができる。	情景を想像しては自分で感じて歌うことができる。	主旋律をリズムにのって演奏することができる。	副次的な旋律を正しく演奏できるようにし合奏することができる。
フ か む	① 「いたずらっこのいたちくん」を全曲を通して聴き、感じたことを話し合う ② 曲名、作曲者を知る。	① 「茶色の小びん」の歌詞を読み、情景について話し合う。 ② 範唱レコードを聴き、曲の感じについて話し合う。	① 「茶色の小びん」を斉唱する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主旋律をリコーダーでふけるようにしリズムにのって演奏しよう</div>	① 「茶色の小びん」の主旋律を斉唱・演奏する。 ② 副次的な旋律の入った二重奏を聴く
さ ぐ る	③ 主な旋律(テーマ)を、ラウラで歌い ④ ①の感じの違いを話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">楽器の音色がどんな様子をあらわしているか考えよう</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">は自分で感じて楽しく、はっきり歌おう</div> ② 拍子打ち、リズム打ちをし互いに聴き合う ④ 主旋律の階名唱歌詞唱をする	② 主旋律を階名唱する リズム打ちをする。 リコーダーで視奏する。 ③ グループ練習をする。 ④ グループ発表をする	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">副次的な旋律を正しくふけるようにし、楽しく合奏しよう</div> ③ 副次的な旋律の階名唱をする。 リコーダーで視奏する ④ グループ練習をする
ま と め る	④ 楽器の音色・特徴に耳をつけて聴く。 ⑤ イメージをふくらませ物語を作って発表する。	⑤ フレースのまとまりを感じながらは自分で感じて歌う。	⑤ リズムにのって全体演奏をする	⑤ グループ発表をする ⑥ 全体で合奏する
評 価	曲想の変化をとらえて聴くことができたか。	はっきりとした発音で、は自分で歌えたか。	主旋律が正しい運指で演奏できたか	副次的な旋律が正しい運指で演奏できたか

人間関係に関わる態度目標

- 友だちのつまりきや努力について 暖かい はげましができる。
- 合わせる活動によって、相手のことをよく聴いたり 相手を思いやる気持ちができる。
- 自分の意見を仲間の中へ進んで出して行き、お互いに高めあうことができる。

5	6	7	8
拍の流れによって 低音伴奏を入れる ことができる。	リズム伴奏を工夫 して演奏するこ とができる。	響きの美しさを感じと り、正しく合奏するこ とができる。	リズムにのった演奏 ができる。
① 「茶色的小びん」を 二重奏する。 ② 低音の入った演奏を 聴き、感じを話し 合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主旋律に合わせて 低音伴奏は「はすんだ」 感じてひけるように しよう</div> ③ 低音の階名唱、リズム 打ちをする ④ オルガンで視奏する。 ⑤ グループ練習をする ⑥ グループ発表をする ⑦ 全体で演奏する	① 「茶色的小びん」を 合奏する。 ② リズム伴奏の入った 演奏を聴く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">曲に合ったリズム 伴奏を工夫しよう</div> ③ リズムパターンを 練習する ④ どのリズムが どの フレーズに合うか 話し合う ⑤ 楽器選びをする ⑥ グループ練習をする ⑦ リズム伴奏を加えた 合奏をする	① 「茶色的小びん」を 合奏する。 ② 新しいパートの入 った演奏を聴く。 ③ 役割分担をする <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">木さんのパートを 入れて、合奏できる ようにしよう。</div> ④ グループ練習をする 各パートの音量の バランスを考えた 演奏 ⑤ グループ発表	① 「茶色的小びん」を 歌う ② グループで合奏する ③ 範奏テープを聴き グループ合奏の問題 点を話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「はすんだ」感じて 合奏しよう。</div> ④ グループ練習をする ⑤ グループ発表をする
「はすんだ」感じで 低音伴奏がひけたか	拍の流れにのった リズム伴奏が入れられ たか。	響きのある演奏が できたか。	「はすんだ」合奏を することができたか。

6. 本時の展開

- ① 本時の目標 (認知目標) 音の響きの美しさ、楽しさを感じとり、副
(態度目標) グループ練習で、自分のつまずきが言え。

② 展開

	学習のねらい	主な発問	形態
つかむ	<p>前時までの学習を想起することができる。</p> <p>リコーダーの二重奏に気づくことができる。</p> <p>本時の課題をつかむことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 自分が一番美しいなあ、気持ちいいなあと思う声であいつら(声) 「茶色的小びん」を斉唱し、リコーダーでも演奏しましょう。 今までのことに気を付けて もう一度演奏しましょう。 これからある演奏をきいてもらいます。今までのみんなの演奏とどんな所がちがうか、どんな感じがするか考えながら聴いて下さい。 副次的な旋律を正しくふけるようにして、楽しく合奏しましょう。 	一斉
さぐる	<p>副次的な旋律を覚えることができる。</p> <p>グループで 教え合い 認めあひながら 練習できる。</p> <p>グループ練習の成果を知り 認めあうことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 目をつむって音の重なりや響きを感じながら もう一度演奏を聴いて下さい。 1度みんなととれたけふけるかふいてみましょう。 みんなで練習してみましょう。 各自で練習しましょう(終わったら学習カードに記入) 副次的な旋律を正しくふけるようにして 合奏できるよう グループで練習しましょう。 グループで練習した成果を発表しましょう。 	<p>一斉</p> <p>1個</p> <p>4</p> <p>(4内) 1人</p>
まとめる	<p>本時の成果を味わうことができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> みんな楽しく合奏しましょう。 	一斉

- ③ 評価 (認知目標) 副次的な旋律を正しい運指でふき、主旋律
(態度目標) 自分の演奏や友だちの演奏について、意見

次の旋律を正しい運指でふいて、合奏できる。
 お互いに教え合いながら、学習を進めていくことができる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・4年3組集まる。楽しい音楽始めよう。楽しい音楽始めよう。」 ・指揮者がめあてを言い、演奏者はめあてを持って演奏する。<small>聴き役 演奏者</small>の意見の交流 ・シンコーションのリズム 音色に気をつけて演奏する ・主旋律と副次的な旋律の二重奏のテーマを聴く <ul style="list-style-type: none"> ・下のパートが入っていた。 ・美しく響いていた。 ・1つのパートより、楽しい感じがする。 	<p>終わりの音の響きを意識させる。</p> <p>聴き役の目標と演奏者自身の目標をまとめながら問題のpointをしぼる。point指導</p> <p>意見を聞いたあと、副次的な旋律のパートを提示する。</p> <p>茶色的小びんのもつ曲のおもしろく、楽しくと合奏の面白さをイメージさせる。</p>	<p>楽譜 リコー 範奏 テープ 糸 ぬり 紙</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・音の重なりや響きを感じながら聴く <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">全体練習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 階名唱で歌う 2. 階名を言いながら運指の練習 3. 視奏 4. 部分的にとり出して練習 ♪♪♪ シンコーション リズムうち タンギング 音色について </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができない所 わからない所に印をつける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">グループ練習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1度みんなであらうみる。 2. できる所、できない所をはきらせる 3. グループのめあてをつくる 4. 練習する <p>できたらグループ学習カードに印をつけていく</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>副次的な旋律がふけるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P管を言う、言てあげる ・ゆっくりとしたテンポで ・拍打ち、運指の教え合い など <p>合奏できるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①と②のパート分け 交代 ・相うちしながら ・音色のききあい など <p style="text-align: right;">グループで工夫して</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・練習方法を紹介して発表する。 	<p>自分がめざそうとするあがれを深まらせる。</p> <p>主旋律を常に流しながら、響きの中で練習をさせる</p> <p>グループ練習に入る前に個々の問題点を明確にさせる</p> <p>① 副次的な旋律が正しくふける ② 主旋律と合わせてふける</p> <p>①と②をからみ合わせながらグループで工夫して、練習を進めさせる</p> <p>(グループ巡視での指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え合いについてのアドバイス ・音の長さ ・リズム ・美しい音色 <p>グループ練習でなめたい点を紹介する。</p>	<p>個人 学習カード グループ 学習カード グループ 楽譜</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と副次的な旋律に分かれて楽しく合奏する。 	<p>(教師伴奏) お互いのパートの音を聴きながら、リズムにのって楽しく演奏させる。</p>	

と合わせて演奏できたか。(グループ練習、まとめの演奏)

を言うことができたか。(グループ練習)

7 茶色の小びん

英 龍 明 子 作詞
ヨセフ ウィンナー 作曲

♩ = 132~144

1 おがわの ほとりの ちいさな こやに
2 ちゃいろの こびんを ふたりで ゆすりゃ
3 ともたち きたときゃ えがおで むかえ

(オクターブひくく)
右手1 2 3 * 4 5 1 4 1
左手4 2 1 2 1 5 2 5

ふたりは たのしく すんでい ました
こうちに ぎゅうにゅう なんでも できるよ
ちゃいろの こびんで ジュースを どうぞ

[オルガン] *じりしの音

ソ ド ミ ソ



5

おくの たなの ちやいろの こびんは
リンロンロン ランリンロン のどをうる おして
リンロンロン ランリンロン なみなみと ついで

1 2

いつも ピッカピカ まほうのこび びんです
いつも ごきげん ならんででか けます
のめば ごきげん うたもはず みます

〔リズムばんそう〕 ⑦-⑧をさんこうにして、くふうしましょう。

⑨いろいろな楽器の音色やリズムに気をつけて、楽しく合奏しましょう。

第5学年 学級会（話し合い活動） 学習指導案

公開 第2校時
教室 5年3組
指導者 伊藤策雄

1. 議題名 『みんなで楽しめるペア遊びの内容を決めよう』

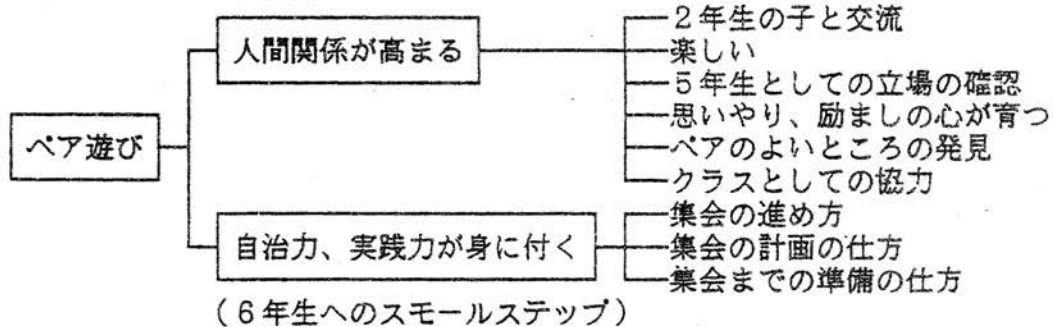
2. 議題設定の理由

5年生になり2年生と清掃活動を中心とするペアを組むことになった。5年生になった頃は2年生の子に教えることに喜びを感じ、2年生の子もよく言うことを聞いてくれた。しかし、1学期も終わる頃には言うことを聞いてくれない子も少しずつ増え注意することが多くなってきた。

そこで、2学期に入り、計画会で1学期はほとんど2年生との交流がなかったのもっと2年生のみんなと楽しく遊んだりして、心を通わせる必要があるのではないかと考えペア集会を計画した。

3. 指導観

①議題のとらえ——価値観



5年生になりペアを組んで取り組んできたが、グループノートなどの意見からも子供たちなりに責任を持って頑張ってきたと言える。しかし、2年生の子を上手にリードできる子もいればできない子もいる。また、5年生の言うことをよく聞く子もいれば、聞かない子もいる。そんな子供同志がペアを組んでいるためうまくいっているペアもあるし、そうでないペアもある。そこで今回のペア遊びでは、2年生の子の無邪気さ、かわいらしさなどを感じさせ、頑張っていこうとする気持ちになって欲しいと思う。

また、ペア遊びを考える過程を通して、2年生のことを考え教え励ましてやらなければいけない立場を再確認させ、「とっても楽しかったよ。」と喜んでくれる2年生の声が自分の喜びにつながる経験をさせたい。さらに、2年生からアンケートなどを取る過程を通して2年生の5年生に対する思いや、考えを分かさせたい。

そして、この集会を計画、準備、実践をする中で、運営の手順や方法、考え方を学ばせ6年生への足場（スモールステップ）にさせたい。

②児童の実態

ペアに対する意識

ペアに対してどんな気持ちで接しているかアンケートをとった結果、「やさしくするようにしている、見本となるように行動している、いけないことは厳しく注意するようにしている。」という意見が多かった。

また、ペアをどう思うかというアンケートに対しては、「可愛らしい、素直、掃除をしっかりとってくれる。」のようによく感じている子と、逆に、「少しも可愛くない、しゃべってくれない、掃除中言うことを聞いてくれない。」のように困っていると感じている子の両面があった。

このように、意識の上ではペアの子をしっかりリードし、時にはやさしく、時には厳しく、見本となれるように心掛けているようだが、勝手な行動をするペアに手を焼いて困り、ペアを可愛らしくないと感じている子も出てきている状態である。

ペア集会に対する意識

ペア遊びをする日を10月から週に1回、学級遊びの中に入れて行なっているが教えるのが楽しい、一緒に遊ぶのが楽しいと答えている子が多く、ペア集会を楽しみにしている状態である。

ペアと一緒にやってみたい遊びについてアンケートをとった結果、5年生ではドッチボール、エイトジャンプをやりたいと答えた子が多く、2年生では、エイトジャンプと答えた子が圧倒的に多かった。

③学級集団づくり

1学期は4名のグループを作った。それは、一人一人がグループ内で意見が言えるように、また、友達の声もよく聞こえることを考え作った。しかし、4名ではフォロアーとなって班長をバックアップしてくれる子がなかなかいないと考え6名にしてもっと活発な話し合いをさせたいと考えた。

さらに、1学期の反省より、もっとグループ内で友達を大切に、教え合い励まし合いができるようにさせたいと考え、朝の会、帰りの会で生活バズの時間をとり、その日の目当てを決めたり、反省をしたりすることを決めた。具体的には「発表大賞をとろう」という目当てを決め、目標を達成するために話し合いが盛んになり、全体の場で発表できるように励まし合いもできるようになってきた。

それと平行してグループノートも輪番でまわし、必ず前の人に対する意見を書くように決めたところ「わたしは一生懸命発表しようと思うけど、いざとなると間違っていたらと考えてしまいなかなかできません。今度からは頑張って発表したいと思います。」⇒「わたしも初め発表できなかったけど、1回発表したら少しずつできるようになってきたので、〇〇さんも勇気を持って頑張ろう。」というようにグループ内の励まし合いができるようになってきた。

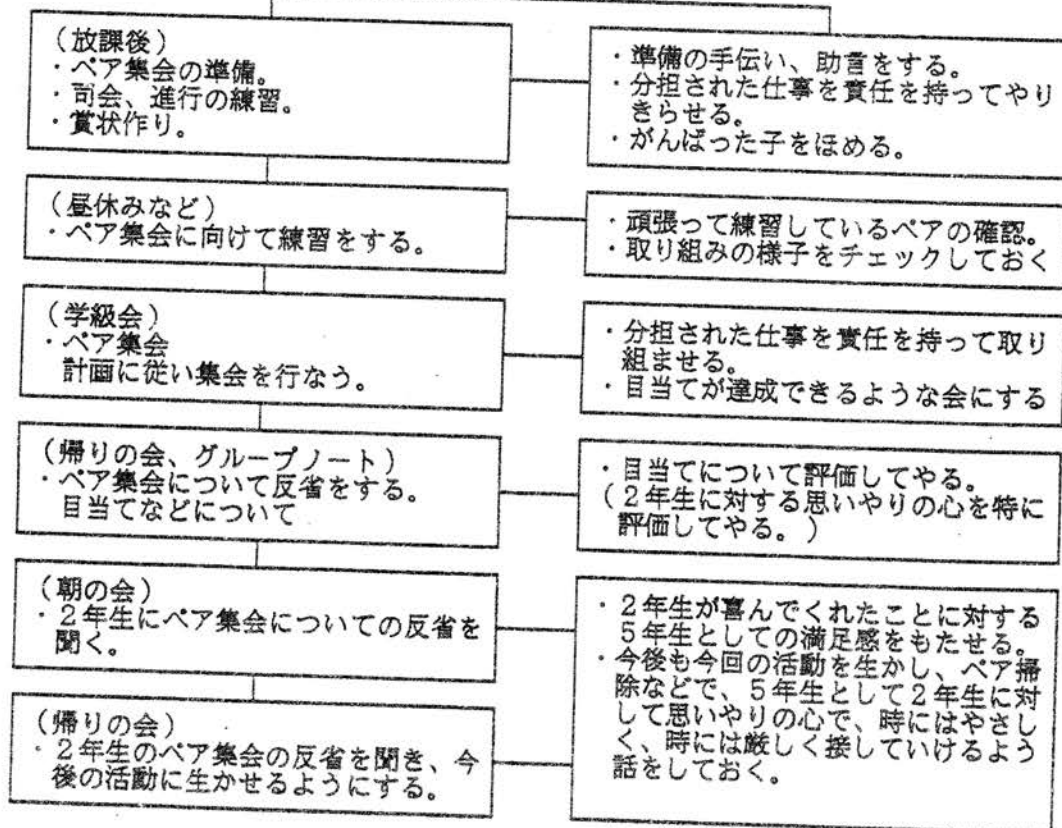
このように、2学期に入りグループでの話し合いの機会を毎日なるべく多くとり、グループで目当てを持って取り組ませた結果、話し合いも活発になり、教え合い励まし合い、そして、発表が増えてきた。しかし、時々話し合いをストップしてもう一度同じことをやらせ、みんなでその話し合いについて考えると、よく発表する子としない子に対する班長の指名の順が悪かったり、発表の少ない子が自信を持つように、うなずきながら聞いたり、「いい意見だよ。」と誉めてやることがまだまだ少ないのが実態である。

学級会活動

- 身に付けたい力
- ・下級生を思いやる心、励ます心、協力する態度。
 - ・下級生の喜びが自分の喜びとして感じられる。
 - ・集会活動の計画、準備、実行、反省の仕方。

活動の計画	指導内容
<p>(学級会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二学期第2回学級会で、話し合い活動、集会活動について計画する。 ペア遊びがしたい⇒実施決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを取る。 どんなペア集会にしたいか、ペアに対する気持ちを確認する。
<p>(昼休み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級遊びの中にペアと一緒に遊ぶ時間を週に1、2回とる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア遊びに対する意欲、問題点の確認する。
<p>(放課後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長と司会グループによる計画会。 ・アンケートの内容を考える。 どんなペア集会にしたいか どんな遊びをしたいのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなアンケートが必要なのか助言をする。 ・ペア集会に向けての取り組みについて、願いや方向を考えさせる助言をする。
<p>(放課後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担(司会グループ) ・アンケートをまとめ、目当てについてと遊びの内容について原案を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を生かした目当てを考えさせる。 ・時間や2年生のことを考えてた種目を考えるように助言する。
<p>(短学指)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画係の立てた原案について話し合う。 「目当てについて」「種目について」 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをする中で、ペア集会に対する意欲や願い、ペアに対する接し方など思い起させる。
<p>(放課後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや方法について話し合い原案を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめることを考えた、ルールや方法を考えさせる。
<p>(帰りの会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや方法について原案をもとに考え、決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画係りに自分たちの考えや願いをしっかりと話させる。 ・話し合いに対する助言をする。
<p>(朝の会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生に決定した内容を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の学級担任に決定したことを報告し、協力をお願いする。
<p>(放課後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会グループで話し合う内容について検討する。(目当てなど) ・司会、提案の練習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでどんな意見が出されるか予想し、どのように進めていったらよいか考えさせておく。 ・司会グループ、提案者への助言。

	話し合い活動	指導の援助
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 司会者による開会。 始めの言葉 学級の歌 議題の紹介 提案者による提案理由の紹介。 話し合いの内容紹介。 今日の話し合いの目当て、態度の目当ての確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生のペア集会对する話し合いの様子をビデオに撮り、願いが分かるように編集しておく。 エイトジャンプをやって、困ったことをまとめさせておく。 黒板に目当てを貼らせる。
さぐ	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い ア ペア集会までの取り組み方法を交流する。 話し合い イ 表彰の仕方について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員発言を大切にする。(友達の顔を見ながら聞かせる。) ペア集会までの取り組みも生かした表彰の仕方を考えさせる。 決まらない場合は多数決も可。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの内容をまとめ、決定事項の報告。 賞の発表。 先生の話。 司会係による閉会。 終わりの言葉 	<ul style="list-style-type: none"> 先生の話。 参加態度について つながりのある発言について 話し合いの内容について 司会グループについて ペア集会について



5. 本時の展開

①本時の目標

(認知目標) …楽しいペア集会になるように、取り組みの方法と
(態度目標) …友達の顔をしっかりと見て聞き、つながりのある発

②展開

	学習のねらい	話し合いの進行	機	児童の
つかむ	2年生のペア集会に対する願いがわかり、エイトジャンプの困っている点を確認することができる。 今日の話し合いのめあてを確認することができる。	1. 司会者による開会 ・始めの言葉、学級の歌 議題の紹介 2. 提案者による内容の紹介 3. 話し合いの内容紹介	一 斉	○これより第4回 ・今日の議題は「 です。 ○提案者による提 ・ペア遊びでエイト えたことをま ・2年生がペア集 ・ペアと一緒に練 生としての喜び
	エイトジャンプの困っていることをもとにして、それを補うような取り組みの方法を工夫することができる。 ペア集会までの取り組みや、ルールのことを考えた表彰の仕方を出し合い、決定することができる。	4. 話し合い ア (取り組みについて) 5. 話し合い イ (表彰の方法について)	個 G 一 斉 個 G 一 斉	○取り組みの方法 ○考えた意見をグ ○全体の場で、ど ・20分休みを使 ・昼休みを使つ ・跳ぶタイミン ・私のペアは、 ・声を掛け合い ○取り組みを生か ○表彰の仕方につ ○全体の場で、ど ・2分間に跳べ ・声の大きかつ ・跳べなかつた ・よく練習して ・全チームに何
まとめ	話し合いの内容と決定事項を確かめ、ペア遊びに対する期待感を持つことができる。	7. 話し合いの内容をまとめ、決定事項の報告 8. 賞の発表 9. 先生の話 10. 司会係による閉会 終わりの言葉	一 斉	○今日の話し合い ・取り組みについ ・表彰の仕方 ○発表大賞、がん ○先生のお話を聞 ○ペア集会が楽し これで第4回学

③評価

(認知目標) …2年生の立場や自分達の立場を考えて楽しいペア遊びの内容
(態度目標) …友達の意見をしっかりと聞き、つながりのある発言をすること

表彰の仕方を考えることができる。
 言をし、全員話し合いに参加できる。

活動と予想される児童の反応	指導と留意点
<p>学級会を始めます。 エイトジャンプの取り組み方法と表彰の仕方を考えよう。」</p> <p>案理由の説明 トジャンプをやっている、困ったこと、直していきたいと考 めた表をもとにして紹介する。 会を楽しみにしている気持ちをビデオで紹介する。 習したり取り組む中で、ペアの子が喜んでくれることに5年 を持ちたいという気持ちを紹介します。</p> <p>えよう。(認知目標) う(態度目標)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生のペア遊びに対する話し 合いの様子をビデオに撮り願 いが分かるように編集しておく。 ↓ ペア集会に対する2年生の気持 ちを分からせる。 ・エイトジャンプの問題点を確認 する。 ・今日の目標を黒板にはらせ、し っかり、確認させる。
<p>について、一人一人考える。</p> <p>ループで交流する。</p> <p>んな取り組みがいいか意見交流をする。 って練習する。 てペアで練習する。 グを教えてやる。 まだ跳べないので教え、励ましてやる。 、跳ぶタイミングを教えてやる。 せるような表彰の仕方を考える。</p> <p>いての意見をグループで交流する。</p> <p>のような表彰の仕方がいいか話し合う。 た回数で順位を決め、表彰する。 たチームにスクラム賞をやる。 子が、跳べるようになったペアにがんばり賞をやる。 いたペアに努力賞をやる。 かの賞をやる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・励まし合いを生かし、全員発言 を大切にする。(参加意欲) ・友達の間を見ながら聞かせる。 (うなずきながら、励ましなが ら聞かせる。) ↓ 自分の意見に自信を持たせる。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">助言(表彰の仕方について) 「取り組みの過程に目を向け た表彰の仕方は考えられない だろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしても話がまとまらない時 には多数決を用いる。
<p>で決定した内容を発表する。 て決定したことを発表する。 定したことを発表する。 ぱり賞を発表する。 く。</p> <p>みですね。 級会を終わります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の話 <ul style="list-style-type: none"> ・参加態度について ・発言(態度)について ・話し合いの内容(認知)につ いて ・司会係について ・ペア集会について

を決定することができたか。(発言内容、決定事項)
 ができたか。(挙手、態度)

第6学年 音楽科学習指導案

公開 第2校時

教室 音楽室

指導者 新田恵子

1. 題材名 ひびきのある声で
2. 題材の目標 曲の感じを生かして、やさしく響きのある声で歌うことが出来る。
3. 教材群
 - a. 星空はいつも
 - b. かりがわたり
 - c. 山田耕稼の歌曲

4. 指導観

①題材及び教材「星空はいつも」について

「星空はいつも」は、大自然の美しさ、広大さへの畏敬の念を優しく暖かい心で見つめ、自らを高めようとする心情を歌った、愛のある曲である。柔らかく響きのある声を出しやすい音域と旋律であるため、美しい響きの歌い方を工夫するのに適している。

構成は、二部形式A(a a) B(b b)で、次のように成り立っている。

1フレーズ……	♪♪♪ のレガートの美しい旋律である。
2フレーズ……	後半 ♪ ♪♪♪♪♪♪♪ は、3フレーズへのつなぎと前半を別々締める役割である。
3フレーズ……	ややマルカート的で、気持ちの動きを表現している。合唱部分で、和声的な合唱になっている。
4フレーズ……	♩が再び用いられ、曲全体を安定させている。

以上のような特徴から、子どもたちに曲に対するイメージをふくらませ、気持ちを込めて美しい響きのある声で歌うことと他のパートを意識して合唱することを学習させたい。

②児童の姿態

二部合唱がきれいに響いて聴えるには、子どもたちの音色、音程、発声、音量のバランスなどいくつかの要素が必要とされる。現在の問題点は、発声の仕方がさまざまで、ピーンとはりのある声、響きのある太い声、平べったい声、のどに力を入れた声、しゃがれた声など音色に違いがでて、合唱してもなかなか響きのある合唱にならないことである。本教材では、呼吸・姿勢・発声の仕方(のどを開ける)などを通して、響きのあるやわらかい声で歌えるようにしたい。高音になるとのどを使って無理にどならないように自然に頭から抜けていくような発声を指導したい。

③学習集団づくり

グループ学習では、一人一人が自分をみんなの中に出していけること、その仲間がお互いを認めて支えあえる人間関係が育っていることが大切である。そのため、次の三点を大切に指導してきた。一つ目に、聴き役をやめ、自由バスを入れて、一人一人が感想を言うようにした。

二つ目にグループ学習の際、練習方法がはっきりせず、何をしたら課題解決できるかわからなかったために到達目標に対する練習方法段階表を作った。そして、自分やグループがどの段階にいるか、どんな練習をすると課題解決できるかを示した。

三つ目にグループ発表のかわりに、グループ学習をお互いに見合っクラス全員で学習方法を学んだ。

以上のようなことを大切にしながら、小集団学習を取り入れてみた。リーダーが一方的に教える学習では、教えられる側には満足感を得られない。グループ内の人間関係が充実しており、いっしょに学習することが楽しい手では、まだほど遠いが、小さなかたまりの中でも自分が聴かれ、みんなとやっているうちにできるようなったという喜びを感じられるようなグループ学習をめざしたい。

5. 単元指導計画 (全8時間 本時第2時)

身につけたい力

音楽的諸能力	態度
<ul style="list-style-type: none"> 歌詞内容を生かして、響きのある歌声で歌うことができる。 他声部との響き合いを聴き合って、せわらかく歌うことができる。 力度の響き合いを感得した合唱ができる。 旋律線の抑揚に沿って、強弱をつけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに様子を交えて表現しようとする。 曲の感じを生かして、気持ちを込めて表現する。 楽しい感じを自分でも感じよう。 グループごとに発表したり、練習をしようとする。

	1	2 (本時)	3	4
目標	歌詞内容をとりえたい表現豊かな歌い方となる。	創作的な旋律を流し二部合唱で歌う。	楽しい響きの二部合唱ができる。	情景を想像しながら気持ちをこめて歌いあうことができる。
つかむ	①「星はいつも」の発音とコードを聴き、情景想像をする。 ②歌詞内容、旋律から感じることと話し合う。	①「星はいつも」を斉唱する。 ②部分二部合唱のコードを聴いて二部合唱の良さを話し合う。	①「星はいつも」の二部合唱の発音とコードを聴く。 ②グループごとに役割分担する。 ③グループごとに二部合唱し、自分たちのグループの問題点を考える。	①「分りがわかる」の発音とコードを聴き、情景想像をする。 ②情景想像したことを話し合う。
さぐ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> やわらかく響きのある声で、ほめらかに歌うことができる。 </div> ③主旋律をレコードに合わせて、歌う。 ④響きのある声を出す練習をする。 ・姿勢作り ・息の仕方 ・口のあげ方 ・声の集め方 ⑤グループ学習で一人一人の出し方を確かめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 発音部を正しい音程で、歌うことができる。 </div> ③発音部の特徴について話し合う。 ④発音部を覚える。 ⑤グループ学習で発音部のポイントを歌えるようにする。 <練習段階表を調いる> ⑥グループ発表と自己評価をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> グループの合唱を響きのある二部合唱にしよう。 </div> ④グループごとの問題点を交流する。 ・発音の仕方 ・音程 ・響き ・音量バランス ⑦グループ練習をする。 ⑧グループ発表をする。	③かみの橋おぼろ子を思い浮かべたゆったりとほめらかに歌う。 ④主旋律をレコードに合わせて歌い、歌詞を覚える。 ⑤グループで主旋律が歌えるように練習する。 ・音程 ・リズム ・ゆたさ ・歌詞 ⑥グループごとに発表する。
まとめ	④ふんばりのある声で「星はいつも」を斉唱する。	⑦他のパートを聴きながら、二部合唱をする。	⑦全体で二部合唱をする。	⑤クラス全員で、歌詞を想像して歌う。
評価	歌詞内容を理解し、それを生かして歌うことができるか。	他のパートを聴き、正しい音程で歌えるか。	楽しい合唱の響きに親しんだか。	気持ちをこめてゆたかに歌うことができるか。

人間関係に関わる態度目標

- ・自分のつまずきをグループの中によしていくことができる。
- ・仲間をつまずきに対して、励まし合いながら解決することができる。
- ・仲間の進歩をいっしょに喜ぶことができる。

5	6	7	8
音程を正しくして二部合唱をすることが出来る。	響き合いを感じながら、三部合唱が出来る。	強弱を工夫して曲の山を生かした三部合唱が出来る。	歌曲の美しさを味わって聴くことが出来る。
①「かりがわたる」の合唱をする。	①「かりがわたる」を二部合唱する。	①「かりがわたる」を三部合唱する。	①「山田耕作的歌曲」のレコード鑑賞をする。
②二部合唱のレコードを聴いて、劇次的な選曲(中音部)に気づく。	②三部合唱のレコードを聴いて響き合いの美しさに気づくことができる。	②自分たちの合唱と、他合唱テープを聴き比べて、強弱、曲の山のあることに気づく。	②指揮をしながら、レコード鑑賞する。
③中音部の特徴の特徴について話し合う。	③低音部の選曲がわかる。	③どの部分に曲の山があったか。	③歌曲を聴いて、気づいたことを発表する。
劇次的な選曲を正しく音程を歌えるようにしよう。	他のパートを聴きながら低音部が正しく歌えるようにしよう。	クワーズの曲の山を生かした歌い方を工夫しよう。	三つの歌曲を比べて聴き、違いを見つけよう。
④劇次的な選曲を覚える。 ・オルガン ・オルガン+ピアノ ・レコード ・無伴奏	④低音部を覚える。 (音量バランスのテープを使用する) ・主・中(小)位(小) ・主・中(中)位(中) ・主・中(大)位(小)	④グループごとに、クワーズを生かすために、他のクワーズの強弱について話し合う。	④それぞれの特徴がわかる。 ・声の種類 ・演奏の形態 ・情景の変化
⑤グループごとに練習する。	⑤音量バランスのテープを使ってグループ練習する。	⑤グループ練習し、グループの作品を作る。	⑤作曲家「山田耕作」についての説明。
⑥音程正しく二部合唱する。	⑥響きのある声で三部合唱する。	⑥グループ発表する。	⑥レコードを聴きながら、口ずさめる。
⑦一番良いグループの作品を全校合唱する。			
自分のパートを正しく歌うことが出来る。	他のパートを意識しながら歌うことが出来る。	曲の山、強弱のある三部合唱が出来る。	曲調の違いをとらえて、選曲を口ずさむことが出来る。

6. 本時の展開

① 本時の目標

(認知目標) 副次的な旋律を正しい音程で歌うことができる

(態度目標) 一人一人が自分のつまづりがわかり、教え合う

② 本時の展開

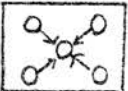
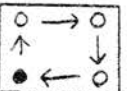
	学習のねらい	主な発問	形態
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気づくり ・自分なりの感想を持ち話し合えることができる。 ・二部合唱に気づき、本時のめあてをつかむことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔かい響く声で、あいさつをしよう。 2. 「星ははいつも」を歌いよう。 3. 話し合ったことに気をつけて歌いよう。 4. 今のまでのみんなの歌とどんな所がちがいますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">低音部を正しく歌うことができるようにしよう。</div> 	一人 一人 一人 一人 (一人)
	<ul style="list-style-type: none"> ・副次的な旋律をつかむことができる。 ・副次的な旋律を覚えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 5. もう一度、二部合唱の響きの美しさを聴いておきましょう。 6. 低音部のパートを覚えよう。 	一人 個人 個人
まど	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを持った練習により副次的な旋律を定着させることができる。 ・グループの高さを発表 	<ol style="list-style-type: none"> 7. グループごとに、低音部のパートを覚えよう。 8. グループで練習した結果を発表しよう 	一人 一人 一人
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の成果を味わうことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 全員で二部合唱しよう。 	一人 一人

③ 評価

(認知目標) 副次的な旋律が、正しく歌えたか。(一人)

(態度目標) 相手の立場に立って教え合えたか。(グループ)

1. ことができる。

学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点	準備					
<p>2組集まって楽しい音楽始めましょう 楽しい音楽始めよう</p> <p>「星はいつも」を歌い、自分たちの歌について話し合う。</p> <p>くできなかった所をもう一度練習して歌う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>自由な詠法</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>リズム法</p> </div> </div> <p>「星はいつも」の二部合唱を聴いて気に入ったことを発表する。</p> <p>グループ合唱に行っている。練習直しがある。リズム線が似ている。</p> <p>二部合唱の響きのうつくしさを感じて聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 響きのある声になるように姿勢作り、のびをあげるようにさせる。 顔の表情 姿勢の良い子を評価する。 前の歌い方と比べて良かった点を評価する。 二部合唱の楽譜を示し、視覚からも旋律、音の高さを受験させる。 本時の学習の目標にちなむものを感ぜしめる。 	<p>楽譜</p> <p>CD</p> <p>二部の楽譜</p>					
<p>方法</p> <p>コードに合わせて、オルガンの低音部を聴く。</p> <p>コード+オルガン(低音部)に合わせて歌う。</p> <p>オルガンの低音部に合わせて歌う。</p> <p>伴奏で、低音部を歌う。(1人で、仲間と)</p> <p>二部合唱してやる。</p> <p>リズム線を作るバス)</p> <p>一人のつきまきをグループの中で</p> <p>1. グループ練習の段階を決める。</p> <p>音楽をもとにグループ練習する。</p> <p>2. つかのグループが自分たちの成果を発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 練習方法をいろいろ行おう中で、自分ほどこまでできるかをわからせる。 <p>〈グループ練習のワンポイントアドバイス〉</p> <ul style="list-style-type: none"> やさしく「レ」の音のとり方 やさしく入り方 <table border="1" data-bbox="845 1220 1268 1467"> <thead> <tr> <th>練習方法段階表</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. オルガンの音をたよりに低音部が歌える。</td> </tr> <tr> <td>2. バスの音で、低音部が歌える。</td> </tr> <tr> <td>3. 友だちの声をたよりに歌える。</td> </tr> <tr> <td>4. 無人伴奏で歌える。</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの良い点、嬉しい点、を言い今後のグループ学習に生かす。 	練習方法段階表	1. オルガンの音をたよりに低音部が歌える。	2. バスの音で、低音部が歌える。	3. 友だちの声をたよりに歌える。	4. 無人伴奏で歌える。	<p>グループ練習表</p> <p>オルガン</p> <p>楽譜</p>
練習方法段階表							
1. オルガンの音をたよりに低音部が歌える。							
2. バスの音で、低音部が歌える。							
3. 友だちの声をたよりに歌える。							
4. 無人伴奏で歌える。							
<p>1. レポートの響きを感じて「星はいつも」を歌う。</p> <p>グループ学習)</p> <p>10学習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で、がんばった子を評価する。 						

星空はいつも

美龍明子 作詞
浦田健次郎 作曲

♩ = 88~96



1 ほし ぞ らは いつ も した し みを こめ て
2 ほし ぞ らは いつ も あこ が れを ひめ て



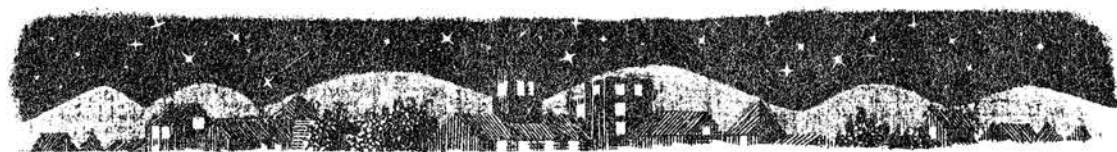
ぼく た ちの だ い ちを しず かに みつめ て る
ぼく た ちの だ い ちに しず かに よびか け る



やさ しく あお く も え あいの うた ささ や き(ささ や き)
やさ しく まどに ゆれ あいの うた ささ や き(ささ や き)



あこ が れる はる かなー みら いを ゆめ み よ と
かぎ り なく はる かなー うちゅうに たびだ て と



一、星空はいつも

親しみをこめて

ぼくたちの大地を

静かに見つめてる

やさしく青く燃え

愛の歌ささやき

あこがれるはるかな

未来をゆめ見よと

二、星空はいつも

あこがれをひめて

ぼくたちの大地に

静かに呼びかける

やさしくまどにゆれ

愛の歌ささやき

限りなくはるかな

うちゅうに旅立てと

第6学年 社会科学学習指導案

公開 第2校時
教室 6年3組
指導者 杉浦 正佳

1. 単元名 新しい政府ができた

2. 単元目標

明治天皇・板垣退助・伊藤博文・福沢諭吉などの働きを中心に、廃藩置県・四民平等・富国強兵・教育制度・大日本帝国憲法の発布、条約改正などの様子を調べ、開国以後、急速に近代国家への歩みを強めた過程をとらえることができる。

3. 指導観

(1) 単元について

小学校の歴史の学習は、歴史的事項を逐次取り上げ、時代を追っていくのではなく、その時代その時代を象徴する歴史的事項や人物・代表的な文化遺産を通して、各時代のイメージをつかむことであると考え。また、取り上げていく歴史的事象や人物については、児童の興味関心を重視して、内容が具体的に理解できるようなものにしていきたいとも考える。

本単元は明治時代にできた新しい政府が行っていった諸政策と国民生活の変化をとらえていくものである。江戸時代の幕藩体制国家から、政府を中心とした国家にかわり、新しい政府がどのような考え方で、政治や国づくりをすすめていたか、人々の生活は、どのように変化したかなどを人物や出来事を通してとらえさせていきたい。

明治時代の導入では、明治初期の銀座の様子やさし絵より、新しいもの（外国から来たもの）と、今までのものが入り混じっていることに、この時代のおもしろさがあることに気付かせ、明治維新らしさをとらえさせていきたい。新しい政府が行なった諸政策については、江戸時代の政策と比較できるものは比較させ、どこが違い、国民生活がどう変化していったかを理解させ、そして、それら政策を通して、日本が近代国家への道を歩み始めたことに気付かせていきたい。

この「新しい政府ができた」の単元は、日本という国家と外国との関わりが重要な要素を占めており、江戸時代までの日本の歴史とはかなりちがっていると考え。江戸時代までは、どちらかといえば日本という国家が中心となり、外国との関わりにおいても、日本があって外国があるという感じである。しかし、明治時代以後は、外国の存在が大きく、日本が外国の諸国に影響されながら、歴史を形成していったと考え。本単元では、歴史的事実を理解させるだけでなく、このような外国の存在・影響力も意識して、指導にあたっていきたい。

(2) 児童の実態

社会科において、資料の読み取りは課題づくり・課題解決の上で重要であるが、資料によっては、その本質をいつも確実に読み取れない場合がある。

資料が表やグラフの場合、その資料の数値が示す意味が理解できないことがよくある。数値がパーセントの時や同一資料の中に二つの要素が入っているときの資料の意味を理解させるには、詳しい説明を必要としている。少し高度な資料を導入で教師側から一方的に扱おうと、資料理解に時間が費やされ、肝心の課題追求までに行かないときがある。文章資料では内容の読み取りの能力差が大きい。

その反面、同じような視覚資料でも写真や絵、VTR、スライドでは、興味を示し意欲的に学習に取り組み資料の読み取りも、細かいところや資料のねらいに迫るところに目が向きつつある。特に、掛図のような資料では、意図的に資料の視点を絞ったり、これでもかこれでもかと何度も問い返しているうちに、資料の目をつけるべき点や資料より多くの事実を、少しずつ見付けてきている。しかし、資料から見付けたことに、「なぜ、……」とか「どうして……」というような問題意識を持つことができない。そのため、問題に対して追求していく力が弱かったり、追求していく意欲に欠けたりするときがある。

資料を確実に読み取り、めあてを持って意欲的に学習していく子を育てていきたいと考えている。

本単元でいえば、資料の読み取りに際して、江戸時代までの幕藩体制社会の様子と明治天皇や新しくできた政府の社会と比較させて考えさせて、問題意識を持たせ、追求させていきたい。

(3) 学級集団づくり

研究テーマ『確かな足場をもって、ねりあげのできる子をめざして』と関わらせて学級の授業を見たとき、授業を支えていく発言力・話し合っていく力が、学年始め、かなり低かった。

- ・挙手して発言となると発言者がだいたいいつも同じ児童になる傾向がある。
- ・授業に積極的な児童の発言につられやすく、自分の考えがあってもなかなか言えない。
- ・同じような考え、意見であると、自分の意見を引っ込めてしまい、発言しないため、自分の中に考えが深く浸透していかない。
- ・反応が弱いため、発言と発言のつながりが弱い。

このような実態より、学級みんなの力で授業を成立させいくために、一人一人が自分の考えをもち、その考えで授業に挑んでいかせるように、社会科を中心に指導してきた。

まず、資料や問題に対したときは、考えがもち易いように、発表し易いようにと、ノートに書く活動をさせた。そして、次に、各自の考えをグループという4～6人の小集団の中で、発表させ、自分の考えと友達の考えを比べ合わせたりして、自分の考えに自信を持たせたり、分からなかった部分を知らせたりした。また、自分の考えを持てなかった子は、グループの中では分からなかったという自分の立場を認識し、友達の考えを聞くことで、考えを持てるようにした。

一人一人が各自の考えを持てるようになってくると、話し合いをグループから全体に移したとき、意欲的に自分の考えを発表してくるようになってきた。

現在の指導としては、グループの話し合い活動が深まるために、話し合いの進め方を、カードを利用して、リーダーに指導している。

4. 単元指導計画

新 し い 政 府 が で き た	つきたい力	人間関係	リーダーを中心に話し合いができる。	
	・明治天皇・板垣退助・伊藤博文・福沢諭吉などの働きを中心に、明治維新後の政策のようすを調べ、開国以後、急速に近代国家へ歩み始めたことがわかる。	時	1	2
	・明治時代の歴史を年表や図、読み物などの資料を通して、とらえることができる。	目 標	明治時代の世の中の変化（政治や国民のくらし）について課題をもつことができる。	新しい政府は、日本を統一して治めるために、五箇条の発表し、廃藩置県を行ったことが理解できる。
	・我が国の歴史上の事実について考えたり判断できる。	つ か む	・明治の初めの頃の銀座の様子の絵を見て話し合う。 <TPの絵> 江戸時代とどんなところがちがうのだろう。	・新しい政府で中心になった人々について調べ話し合う。 新しい政府はどのような政治をすすめたのだろう
	・我が国の歴史について、意欲的に追求していくことができる。	さ ぐ る	・明治時代の様子の絵を見て、江戸時代の頃との違いを話し合う。 ・いつのことか ・建物、服装、乗り物… ・大きく変化した町の様子見て、江戸の人達はどう思ったか話し合う。	・新しい政府の基本方針を五箇条の御誓文から読み取る。 ・政府が出した政策を調べる。 廃藩置県に大名達はなぜ反対しなかつたのだろう。
		ま と め る	・当時の人々の気持ちを考えながら、この時代で調べていきたいことをまとめる	・新しい政府の立場、藩主(格)の立場で廃藩置県についてまとめ、発表する。
		評 価	・明治時代のおよそのあらましがわかり、これからの学習の方向がわかったか。	・江戸幕府による国の支配明治政府による支配について、図で表現できたか。

人間関係	リーダーが中心となり、友達に関わらせた話し合いができる。		
時	3	4	5
目標	明治維新の諸政策のうち、四民平等、富国強兵、地租改正について、その内容を理解することができる。	学校制度や文明開化について内容を理解し、学問や文化、生活の変化をとらえることができる。	板垣退助らの自由民権運動が大きな広がりを見せ、政府が国会を開くに至った経緯をとらえることができる。
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の厳しい身分制度の確認をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">江戸時代の身分制度はどう変わったのだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 明治初めの小学校の教室の写真を見て話し合う。学校ができたころの様子を調べる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">明治政府のもとで、学問や文化はどのようにすすめられたのだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 「自由民権運動演説会」のさし絵を見て、運動の厳しさについて話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自由民権運動はどんな主張をして、どのように広まっていったのだろうか。</div>
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> 士農工商の身分制度がどのように変えられたのか調べる。 新しい身分制度により、人々のくらしが、どのように変わったか調べる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ほかに政府が行ったことはないだろうか</div>	<ul style="list-style-type: none"> 生活の様子の変化や学問のことについて調べ、話し合う。 建物、服装、食べ物、乗り物、郵便、電話、電信、「学問のすすめ」 <p style="text-align: center;">「文明開化」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動の主張について調べ、話し合う。 板垣退助の意見書 植木枝盛の「自由という宝物」の考え方 運動の経過について調べる。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 明治政府が行った、諸政策をまとめ、発表する。 四民平等 富国強兵 地租改正 	<ul style="list-style-type: none"> 学校制度、文明開化について、現在と比較しながらまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動が広がり、政府が国会を開くに至ったことをまとめ、発表する。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 明治政府の政策（四民平等、富国強兵、地租改正）の内容がわかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校制度や文明開化により、生活が変化したことがわかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動の運動の内容を理解し、この運動より政府が国会を開かねばならなかったことがわかったか

人間関係		リーダーが中心となり、友達に聞かせた話し合いができる。	グループで調べたり、まとめたりできる。
時	6	7 (本時)	8
目標	政府が国会開設に備えて、憲法を制定しようとしたいきさつを知り、大日本帝国憲法の特徴をつかむことができる。	ノルマントン号事件をきっかけに不平等条約改正の声が高まり、政府は苦心の末、条約改正にこぎつけた事実をつかむことができる。	明治時代の新しい政府が行った諸政策について学習したことを歴史新聞にまとめることができる。
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・「国会を開く」と約束した政府は、まず何をしたか調べる。 ・憲法制定 ・ドイツの憲法を参考 <p>政府はどんな憲法をつかったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルマントン号事件のさし絵を見て話し合う。 ・事件のあらましを捉える <p>ノルマントン号事件のようなことが、なぜ、起こったのだろう。</p>	<p>明治時代の新しい政府が行った政策をまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートや教科書、資料集をたよりに、政策をまとめる。 ・廃藩置県 ・四民平等 ・富国強兵 ・地租改正 ・学校制度 ・文明開化 ・国会開設 ・大日本帝国憲法 ・条約改正 ・自由民権運動
さぐる	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の特徴についてしらべる。 ・天皇主権 ・陸海軍は天皇が統率 ・国民の権利は法律で禁止 <p>憲法に対して国民はどんな意識だったのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルマントン号事件が起こったわけを話し合う。 ・船長側の立場 ・日本国民の立場 <p>不平等条約は、簡単に改正できたのだろうか。</p>	
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の特徴を表にまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正までの長い道りを調べ、ノートにまとめ発表する。 	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の特徴を理解し、ノート(表)にまとめることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルマントン号事件の背景がわかり、条約改正にこぎつけた政府の苦労がわかったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治初期の出来事を歴史新聞にまとめることができたか。

5. 本時の目標

認知目標：ノルマントン号事件をきっかけに不平等条約改正の声

態度目標：不平等条約に対して、自分の考えを持って、グループ

6. 本時の展開 (7/8)

段階	学習のねらい	主な発問	形態	学習活動
つかかむ	・前時の復習と本時のめあてを確認できる。	・前の時間で勉強したことは何でしたか。 ・今日の勉強のめあては「条約改正までの……………」です。	一斉	○前時の学習内容を ・国会が開かれるの ・憲法の内容の中心 ○本時のめあてを備
	・ノルマントン号事件のあらましをつかむことができる。	(さし絵の提示) ・何か気付くことはないかな。 (ノルマントン号事件のあらましを説明する。)	一斉	○挿絵を見て、絵か ・海の中に人がいるかけてている人たは日本の人じゃな
さぐる	・ノルマントン号事件が起きた原因を理解し不平等条約改正までの経過を、調べることができる。	・船長側（イギリス）、日本国民側になって考え、自分の考えをノートに書こう。 ・グループで話し合おう。 ・みんなで話し合おう。	個 G 一斉	○ノルマントン号事 考え話し合う。 ・江戸時代に結んだイギリスの裁判だ(船長側) ・イギリス人が日本という条約が結ばう。 (日本国民側) ・23人の人を見殺ていかなくてはい ・自分の国の人を水 ・船長だけでなく、
		・もし、水死した乗客がイギリス人だったら、船長はどうなっていたのだろう。 ○ 不平等条約を、簡単に改正できたのだろうか。		
まとめ	・ノルマントン号事件がきっかけとなり、不平等条約が改正されたことがわかりそれをノートにまとめ、発表できる。	・日本政府が、こんな不平等条約をどうやって改正していったか調べよう。 ・調べたことや友達の話をも参考に、今日の学習でわかったことをまとめよう。	一斉 個	○年表を通して、条 ・ノルマントン号事 ・ノルマントン号事 ○学習のまとめをノ (発表例)・江戸時代に結んだ不平等条約 するため政府は何人も役人を外国へ行か

本時の評価

認知目標：不平等条約ために引き起こされる被害を理解し、条約改正まで

態度目標：不平等条約について考え、全員が発言(グループ学習も含めて)

が高まり、政府が苦心の末、条約改正にこぎつけた事実をつかむことができる。
 の話し合いに参加することができる。

動 と 予 想 さ れ る 児 童 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
<p>振り返る。)にそなえて、大日本帝国憲法がつくられた。) 主権は天皇にある。) 陸海軍は天皇が統治する。) 国民の権利は法律で制限される。)認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のノートを参考にするように指示する。 ・掲示してある山登りの図に注意させる。
<p>ら読み取れること、考えられることを発表する。)。→沈みかけている船があるから、海の中の人はおぼれよう。・ボートの旗は日本のではない。→乗っている人いようだ。・おぼれている人を助けない。(パイプをくわえて笑っている)をのたろう? ○事件のあらまし、問題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見た感じ、考えられることを語らせる。 ・沈みかけている船、溺れている人とボートの人との違い、ボートの旗に注意させる。
<p>事件が起こったわけ、事件の判決に対する日本国民の憤りを) 不平等条約のため、船長を日本で裁判できない。船長は、) から、無罪になってしまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約の内容を前に立ち戻って思い出させる。
<p>人に対して罪をおかした場合は、イギリス領事が裁判する) れているから、イギリス側で無罪となれば無罪になってし) しにしておいて、無罪とはおかしい。そんな条約はなおし) けない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約の内容を押さえた上で、船長側、日本国民側の立場を考えさせる。 グループ内 1・3・5番…船長側 2・4・6番…日本国民側
<p>死させたのだから、厳しい罪がある。) 船員全員が重い罪になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乗客をイギリス人にかえて考えさせることで、条約の内容がいかに不平等であったかをとらえさせる。
<p>約改正までの長い道のりを調べる。) 件から、40年ぐらいかかって条約改正をしている。) 件以外にも、いっぱい事件がある。(ハートレー事件、コレラ騒動)) ートに書き発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正年表をもとに改正までの政府の苦労をつかむ
<p>内のために、ノルマントン号事件のように罪をおかしたイギリス人の船長が無罪になった。こんな不平等な条約を改正) きて、条約を改正していった。そして、日本の法律でイギリス人を裁判できるようになったりした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートには各児童の言葉でまとめさせる。
<p>の大まかな経緯をノートにまとめることができる。(ノート、発言)) できたか。(発言)</p>	